山梨県北巨摩郡高根町

妻の神遺跡
西原北遺跡
大明神遺跡
薬師堂遺跡
当り町遺跡
薬師堂東遺跡
高内遺跡
原家の前遺跡
一本松遺跡
前原遺跡

県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1997．3

高根町教育委員会
山梨県峡北土地改良事務所

山梨県北巨摩郡高根町

妻の神遺跡
西原北遺跡
大明神遺跡
薬師堂遺跡
当り町遺跡
薬師堂東遺跡
高内遺跡
原家の前遺跡
一本松遺跡
前原遺跡

―― 県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ――

1997．3

高根町教育委員会
山梨県峡北土地改良事務所

序　　文

八ケ岳南麓の豊かな自然に育まれた高根町は、広大な裾野に伸びやかに広がった青空と水と緑の高原の町として今日まで発展しております。

この発展の基盤には永い歴史と人類のたゆまぬ努力と英知の蓄積があり、その歴史も時代の推移とともに忘れさられた部分が多いと思われます。

当町では昭和55年から農林水産省から補助金をいただき農業基盤整備を行い、この事業の一環としてほ場整備事業を行ってまいりました。

これに伴い土地に埋もれた歴史・埋蔵文化財の調査が数多く行われ、大きな成果を上げております。

これらは、先人たちが大地に残してくれた歴史・文化のメッセージであり、昨日から明日へ向けての基礎資料となっております。

今回報告されるのは村山西割西工区から西原北遺跡、村山西割東工区から高内遺跡・一本松遺跡・当り町遺跡、堤工区から妻の神遺跡、東井出工区から前原遺跡、長沢工区から大明神遺跡・薬師堂遺跡・薬師堂東遺跡・原家の前遺跡の10遺跡で、調査された内容は縄文時代前期から断続的ではありますが近世までの、先人の生活の知恵・営みなどの遺跡に触れることにより、私たちの住む高根町の歴史の一端が記録保存というかたちではありますが、それぞれについて詳述されておりますので、御高覧いただき活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、この事業に御協力いただきました地元の方々をはじめ、山梨県峡北土地改良事務所・山梨県教育委員会学術文化課・山梨県埋蔵文化財センター等の関係各位に深く感謝申し上げます。

平成9年3月31日

高根町教育委員会
教育長　坂　本　基　可

例　　言

1．本書は、山梨県北巨摩郡高根町地内の埋蔵文化財の発掘調査報告である。
　報告する遺跡は、下記のとおりである。

1．妻の神遺跡	高根町　堤	昭和63年度調査	堤　工区
2．西原北遺跡	高根町村山西割	昭和63年度調査	村山西割工区
3．大明神遺跡	高根町　長沢	平成元年度調査	長沢　工区
4．薬師堂遺跡	高根町　長沢	平成元年度調査	長沢　工区
5．当り町遺跡	高根町村山西割	平成２年度調査	村山西割工区
6．薬師堂東遺跡	高根町　長沢	平成２年度調査	長沢　工区
7．高内遺跡	高根町村山西割	平成３年度調査	村山西割工区
8．原家の前遺跡	高根町　長沢	平成３年度調査	長沢　工区
9．一本松遺跡	高根町村山西割	平成４年度調査	村山西割工区
10．前原遺跡	高根町東井出	平成６年度調査	東井出工区

2．発掘調査は、高根町教育委員会が実施した。
3．発掘調査によって得られた出土遺物・記録図面及び写真等は、高根町教育委員会で保管している。
4．発掘調査組織
　調査主体 …… 高根町教育委員会
5．発掘調査参加者（順不同・敬称略）
　榎本　勝、植松　種三、川端下圭子、清水すみか、植松　幸子、原藤まさみ、浅川えみ子、白倉カツ子、原藤　栄、八巻　栄、八巻　久子、田中　恒子、植松志げ子、吉沢とみ子、中嶋　英子、浅川　浅江、坂本　明子、赤岡　里子、浅川　春枝、浅川今朝美、浅川　花子、植松　啓子、植松　小菊、三澤ふみ江、仲嶋まゆみ、大柴　芳子、菊原　幸男、菊原すえ子、清水よ志み、新海　登子、窪田　金博、浅川　利一、清水　貞子、小林　昭子、中嶋　當子、高柳　静香、奥水　良教、清水まさ子、清水　島子、小林　文治、半田　初子、菊原はつよ、八巻　知子、日向たまの、田中　昭子、古屋　房子、永関富貴男、小宮山きよ、吉田加代子、浅川千鶴子、細田　絹代、浅川　房子、三井　光恵、藤森　里美、相吉よしえ、藤森かねよ、藤森八千代
6．遺物整理参加者（順不同・敬称略）
　榎本　勝、高柳　静香、仲島まゆみ、川端下圭子、植松　梅子、白倉カツ子、原藤　栄、小池　澄子、原藤まさみ

凡　　例

1．遺構エレベーション・セクション図において、水平線横の数字は海抜高度（m）を示す。
2．縮尺は、各挿図ごとに示してある。
3．方位は、磁北を示している。

目　　次

序　　文
例　言・凡　例
第Ⅰ章　調査状況 …… 1
　ⅰ　調査の経過 …… 1
　ⅱ　周辺の地形 …… 1
　ⅲ　周辺の地質 …… 2
　ⅳ　遺跡の立地 …… 2
　ⅴ　周辺の遺跡 …… 2
　ⅵ　調査の方法 …… 4
第Ⅱ章　妻の神遺跡 …… 16
　ⅰ　遺跡の環境 …… 17
　ⅱ　検出された遺構 …… 17
　ⅲ　出土した遺物 …… 25
第Ⅲ章　西原北遺跡 …… 39
　ⅰ　遺跡の環境 …… 40
　ⅱ　検出された遺構 …… 40
　ⅲ　出土した遺物 …… 42
第Ⅳ章　大明神遺跡 …… 44
　ⅰ　遺跡の環境 …… 44
　ⅱ　出土した遺物 …… 44
第Ⅴ章　薬師堂遺跡 …… 45
　ⅰ　遺跡の環境 …… 45
　ⅱ　検出された遺構 …… 46
　ⅲ　出土した遺物 …… 57
　第Ⅵ章　当り町遺跡 …… 66
　ⅰ　遺跡の環境 …… 67
　ⅱ　検出された遺構 …… 67
　ⅲ　出土した遺物 …… 68
第Ⅶ章　薬師堂東遺跡 …… 70
　ⅰ　遺跡の環境 …… 70
　ⅱ　検出された遺構 …… 71
　ⅲ　出土した遺物 …… 74
第Ⅷ章　高内遺跡 …… 75
　ⅰ　遺跡の環境 …… 75
　ⅱ　検出された遺構 …… 76
　ⅲ　出土した遺物 …… 84

第IX章　原家の前遺跡 …… 87
i　遺跡の環境 …… 87
ii　検出された遺構 …… 89
iii　出土した遺物 …… 99
第X章　一本松遺跡 …… 112
i　遺跡の環境 …… 113
ii　出土した遺物 …… 113
第XI章　前原遺跡 …… 115
i　遺跡の環境 …… 115
ii　検出された遺構 …… 116
iii　出土した遺物 …… 122

第Ⅰ章　調　査　状　況

i　調査に至る経緯と経過

高根町では、水田の有効利用・高効率化等を図るため昭和53年度より国の補助を得ながら農地の区画整理事業＝基盤整備事業を積極的に実施している。このことにより、山梨県峡北土地改良事務所及び町振興課・産業観光課より埋蔵文化財の有無についての問い合わせがあり、当教育委員会で確認調査を行った。確認された遺跡は、昭和63年度が西原北遺跡・妻の神遺跡、平成元年度が大明神遺跡・薬師堂遺跡、平成２年度が当り町遺跡・薬師堂東遺跡、平成３年度が高内遺跡・原家の前遺跡、平成４年度が一本松遺跡、平成６年度が前原遺跡があることが判明し、記録保存を目的とした緊急発掘調査を当教育委員会が主体となり実施した。

実施した遺跡の調査期間は、次のとおりである。

妻の神遺跡	昭和63年７月22日～昭和63年９月29日
西原北遺跡	平成元年２月１日～平成元年２月28日
大明神遺跡	平成元年７月１日～平成元年７月10日
薬師堂遺跡	平成元年７月１日～平成元年10月31日
当り町遺跡	平成２年10月１日～平成２年10月31日
薬師堂東遺跡	平成２年11月１日～平成２年11月27日
高内遺跡	平成３年７月１日～平成３年９月30日
原家の前遺跡	平成３年10月１日～平成３年12月27日
一本松遺跡	平成４年７月１日～平成４年８月31日
前原遺跡	平成６年７月１日～平成６年８月10日

ii　周辺の地形

高根町は、山梨県の北西部に県境として聳えている八ケ岳の南麓に広がる高原の町である。この連山は、日本列島を東西に二分する大地溝帯上（フォッサマグナ）に噴火した火山性の山であり、噴出物の特性のため裾野は比較的なだらかな地形（台地状を呈する）であるが、町内東部は飯盛山火山群に属するため、この周辺はやや急峻である。

八ケ岳からつづくこの台地は、国道141号線の韮崎から小諸へ抜ける途中の弘法坂付近で合流する大門川と川俣川によって２つに区分することができ、北側は標高約1,000ｍ以上の亜高山帯に属し、南側は標高約600ｍから約900ｍの範囲で高根町の主要部を占め、基幹作物は水稲等を主としている。

町の東は、八ケ岳の赤岳を水源とし南流する川俣川・大門川（須玉川）によって激しく浸食された比高差約100ｍを測る垂直に立った崖が20数㎞南北につづき、北は前述の南北に折り重なるように列になった八ケ岳連峰によって隔絶された地域となっている。唯一開けた西側も隣町である長坂町及び小淵沢町

の西側を南流する釜無川（富士川）によって隔絶されているが、この両河川に挟まれた台地は、南北20数km、東西の最大幅10数kmを測り、台地上を流れる小河川は南流し、前述の両大河川に合流している。

iii 周辺の地質

八ケ岳は、本州を中央で二分する大地溝帯＝糸魚川静岡構造線上に噴火した火山群で、その生成時期は地質年代で第三紀末から第四紀の洪積世前期といわれ、形成している溶岩はいわゆる輝石安山岩類で標高1,000m以上に分布し、それ以下の広大な山麓の斜面は、熔岩の粉砕物や、噴火による堆積物からなる火山質腐植土の黒褐色をした表土が覆っている。

標準的な土層堆積状態は上から、黒色土＝耕作土（20～40cm）、関東ローム層（3～4m）、御岳山を起源とする細粒軽石層いわゆる鹿沼土（40～60cm）、白色系粘土層（10～20cm）、暗赤褐色礫粘土層（八ケ岳火砕泥流）となる。

iv 遺跡の立地

各工区の遺跡について個々に説明していきたい。

村山西割工区内では、西原北遺跡・当り町遺跡・高内遺跡・一本松遺跡が所在した。西原北遺跡は、標高約741mを測る水田中の微高地上に所在した。当り町遺跡は、標高約720mを測る、尾根状の南北に延びる台地上に所在した。高内遺跡は、南北に延びる尾根状の台地標高約700mを測る西斜面の微高地上に所在した。一本松遺跡は、標高約712m前後を測る、南北に延びる尾根状の台地から緩やかに西傾斜する微高地上に立地していた。

堤工区では、妻の神遺跡の調査を行った。この遺跡が所在した場所は、堤山より南に張り出した南北に延びる標高約811m前後を測る微高地上に立地していた。

長沢工区では、大明神遺跡・薬師堂遺跡・薬師堂東遺跡・原家の前遺跡の調査を行った。大明神遺跡は、船形神社（諏訪神社）参道の南で広域農道西側の微高地上の標高約920mに所在した。薬師堂遺跡・薬師堂東遺跡は、県道長沢小淵沢線と広域農道が交差する東南方向で標高約915mを測る微高地上に所在した。原家の前遺跡は、県道長沢小淵沢線と広域農道が交差する東北方向で標高約930mを測る台地上に所在した。

東井出工区では、前原遺跡の調査を行った。この遺跡は、町道主幹線北割玉山線のＪＡ梨北農業組合安都玉支所から北へ300mの標高約868mを測る台地上に所在した。

v 周辺の遺跡

八ケ岳南麓の台地上（噴火による山体崩壊の流失を起源とする）には南流する小河川が数条あり、この小河川によって開析され、肥沃化された大地は古くから開拓されて現在にいたっている。村山西割は

宮地・宮頭・須細工・南原・長林・西原・赤羽根・辻・大久保・広尾・才楽・道上・向村・寺の前などの小集落の集まりを指している。この地域の北部は小河川が多く南流し、南部に流下するに従い水量が増えることにより、台地は激しく浸食され沢と台地との比高差が増していくことになる。堤工区内に所在する集落は堤のみであり、北と東は堤山・旭山の比較的高い山、西は比較的低い丘陵状の尾根により遮られ、唯一開いている南も雲雀沢に沿って道がつけられている。長沢工区内には須玉川の渓谷沿いに立地する久保長沢と、その西の高台上にある原長沢に分かれているが、今回報告する遺跡は、すべて原長沢に所在した。東井出は江戸期において長沢の枝郷であったが、明治7年12月9日安都玉村発足時には堤・村山北割・長沢などの旧村と共に東井出として記載されている。これらの工区に存在する遺跡は台地自体の幅が広いところもあれば、馬の背状にやせている場所もある。昭和37年に作成された県下の埋蔵文化財分布調査台帳によれば、高根町内では42ヶ所の遺跡が記載され、昭和61年に高根町教育委員会が行った埋蔵文化財分布調査では142ヶ所の遺跡が確認されている。この分布状況によれば、標高800m以下の台地上は遺跡が非常に濃い状態で確認されいてる。ほ場整備事業が行われる田畑はこの台地上から一段下がった場所ないしは低湿地であり、古くから耕作が行われ幾世代に亘って面積を増やしながら、徐々にではあるが台地上にも水田を広げてきたものと思われ、普段の耕作では水田中の不透水層より下部には耕作が及ばないことから遺跡としては認知できない状況であり、今回報告する遺跡はほ場整備事業に先立つ事前調査により確認されたものである。分布調査により確認されたこれらの遺跡の多くは、縄文時代中期・平安時代・中世を中心としているが、発掘調査が進むに従い旧石器時代・縄文時代前期・後期・晩期の遺物の散布のほかに中世・近世の陶磁器・石造物が出土している。

以下にこの周辺で発掘調査及び踏査によって確認された遺跡について若干の説明をしてみたい。

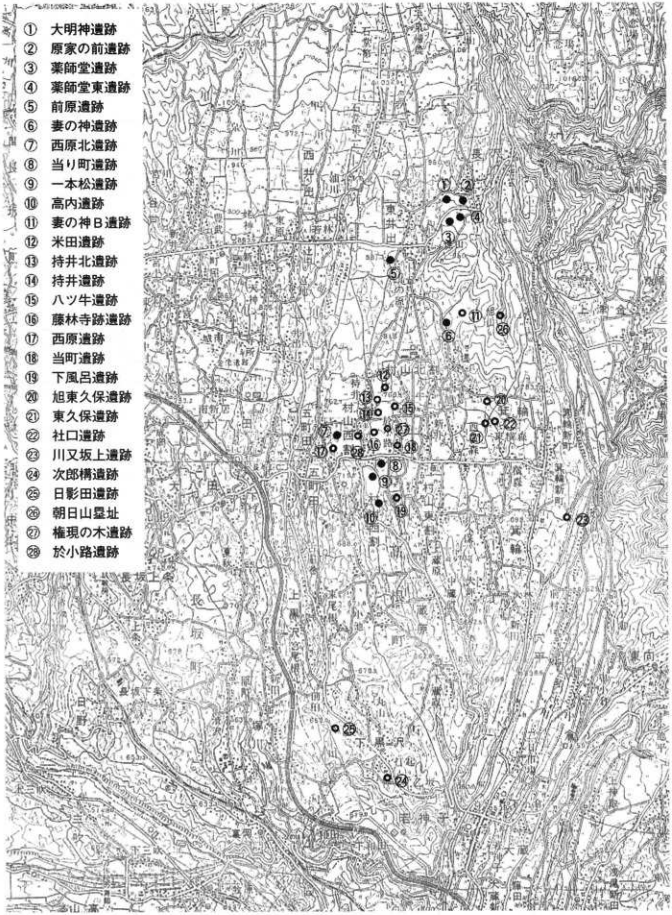
8は『当り町遺跡』で、近世の土壙墓4基が検出され、近世の葬送儀礼・墓の在り方を示す遺跡である。12は『米田遺跡』で縄文時代前期の集落址と中世の土坑、近世の井戸が検出されている。13は『持井北遺跡』で、縄文時代前期の遺構・遺物が確認されている。14は『持井遺跡』で、縄文時代中期の住居址1軒、埋甕2基、土壙11基（中世の土壙墓1、時期不明10）時期不明の溝1条が検出され、中世の葬送儀礼・墓の在り方を示す遺跡である。15は『八ッ牛遺跡』で、平安時代と中世の遺構が確認されいる。16は『藤林寺跡遺跡』で、縄文時代中期・平安時代、中世の遺構・遺物が確認されており、中世の葬送儀礼・墓の在り方を示す遺跡である。19は『下風呂遺跡』で、縄文時代中期から後期にかけて遺物が出土している。20は『旭東久保遺跡』で、平安時代の遺物、中世の陶磁器と掘建柱建物址群が検出されている。21は『東久保遺跡』で昭和58年に県営ほ場整備事業に伴う発掘調査を行い平安時代の鍛冶遺構を伴う集落址が検出されている。22は『社口遺跡』で、縄文時代早期・中期・後期、平安時代の集落址が検出されており、それらの状況から比較的大規模な遺跡として周知されている。26は『朝日山塁址』で朝日山の山頂に武田氏によって烽火台が造られたとされ、その後天正10年（1852）徳川氏、北条氏対陣の折、北条氏によって築かれたとされる砦である。

27は『権現の木遺跡』で高根町村山西割2784番地外を中心に存在し、縄文時代中期・平安時代・中世の土器が分布調査によって確認されている。28は『於小路遺跡』で高根町村山北割3160番地外を中心に存在し、平安時代の土器が分布調査によって確認されいる。

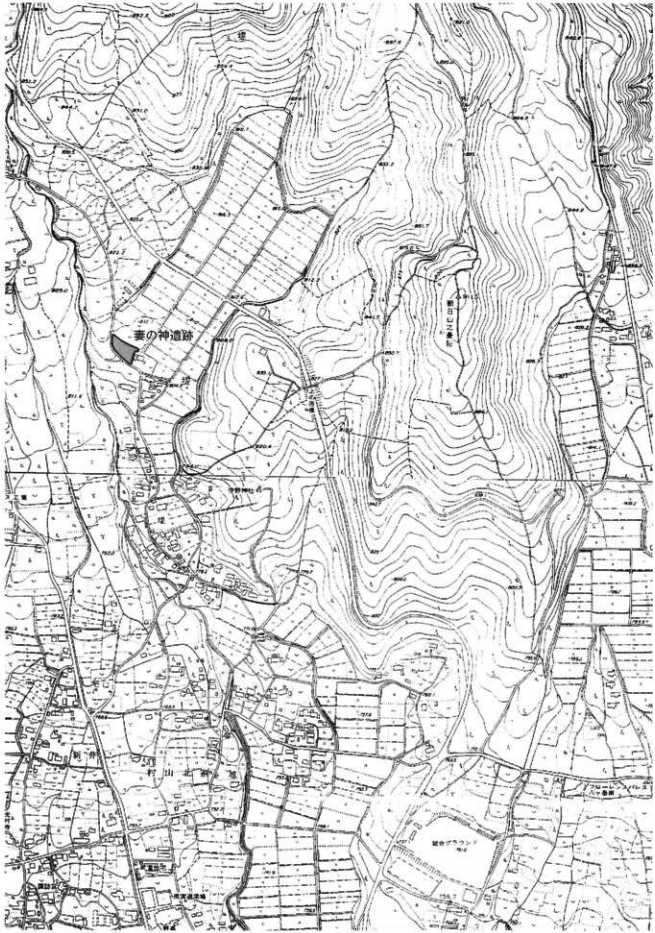
vi 調 査 方 法

調査対象面積は、年度によって工事実施面積が異なるが平均的には約5ha実施しているため、全体的な工程の中で土の切り盛りがあり、切り土される場所を中心に試掘調査を行い遺構・遺物の確認を行った。重機によって表土を除去し、遺構の確認及び掘り下げは人力によって行った。

遺構内に任意で10～20m四方のグリッドを設定し、その中を4等分してサブグリッドを設定して遺構の確認状況に合わせて調査を行った。

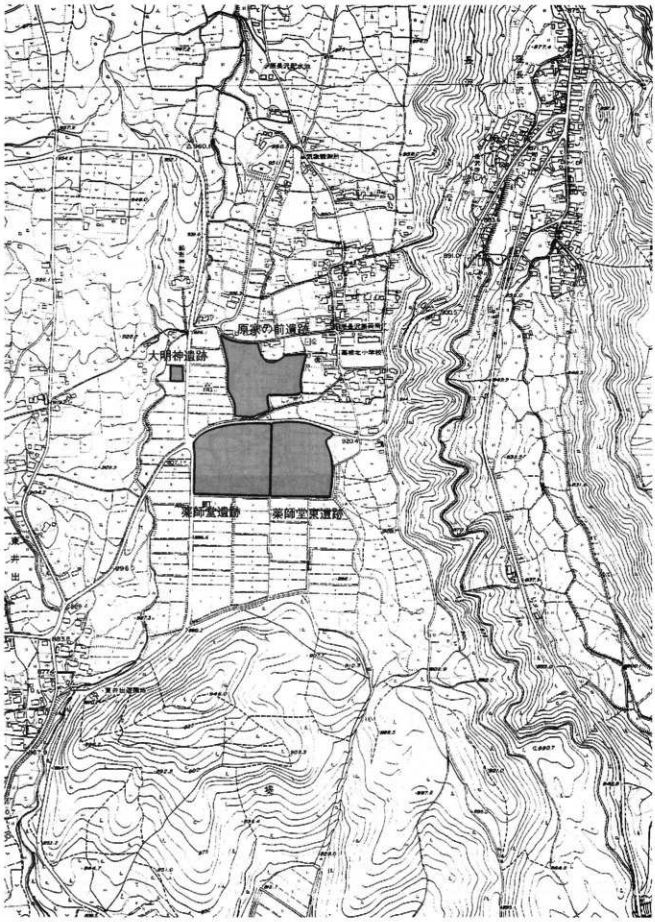


第1図　調査遺跡位置図（1／50,000）

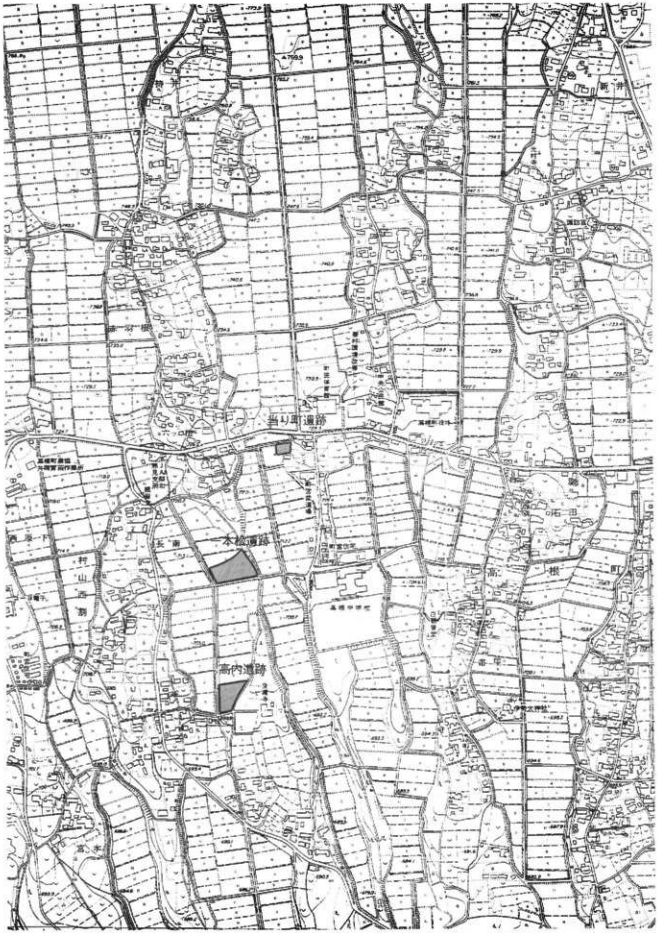


第2図　調査遺跡位置図（1／5,000）

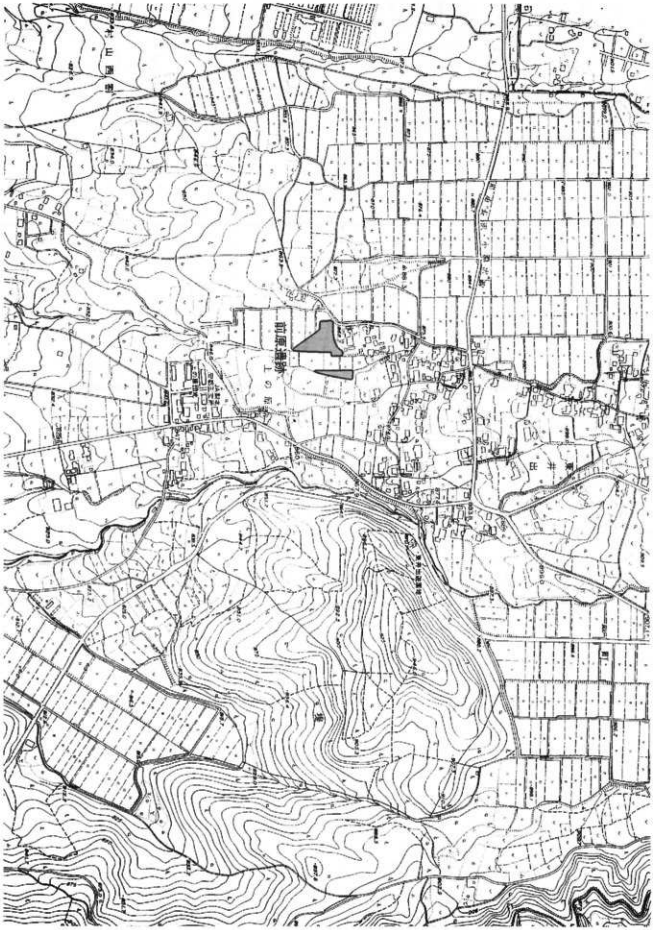
第３図　調査遺跡位置図（１／5,000）



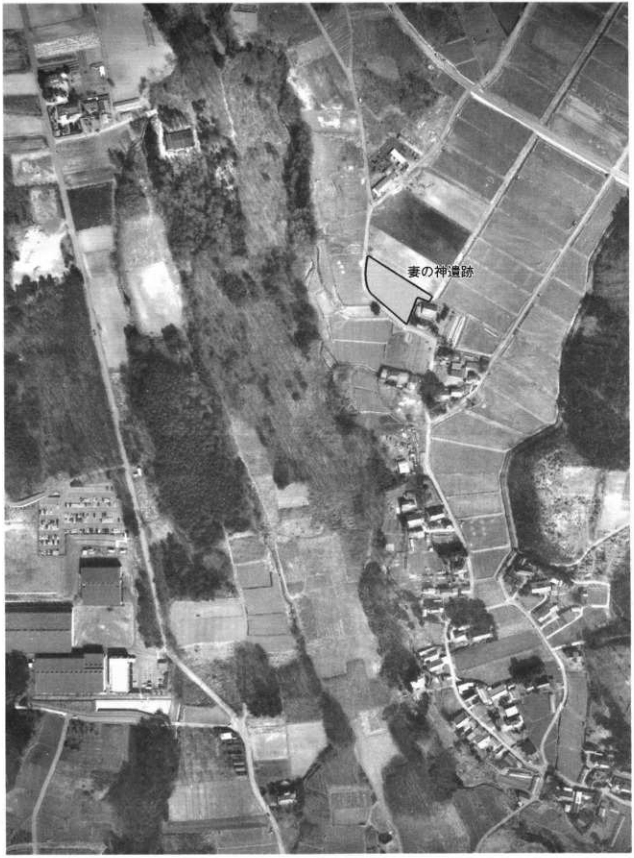
第4図　調査遺跡位置図（1／5,000）



第5図　調査遺跡位置図（1／5,000）



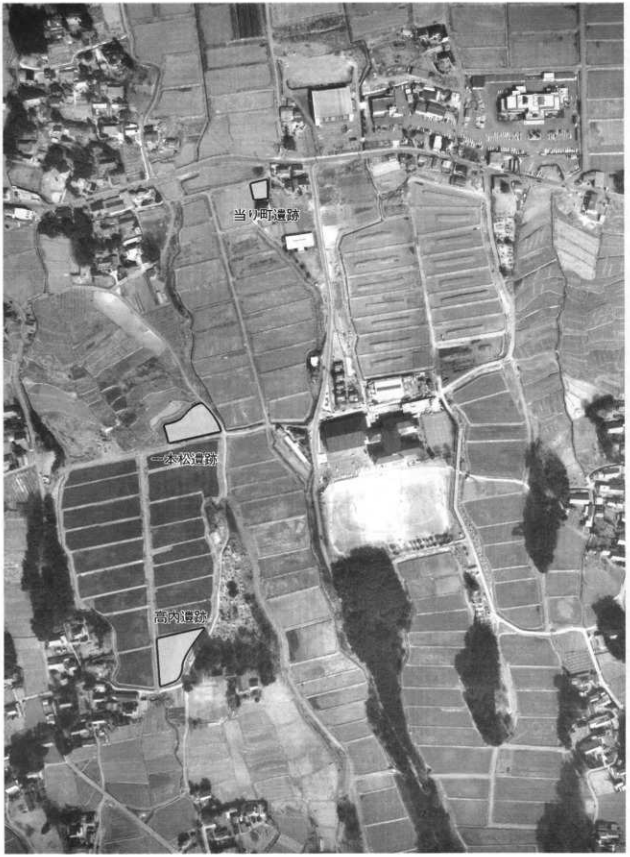
第６図　調査遺跡位置図（１／5,000）



図版1　遺跡位置（1）

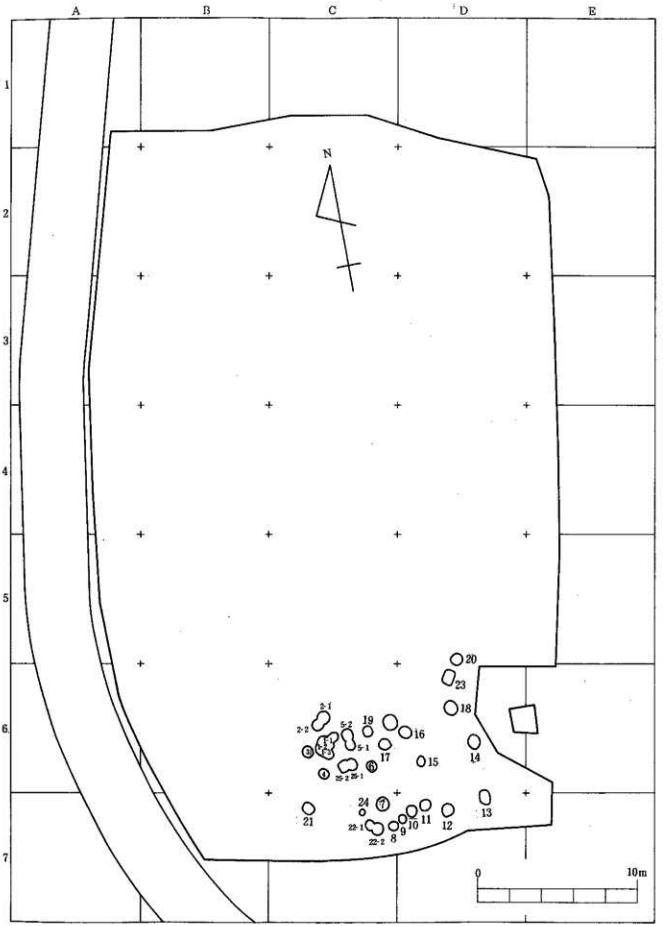
図版２　遺跡位置（２）

図版3　遺跡位置（3）



図版4　遺跡位置（4）

図版5　遺跡位置（5）



第1図　妻の神遺跡遺構分布図（1／250）

第Ⅱ章　妻の神遺跡

i　遺跡の環境

本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町堤字西の入4,547番地外に所在し、標高約810ｍを測る。地形は、堤山（標高950ｍ）から続く南傾斜面に位置する。「甲斐国志」及び「高根町誌」によれば、大悲山慈聞院という寺の存在を知ることができ、この付近には通称で「卵塔場」「ビョウショ（廟所）」とも称する場所がある。「お釜地蔵」と称する地蔵尊が地内にある。付近より板碑１基発見されている。寺跡と見なされる場所があることから、寺院の存在が確認でき、その寺域から墓壙が検出された。

ii　検出された遺構

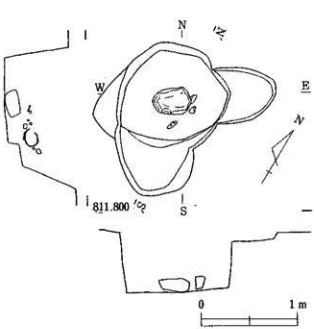
検出遺構は土坑中の遺物により18世紀後半から19世紀前半頃と思われる墓壙である。この調査区域から32基検出され、本遺跡の南側に集中している。

(1)　墓　　壙

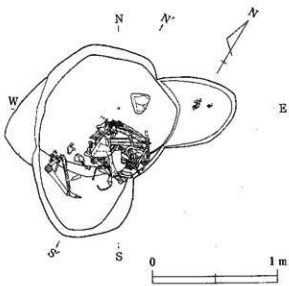
１号墓壙（ＳＫ－１の１、ＳＫ－１の２、ＳＫ－１の３）第２図

位置－グリッドＣ－６。形状－１の１号墓壙は楕円形、長径不明・短径76cm・深さ53cmを測る。１の２号墓壙は楕円形、長径１ｍ15cm・短径１ｍ５cm・深さ65cmを測る。１の３号墓壙は楕円形、長径不明・短径65cm・深さ８cmを測る。

出土遺物－石器、鉄製具、キセル、寛永通宝４枚



第２図　１号墓壙実測図（1／40）



第３図　１号墓壙微細図（1／30）

2号墓壙（SK－2の1、SK－2の2）

第4図

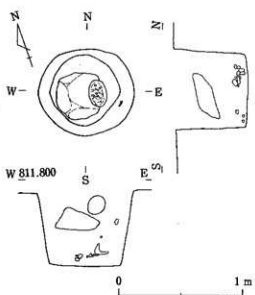
位置－グリッドC－6。形状－2の1号墓壙は楕円形、長径80cm・短径70cm・深さ53cmを測る。2の2号墓壙は楕円形、長径70cm・短径65cm・深さ38cmを測る。

出土遺物－陶器、クルミ、キセル、寛永通宝9枚、火打石、栗

3号墓壙（SK－3）第5図

位置－グリッドC－3。形状－楕円形、長径76cm・短径69cm・深さ57cmを測る。

出土遺物－鉄製器、クルミ、寛永通宝4枚、キセル

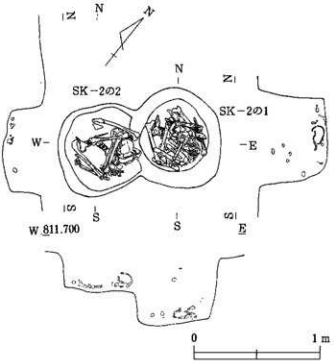


第5図　3号墓壙実測図（1／30）

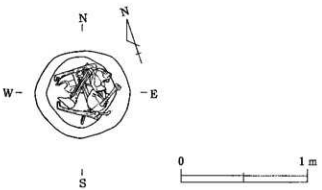
4号墓壙（SK－4）第7図

位置－グリッドC－6。形状－楕円形、長径76cm・短径66cm・深さ83cmを測る。

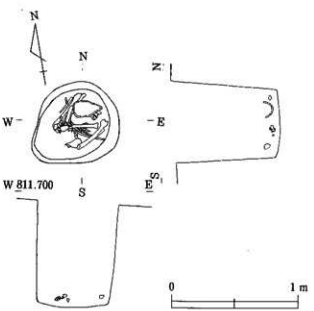
出土遺物－キセル、寛永通宝1枚



第4図　2号墓壙実測図（1／30）



第6図　3号墓壙微細図（1／30）



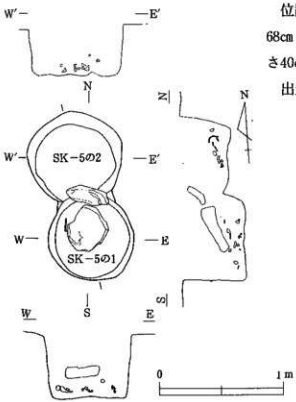
第7図　4号墓壙実測図（1／30）

5号墓壙（SK－5の1、SK－5の2）第8図

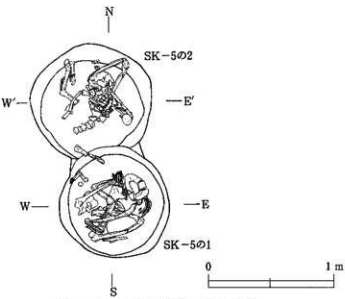
位置－グリッドC－6。形状－5の1号墓壙は円形、直径68cm・深さ51cmを測る。5の2号墓壙は円形、長径75cm・深さ40cmを測る。

出土遺物－5の1　キセル、寛永通宝7枚、木製品

5の2　キセル、寛永通宝6枚、クルミ、凹石



第8図　5号墓壙実測図（1／30）



第9図　5号墓壙微細図（1／30）

6号墓壙（SK－6）第10図

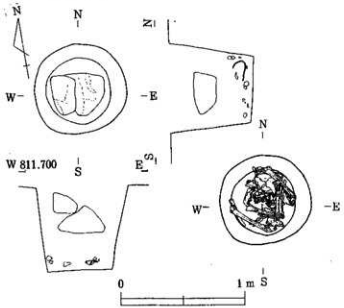
位置－グリッドC－6。形状－円形、直径73cm・深さ68cmを測る。

出土遺物－寛永通宝3枚、クルミ、鉄製品

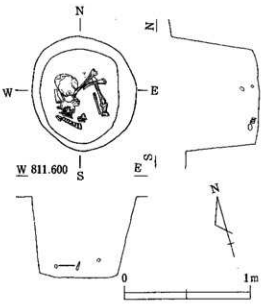
7号墓壙（SK－7）第11図

位置－グリッドC－7。形状－楕円形、長径92cm・短径83cm・深さ63cmを測る。

出土遺物－寛永通宝6枚



第10図　6号墓壙実測図（1／30）



第11図　7号墓壙実測図（1／30）

8号墓壙（ＳＫ－８）第12図

位置－グリッドＣ－７。形状－円形、直径69cm・深さ37cmを測る。

出土遺物－寛永通宝４枚

9号墓壙（ＳＫ－９）第13図

位置－グリッドＤ－７。形状－円形、直径65cm・深さ11～12cmを測る。

10号墓壙（ＳＫ－10）第14図

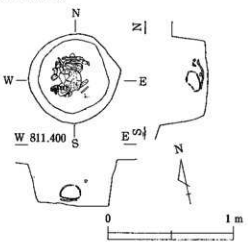
位置－グリッドＤ－７。形状－円形、直径65cm・深さ11～12cmを測る。

出土遺物－キセル、寛永通宝６枚、火打石

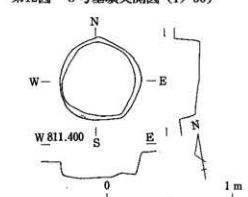
11号墓壙（ＳＫ－11）第15図

位置－グリッドＤ－７。形状－円形、直径69cm・深さ43～52cmを測る。

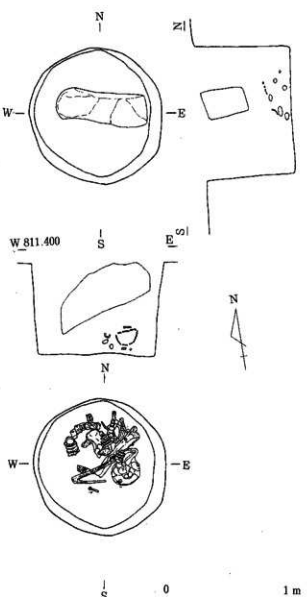
出土遺物－木製品（漆椀）、鉄製品、石器



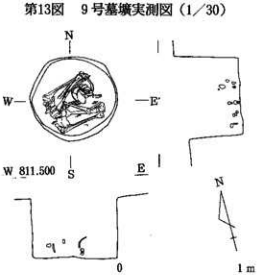
第12図　８号墓壙実測図（1／30）



第13図　９号墓壙実測図（1／30）



第14図　10号墓壙実測図（1／30）



第15図　11号墓壙実測図（1／30）

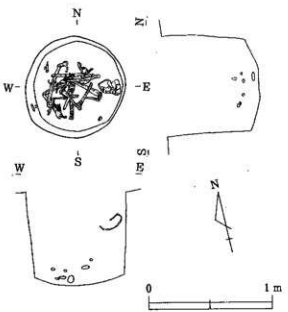
12号墓壙（ＳＫ－12）第16図

位置－グリッドＤ－７。形状－円形、直径80cm・深さ75cmを測る。

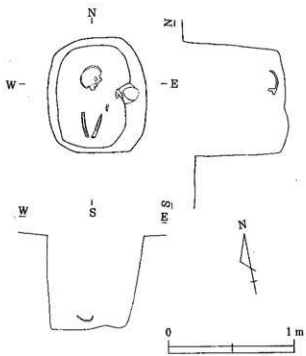
出土遺物－キセル、寛永通宝２枚、クルミ、火打石

13号墓壙（ＳＫ－13）第17図

位置－グリッドＤ－７。形状－楕円形、長径92cm・短径79cm・深さ82cmを測る。



第16図　12号墓壙実測図（1／30）



第17図　13号墓壙実測図（1／30）

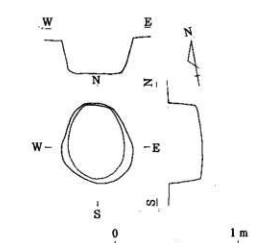
14号墓壙（ＳＫ－15）第18図

位置－グリッドＤ－６。形状－楕円形、長径67cm・短径56cm・深さ38cmを測る。

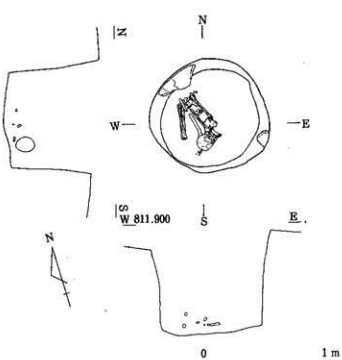
出土遺物－寛永通宝６枚

15号墓壙（ＳＫ－15）第19図

位置－グリッドＤ－６。形状－楕円形、長径95cm・短径90cm・深さ68～75cmを測る。



第18図　14号墓壙実測図（1／30）



第19図　15号墓壙実測図（1／30）

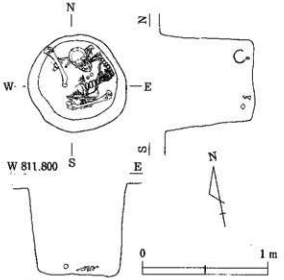
16号墓壙（ＳＫ－16）第20図

位置－グリッドＤ－６。形状－円形、直径78cm・深さ69cmを測る。

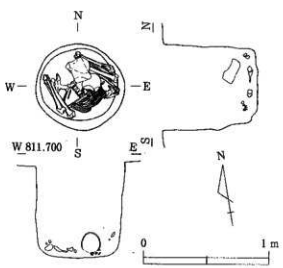
出土遺物－キセル、寛永通宝３枚

17号墓壙（ＳＫ－17）第21図

位置－グリッドＣ－６。形状－円形、直径71cm・深さ77cmを測る。



第20図　16号墓壙実測図（1／30）



第21図　17号墓壙実測図（1／30）

18号墓壙（ＳＫ－18）第22図

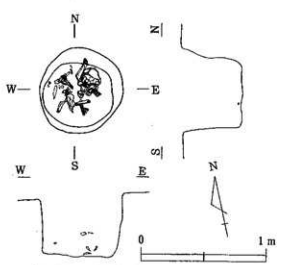
位置－グリッドＣ－６。形状－円形、直径68cm・深さ47cmを測る。

出土遺物－キセル、寛永通宝２枚、クルミ

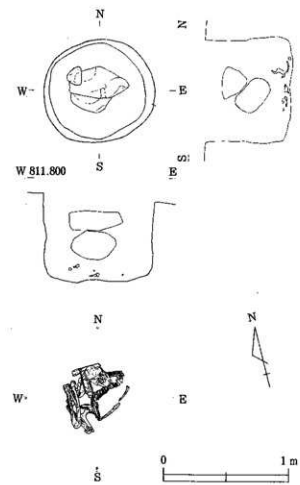
19号墓壙（ＳＫ－19）第23図

位置－グリッドＤ－６。形状－楕円形、長径88cm・短径82cm・深さ71cmを測る。

出土遺物－寛永通宝７枚、銅製金具、火打石、火打金、キセル



第22図　18号墓壙実測図（1／30）



第23図　19号墓壙実測図（1／30）

20号墓壙（ＳＫ－20）第24図

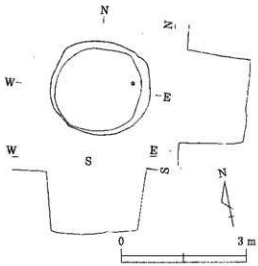
位置－グリッドＤ－５。形状－楕円形、長径81cm・短径75cm・深さ51cmを測る。

出土遺物－寛永通宝５枚

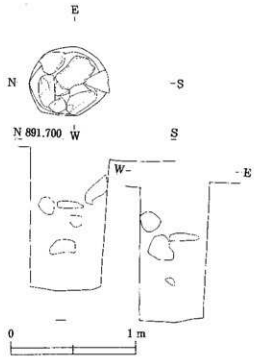
21号墓壙（ＳＫ－21）第25図

位置－グリッドＤ－７。形状－楕円形、長径86cm・短径75cm・深さ１ｍ44cm～１ｍ57cmを測る。

出土遺物－寛永通宝６枚



第24図　20号墓壙実測図（1／30）



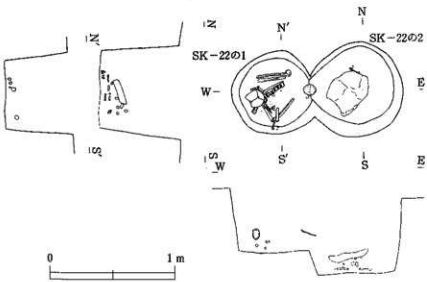
第25図　21号墓壙実測図（1／30）

22－１・２号墓壙（ＳＫ－22の１、ＳＫ－22の２）第26図

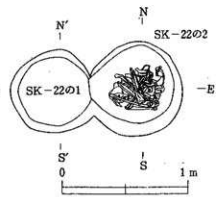
位置－グリッドＣ－７。22の１号墓壙の形状－楕円形、長径66cm・短径62cm・深さ52cmを測る。22の２号墓壙の形状－円形、直径75cm・深さ58cmを測る。

出土遺物－22の１号墓壙　寛永通宝４枚、キセル

22の２号墓壙　寛永通宝２枚、キセル、椀



第26図　22－１・２号墓壙実測図（1／30）



第27図　22－１・２号墓壙微細図（1／30）

23号墓壙（ＳＫ－23）第28図

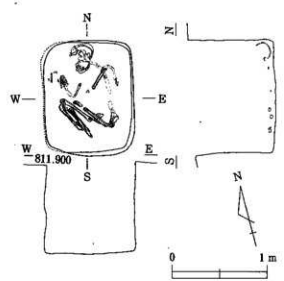
位置－グリッドＤ－６。形状－隅丸円形、長径93cm・短径72cm・深さ71cmを測る。

出土遺物－寛永通宝５枚、クルミ、キセル

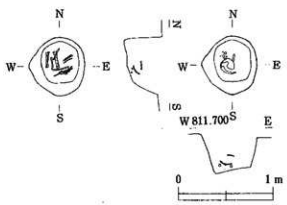
24号墓壙（ＳＫ－24）第29図

位置－グリッドＤ－７。形状－楕円形、長径47cm・短径45cm・深さ22cm～31cmを測る。

出土遺物－寛永通宝４枚



第28図　23号墓壙実測図（1／40）



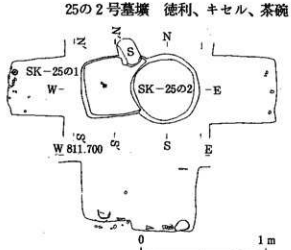
第29図　24号墓壙実測図（1／40）

25－１・２号墓壙（ＳＫ－25の１、ＳＫ－25の２）第30図

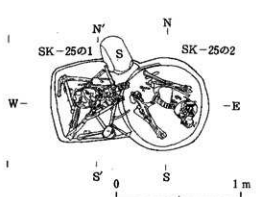
位置－グリッドＣ－６。25の１号墓壙の形状－円形、直径73cm・深さ68cmを測る。25の２号墓壙の形状－隅丸長方形、長軸73cm・短軸64cm・深さ63cmを測る。

出土遺物－25の１号墓壙　キセル、鉄製品

25の２号墓壙　徳利、キセル、茶碗



第30図　25－１・２号墓壙実測図（1／30）

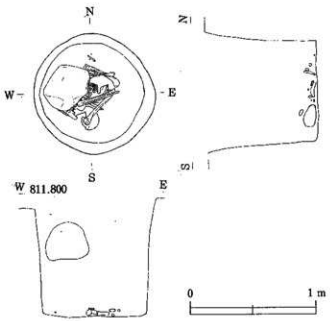


第31図　25－１・２号墓壙微細図（1／30）

26号墓壙（ＳＫ－26）第32図

位置－グリッドＣ－６。形状－円形、直径97cm・深さ87cmを測る。

出土遺物－寛永通宝７枚

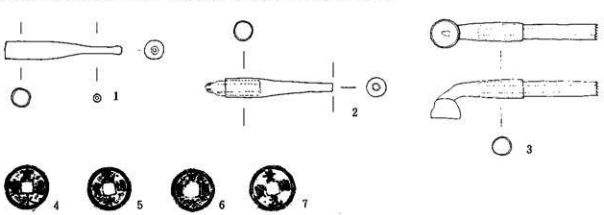


第32図　26号墓壙実測図（1／30）

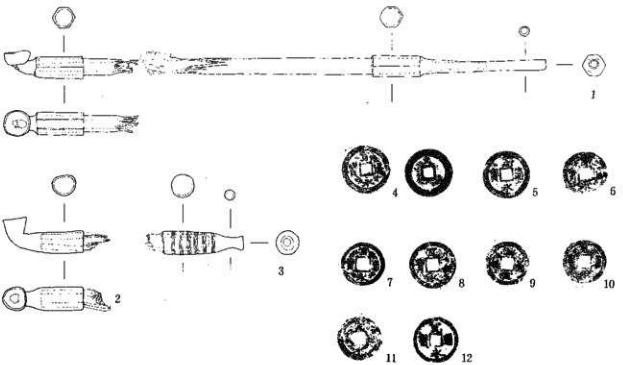
ⅲ　出土した遺物

出土遺物は、調査区の北側に埋没谷があり、ここからの流れ込みによる混入と思われるが、縄文時代後期（加曽利Ｂ式）の土器が出土した（第16～21図）。墓壙遺構よりのキセル、寛永通宝、茶椀、徳利、火打石、鉄製品、木製品（第22～39図）などが出土し、キセルの出土数が多く、当時の喫煙習慣の一般化を示すものである。

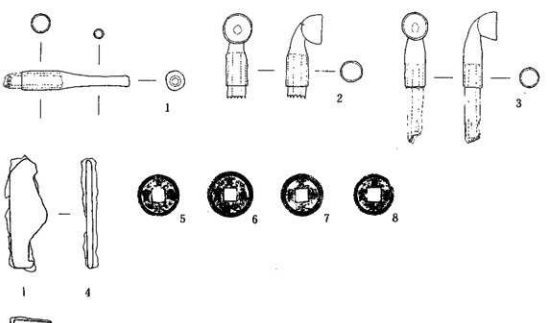
出土している寛永通宝の初鋳は、寛永13年（1636）に発行され、発行所も一箇所ではなく、数ヶ所あり、発行所によってさまざまな特長をもっている。元文４年（1739）には鉄銭も発行されるようになり、当遺跡においても、墓壙内より出土が見られ、次第に鉄銭に変わっていくようである。しかし、鉄銭であるため、サビによる癒着がはなはだしく、字体の確認ができるものは、ごくわずかであるが、鉄銭が出土することから、この時期以後に埋納されたものである。



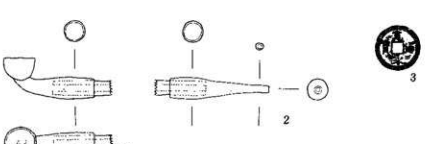
第33図　１－２号墓壙出土遺物実測図（1／2）



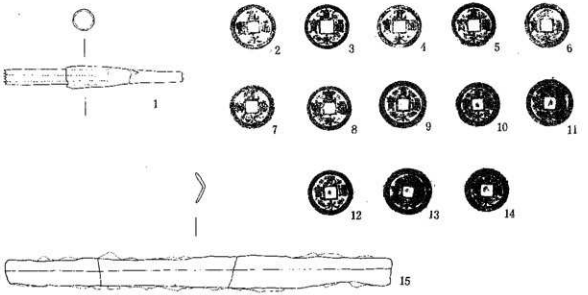
第34図　2の1・2の2号墓壙出土遺物実測図（1／2）（SK2の1−1、4〜6、SK2の2−2・3、7〜12）



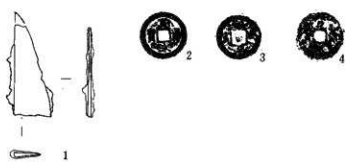
第35図　3号墓壙出土遺物実測図（1／2）



第36図　4号墓壙出土遺物実測図（1／2）

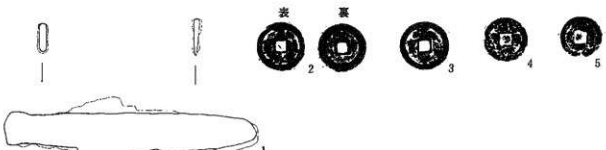


第37図　5の1・5の2号墓壙出土遺物実測図（1／2）
（SK5の1－1～8、SK5の2－9～15）

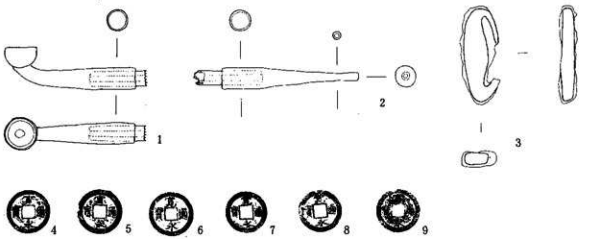


第38図　6号墓壙出土遺物実測図（1／2）

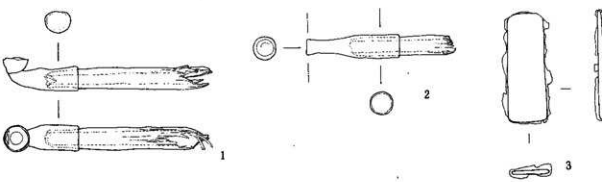
第39図　7号墓壙出土遺物実測図（1／2）



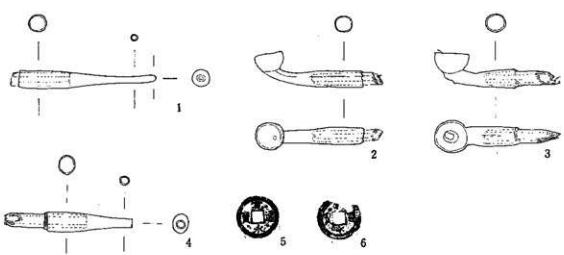
第40図　8号墓壙土遺物実測図（1／2）



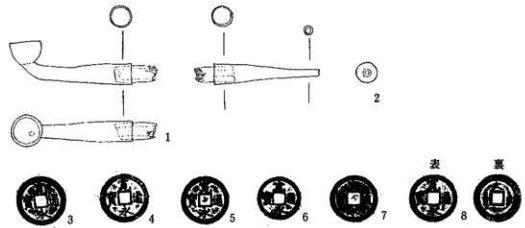
第41図　10号墓壙出土遺物実測図（1／2）



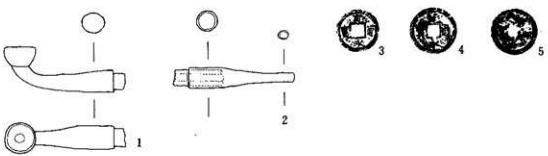
第42図　11号墓壙出土遺物実測図（1／2）



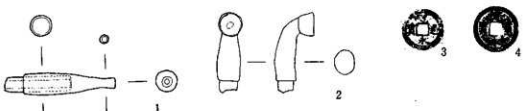
第43図　12号墓壙出土遺物実測図（1／2）



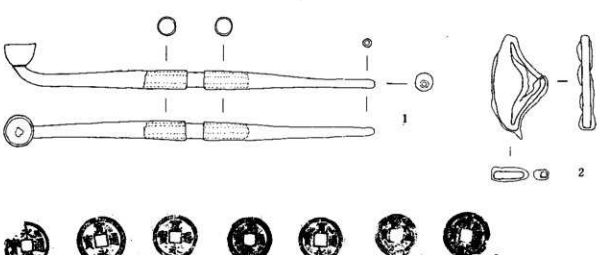
第44図　14号墓壙出土遺物実測図（1／2）



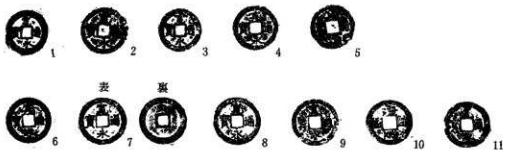
第45図　16号墓壙出土遺物実測図（1／2）



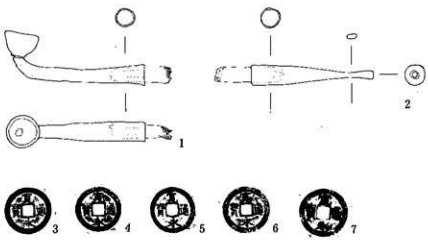
第46図　18号墓壙出土遺物実測図（1／2）



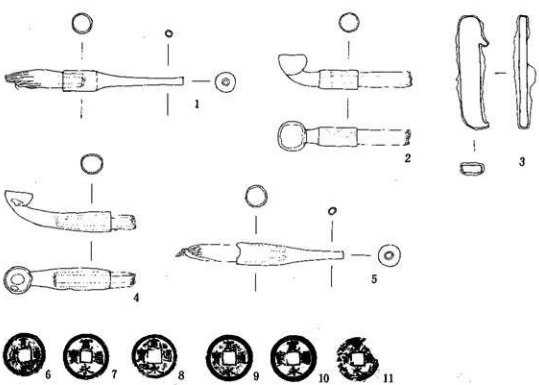
第47図　19号墓壙出土遺物実測図（1／2）



第48図　20・21号墓壙出土遺物実測図（1／2）
（ＳＫ20－１～５、ＳＫ21－６～11）

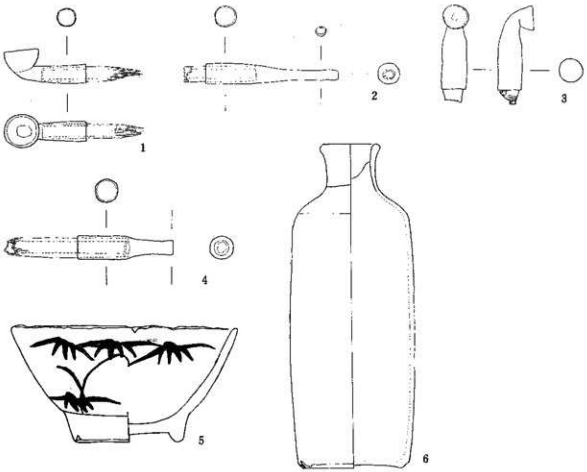


第49図　22－１・22－２号墓壙出土遺物実測図（1／2）

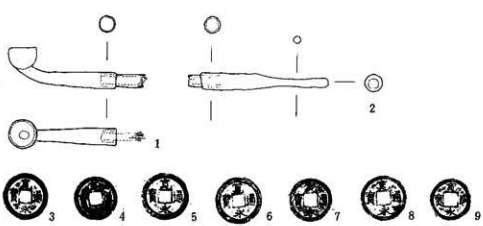


第50図　22の１・22の２号墓壙出土遺物実測図（1／2）
（ＳＫ22の１－１・２、６～９、ＳＫ22の２－３～５、10・11）

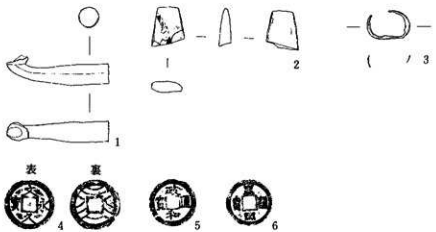
第51図　24号墓壙出土遺物実測図（1／2）



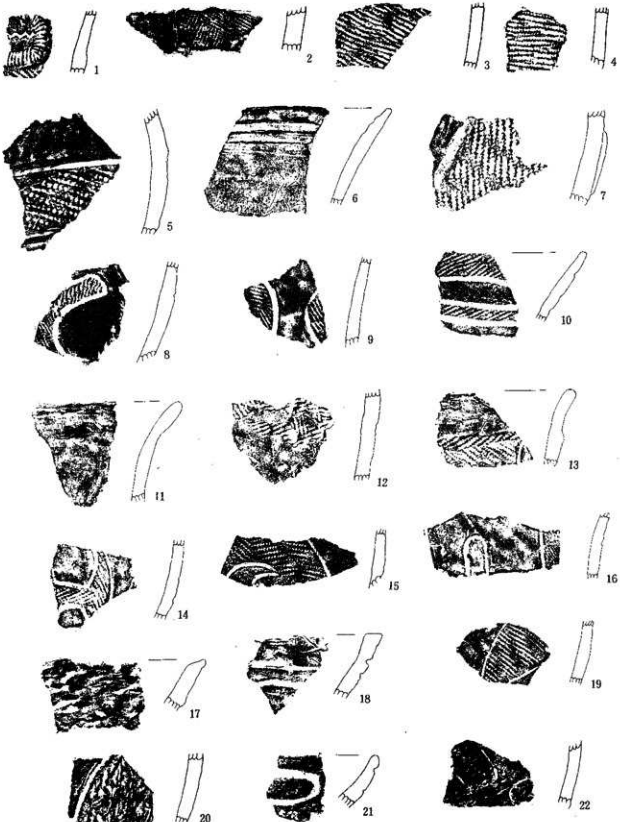
第52図　25の1・25の2号墓壙出土遺物実測図（1／2）
（SK25の1－1・2、SK25の2－3～5）



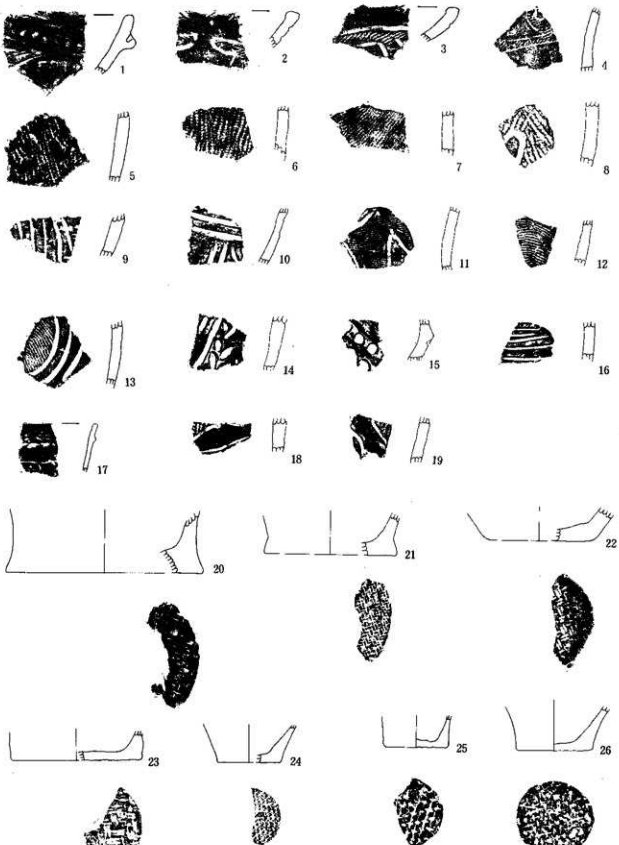
第53図　25－1・25－2号墓壙出土遺物実測図（1／2）



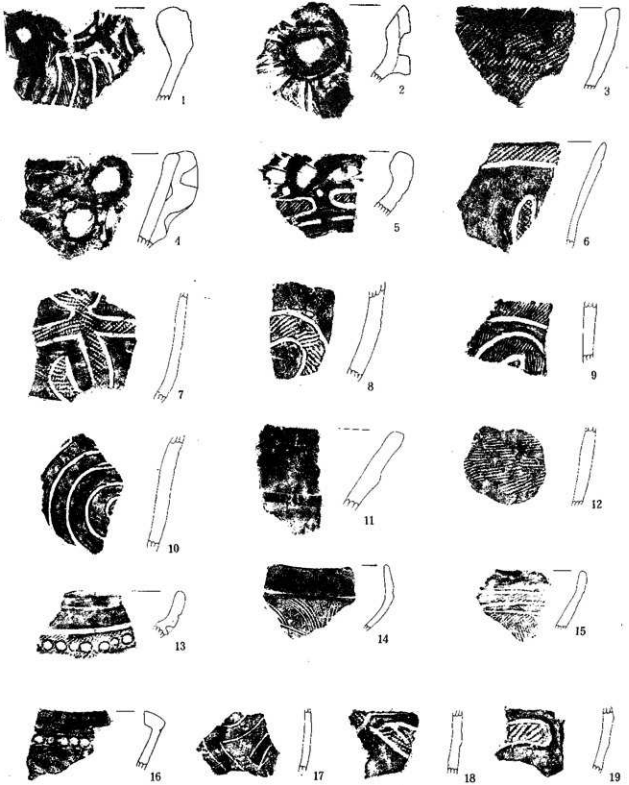
第54図　遺構外出土土器実測図（1／3）



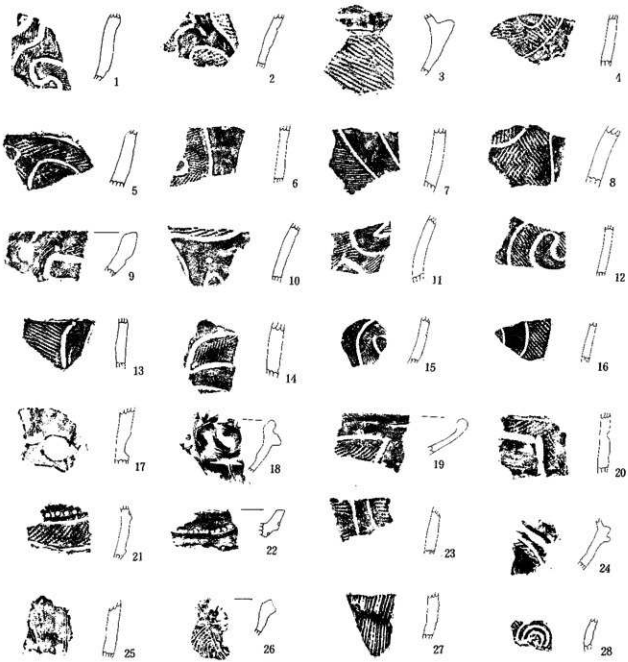
第55図　遺構外出土土器実測図（1／3）



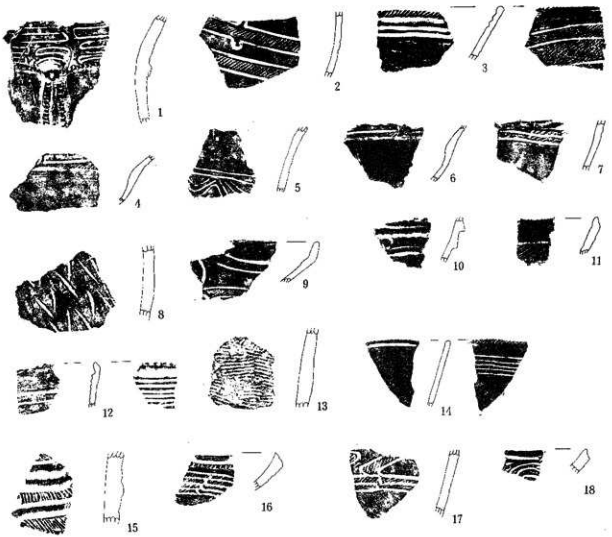
第56図　遺構外出土土器実測図（1／3）



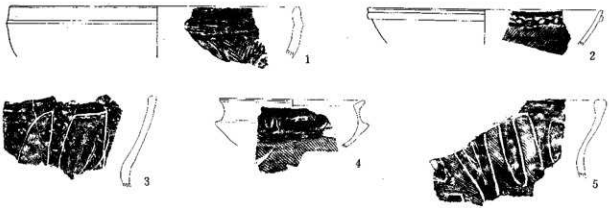
第57図　遺構外出土土器実測図（1／3）



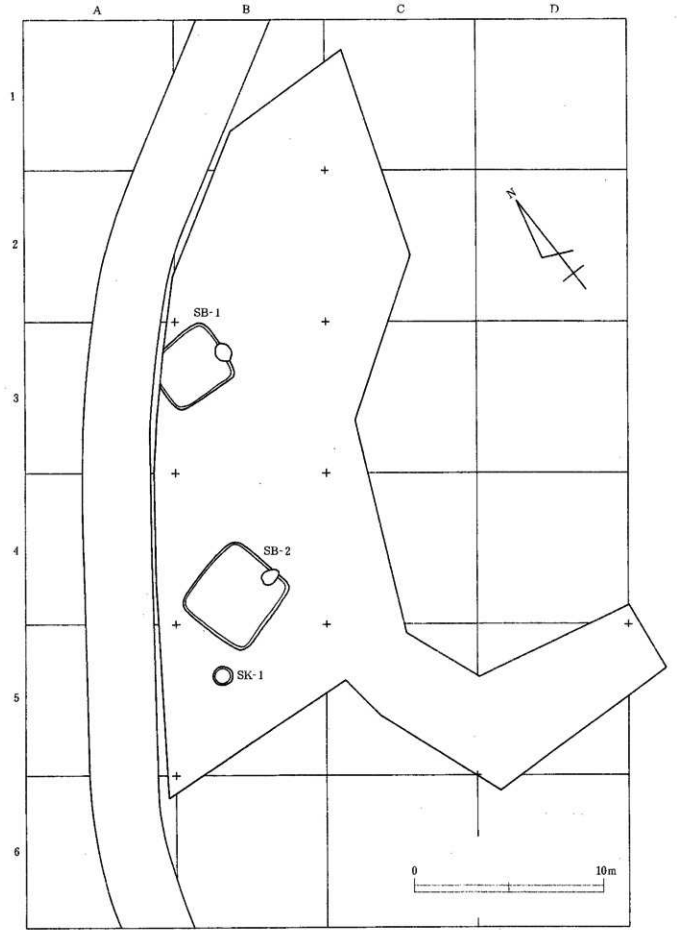
第58図　遺構外出土土器実測図（1／3）



第59図　遺構外出土土器実測図（1／3）



第60図　遺構外出土遺物実測図（1／6）



第1図　西原北遺跡遺構分布図（1／200）

第Ⅲ章　西原北遺跡

i　遺跡の環境

本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村山西割字西原2,239番地外に所在し、標高約740ｍを測る。地形は、高低差の少ない舌状に南に張り出している緩斜面の微高地に位置する。

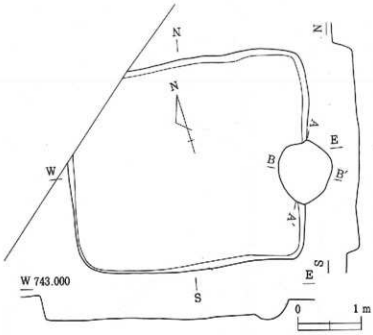
ii　検出された遺構

検出遺構は、平安時代の住居址２軒、近世の土壙１基であった。

(1)　竪穴住居址

１号住居址（ＳＢ－１）

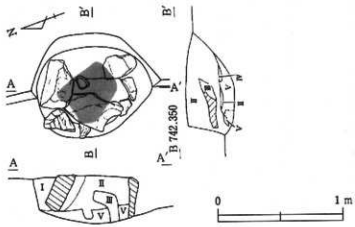
本遺跡の西側（グリッドＢ－３）に位置する。西北の隅が道路で切断されているが、保存状態は良好である。形状は隅丸方形で、長軸３ｍ94㎜・短軸３ｍ40㎝・壁高20～40㎝を測る。柱穴・周溝は確認されない。カマドの存在によって、平安時代の住居址と確認できる。カマドは東壁の南寄りに構築された石組である。天井石・袖石２個以上・支脚石が検出され、残存状態は良好である。全長１ｍ・幅86㎝・壁高30㎝を測る。



第２図　１号住居址実測図（1／60）

土層説明

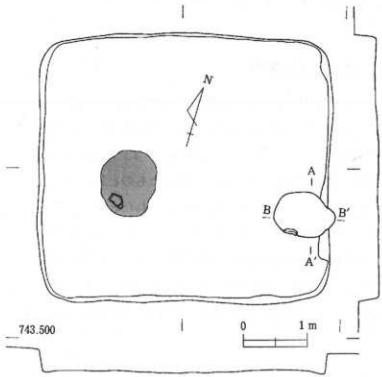
第Ⅰ層　茶褐色土層（小礫を含む）
第Ⅱ層　茶褐色土層（焼土粒を含む）
第Ⅲ層　黒褐色土層（焼土粒を含んでいない）
第Ⅳ層　灰白土層（灰層）
第Ⅴ層　赤褐色土層（焼土層）



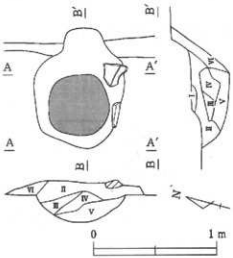
第３図　１号住居カマド址実測図
（1／30）

2号住居址（ＳＢ－２）

本遺跡の西側（グリッドＢ－４・５）に位置する。形状は隅丸方形で、長軸４ｍ60cm・単軸４ｍ30cm・壁高34cmを測る。柱穴・周溝は確認されない。カマドの存在によって、平安時代の住居址と確認できる。カマドは東壁の南寄りに構築された石組である。破壊されて遺存状態は良くない。全長96cm・幅70cm・壁高32cmを測る。焼土の痕跡が



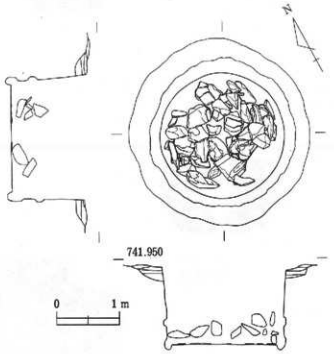
第４図　２号住居址実測図（1／60）



第５図　２号住居カマド址実測図（1／30）

土層説明

第Ⅰ層　黄褐色土層
（非常にかたくしまっている、カマド天井部分？）
第Ⅱ層　黄黒褐色土層
（焼土粒を含み、比較的しまっている）
第Ⅲ層　黄黒褐色土層
（しまりがなく、ボロボロして焼土粒　を含む）
第Ⅳ層　灰褐色土層
（比較的しまっており、焼土粒を含む）
第Ⅴ層　赤褐色土層（焼土層）
第Ⅵ層　黄黒褐色土層（住居址内覆土）
第Ⅶ層　黄灰褐色土層
（粘土層がかたく焼きしまったもの）



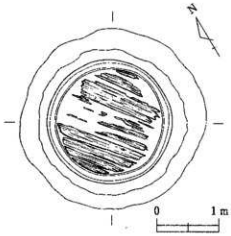
第６図　１号集石土壙上部実測図（1／60）

(2) 集石土壙

1号集石土壙（ＳＫ－１）

本遺跡の西側（グリッドＢ－５）に位置する。形状は円形で、直径１ｍ50cm・深さ61cmを測る。雨水を排水するような周溝がある。本遺構からの出土品から竪棺によって埋葬された墓壙であり、近世末期

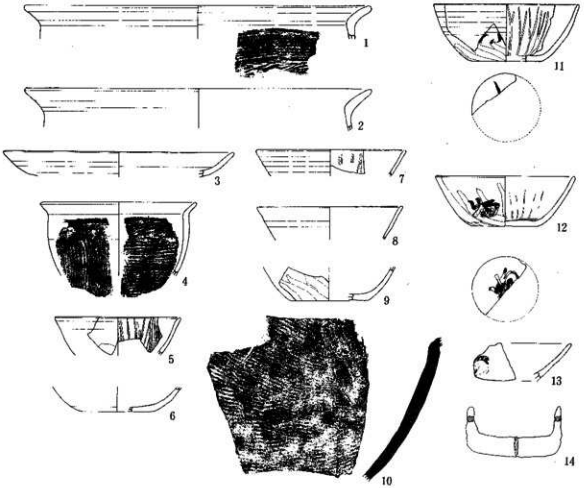
のものと見られる。集石はこの竪棺の蓋の置かれたものであろう。



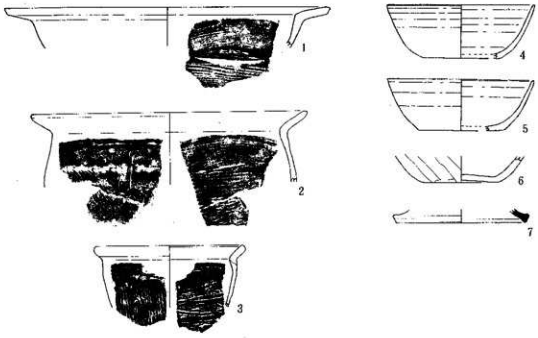
第７図　１号集石土壙下部実測図（1／60）

iii　出土した遺物

出土遺物は、１、２号住居址から平安時代の土師器・須恵器・墨書土器（第８・９図）がある。集石土壙からは中世（第10図１）、近世の陶器（第10図２・３）が出土した。第10図３の陶器の茶碗は使用中に割れたものと思われ、当時の補修技術により接合され、再使用されたと見られる。茶碗の糸尻の内側部分に朱書（ヤ十六）が見られることから、専門家により接合された可能性がある。土壙下部からは、桶の底と思われる板材がわずかながら残っていた。遺構外からは、土師器・須恵器（平安時代）、陶磁器・天目茶碗（中近世）が出土した。（第11図）

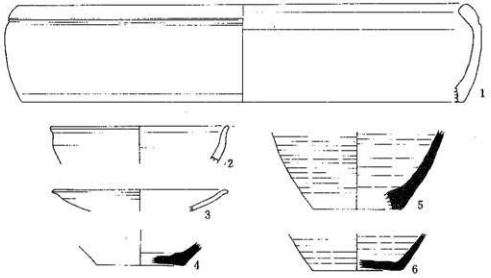


第８図　１号住居址出土遺物実測図（1／3）（平安時代）



第９図　２号住居址出土土器実測図（1／3）（平安時代）

第10図　１号集石土壙出土遺物実測図（1／3）（中世－１　近世２・３）



第11図　遺構外出土土器実測図（1／3）（平安３～６　中近世－１・２）

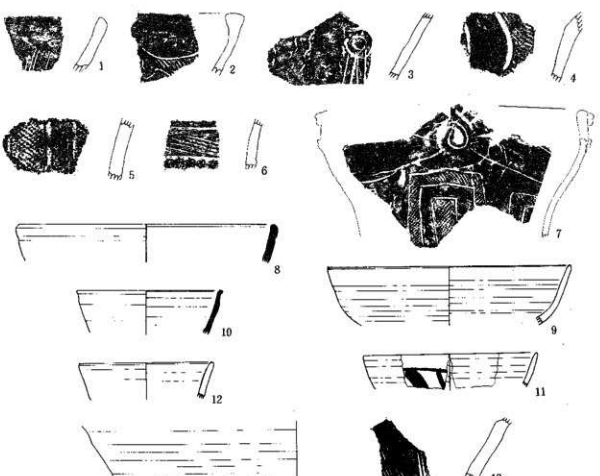
第Ⅳ章　大明神遺跡

i　遺跡の環境

本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町長沢字大明神2652－4番地外の地内に所在し、標高約920mを測る。東側の原家の前の幅広い高い尾根と、西側の新村の幅広い尾根に挟まれた微高地上に位置する。良好なローム層が確認できる範囲はごくわずかであり、調査区域は耕作等により削平されていた。遺構は検出できなかったが、土器片が数点出土した。

ii　出土した遺物

出土遺物は、縄文時代前期の土器・打製石斧、平安時代の土師器・須恵器、中近世の陶器が出土した。

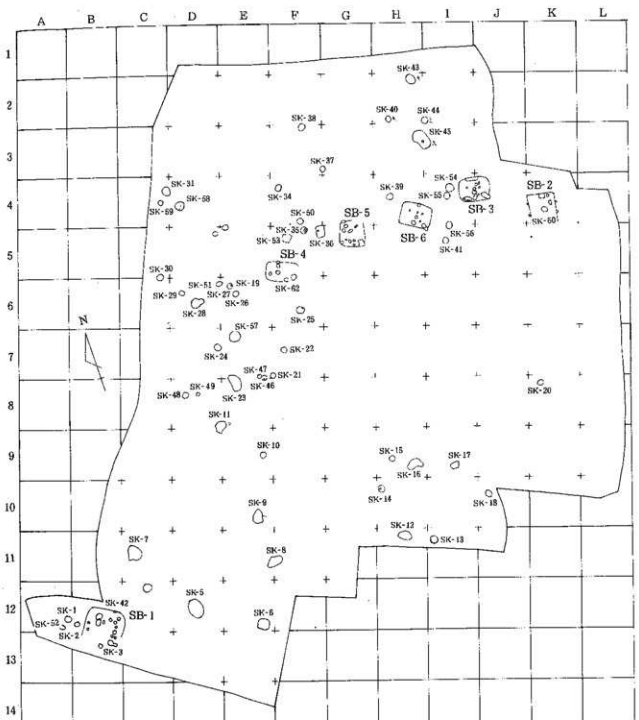


第1図　大明神遺跡出土遺物実測図（1／3、但し7は1／6）
（1～7－縄文時代、8～12－平安時代、13－中近世）

第V章　薬師堂遺跡

i　遺跡の環境

本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町長沢字薬師堂2310－1番地外に所在し、標高約910mを測る。地形は、北から南に流れる尾根の緩斜面の微高地に位置する。



第1図　薬師堂遺跡遺構分布図（1／600）

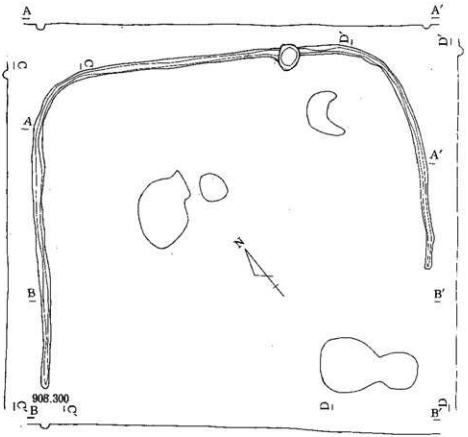
ii　検出された遺構

検出された遺構は、平安時代の住居址６軒で、このうち１軒は焼失家屋（ＳＢ－１）土坑63基で、土坑中から縄文時代中期・晩期、中世の遺物が出土した。

(1)　竪穴住居址

１号住居址（ＳＤ－１）第２図

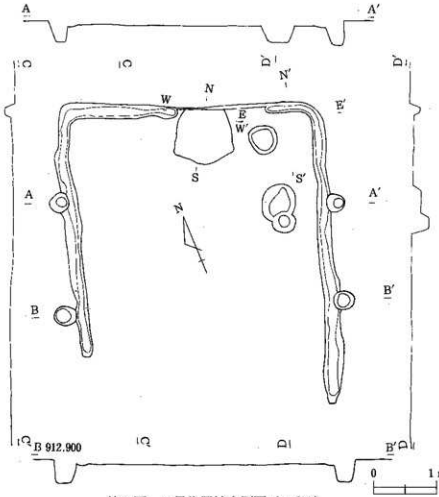
本遺跡の南西（グリッドＢ－12・Ｂ－13にまたがる）に位置する。周溝の存在により住居址と確認された。南壁、東壁の１部が欠損しているが、形状は約６ｍ30㎝の隅丸方形である。壁高は８㎝を測る。カマドは検出されていない。



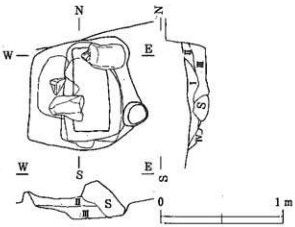
第２図　１号住居址実測図（1／60）　0　1ｍ

２号住居址（ＳＢ－２）第３図

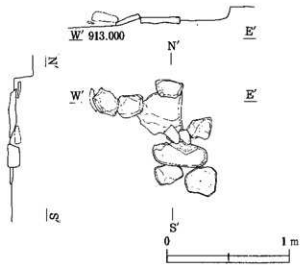
本遺跡の東側（グリッドＫ－４）に位置する。南壁は欠損しているが、形状は、長軸約５ｍ・短軸約４ｍの隅丸長方形で、壁高40㎝を測る。東西の壁際に４基の柱穴が検出された。住居址内の床面上に住居を構築した部材の炭化材が出土したことから、本住居址は焼失家屋と見られる。カマドは北壁の中央部に構築された。破損されてはいるが、天井石、袖石、支脚石がある。全長95㎝・幅58㎝・深さ31㎝を測る。カマドの東側に物を置く台の形をした平らな石で、11個からなる石組遺構が検出された。



第3図　2号住居址実測図（1／60）



第4図
2号住居址カマド実測図（1／30）



第5図
2号住居址石組遺構実測図（1／30）

土層説明

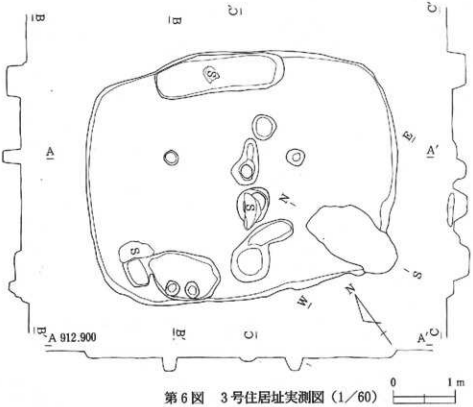
第Ⅰ層　赤褐色土層（焼土層）
第Ⅱ層　黒黄褐色土層（ローム粒・赤土粒を含む）
第Ⅲ層　灰黒黄色土層（ローム粒を含む）
第Ⅳ層　黄褐色土層（焼成をうけている）

3号住居址（SD－3）第6図

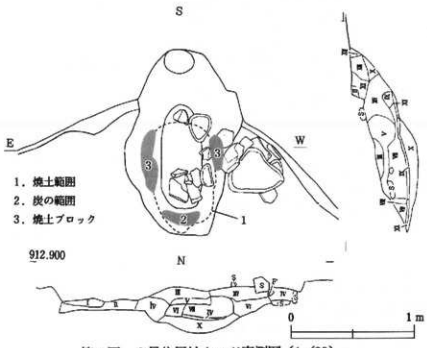
本遺跡の北東（グリッドⅠ－4・J－4にまたがる）に位置する。形状は、長軸5m・短軸4mの隅丸長方形で、壁高12cmを測る。周溝はない。柱穴は11基検出されているが、住居に伴うものは3基と思われ、残りの8基は位置及び規模等から住居に伴わないと思われる。土坑2基についても同様である。カマドは東南角の東壁の比較的南の位置に構築されており、全長1m52cm・幅58cm・深さ50cmを測る。煙道は破壊されていた。

土層説明

第Ⅰ層　黄色土層（焼土粒を含む）パサパサしている
第Ⅱ層　黒褐色土層（粘性あり、しまっていない）
第Ⅲ層　黄赤褐色土層（焼土粒・ブロック・炭を含む）パサパサしている
第Ⅳ層　黄色土層（焼土粒を含む）
第Ⅴ層　黄色土層（焼土粒を若干含むが、非常にしまっている）
第Ⅵ層　赤褐色土層（焼土ブロックを含む、硬く焼きしまっている）
第Ⅶ層　黄赤褐色土層（焼土ブロック・粒を含む）
第Ⅷ層　茶褐色土層（ローム粒を含む、しまりなく、粘性なし）
第Ⅸ層　茶灰褐色土層（灰層、粘性あり）
第Ⅹ層　赤褐色土層（焼土層）
第Ⅺ層　黒灰褐色土層（炭・灰・焼土層）
第Ⅻ層　黄色土層（5層に比べしまっていない）
第ⅩⅢ層　暗赤褐色土層（焼土粒・焼土ブロックを含む）
第ⅩⅣ層　暗茶褐色土層（13層に比べ、焼土粒・焼土ブロックが少ない）



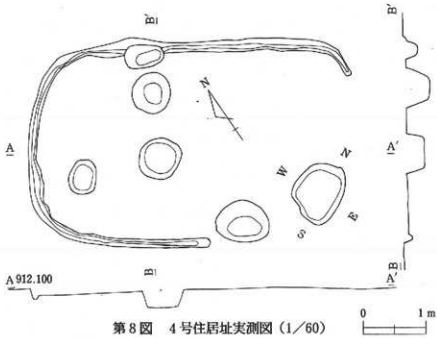
第6図　3号住居址実測図（1／60）



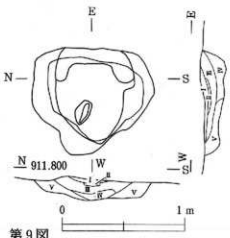
第7図　3号住居址カマド実測図（1／30）

4号住居址（ＳＢ－４）第８図

本遺跡の中央部のやや上側（グリッドＥ－５・Ｅ－６・Ｆ－５・Ｆ－６にまたがる）に位置する。東南側の壁が欠損しているが、形状は、長軸約５ｍ20cm・短軸３ｍ30cmの隅丸長方形で、壁高14cmを測る。周溝が西壁に確認できた。柱穴は４基検出されているが位置及び規模などからどれも主柱穴でないと思われ、土坑２基が検出された。カマドは破壊された状態で十分調査できなかった。石組はない。全長95cm・幅82cm・深さ20cmを測る。



第８図　４号住居址実測図（1／60）

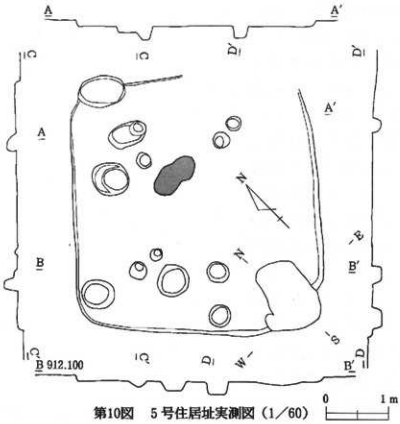


第９図
４号住居址カマド実測図(1／30)

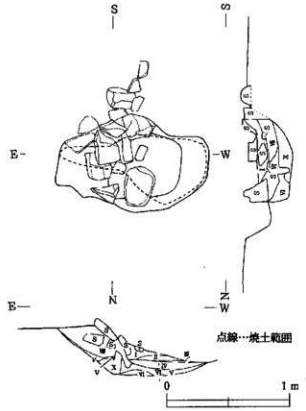
土層説明
第Ⅰ層　暗赤褐色土層(焼土粒を含む)
第Ⅱ層　灰色土層(灰層)粘性あり
第Ⅲ層　赤褐色土層(焼土層)
第Ⅳ層　暗黄色土層(ローム層)焼成を受けている
第Ⅴ層　黒色土層(ローム粒を含む)

５号住居址（ＳＢ－５）第10図

本遺跡の中央部のやや上側（グリッドＧ－４・Ｇ－５）に位置する。北壁は１部破壊されているが、形状は、長軸約４ｍ12cm・短軸３ｍ90cmの隅丸長方形で、壁高10cmを測る。周溝はない。柱穴14基検出され、そのうち４基が主柱穴と思われる。中央に焼土が確認された。カマドは東南の隅に位置する。全長１ｍ・幅80cm・深さ30～40cmを測る。２個の天井石、５個の袖石、支脚石が検出され、遺存状態は良好であった。



第10図　５号住居址実測図（1／60）



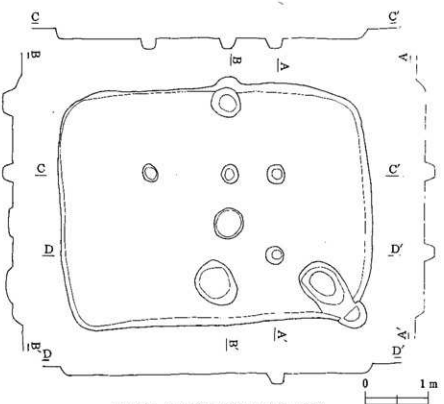
土層説明

第Ⅰ層　黒褐色土層（粘土粒を含む、粘性・しまりともややあり）
第Ⅱ層　黄色土層（粘土粒を含む、粘性・しまりともややあり）
第Ⅲ層　暗黒灰色土層（灰・炭化物・焼土粒を含む、粘性あり）
第Ⅳ層　赤褐色土層（焼土層、粘性なく・しまりあり）
第Ⅴ層　暗黄灰色土層（粘土粒を含まない、粘性・しまりともややあり）
第Ⅵ層　黒褐色土層（粘土ブロック含む、粘性・しまりともややあり）
第Ⅶ層　黒黄灰色土層（粘土ブロック含む、粘性・しまりともややあり）
第Ⅷ層　黒褐色土層（粘土粒を含む、粘性ややあり・しまりなし）
第Ⅸ層　暗赤褐色土層（粘土ブロック含む、粘性・しまりともややあり）
第Ⅹ層　黒黄灰色土層（粘土を含まない、粘性・しまりともややあり）
第Ⅺ層　黒褐色土層（粘土を含まない、粘性・しまりともややあり）

第11図　5号住居址カマド実測図（1／30）

6号住居址（ＳＢ－6）第12図

本遺跡の中央部の右上（グリッドH－4・I－4）に位置する。形状は、長軸5ｍ・短軸3ｍ80cmの隅丸長方形で、壁高28cmを測る。周溝はない。柱穴は4基検出されているが、主柱穴は3基と思われ、残り1基と土坑3基の位置及び規模等から住居に伴わないと思われる。カマドは東南の隅に位置する。破壊されており、調査過程で確認されたもので、石組はなかった。全長1ｍ30cm・幅60cm・深さ30～40cmを測る。2個の天井石、5個の袖石、支脚石が検出され、遺存状態は良好であった。



第12図　6号住居址実測図（1／60）

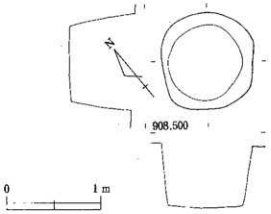
(2) 土　　坑

1号土坑（SK－1）第13図

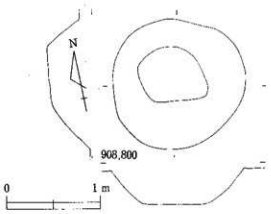
位置－グリッドA－12。形状－楕円形、長径1m2cm・短径95cm・深さ63～70cmを測る。

4号土坑（SK－4）第14図

位置－グリッドC－12。形状－円形、直径1m36cm・深さ38cmを測る。



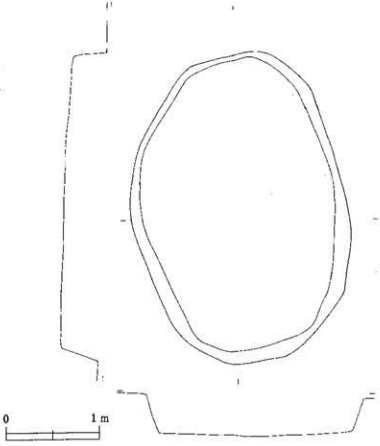
第13図　1号土坑実測図（1／40）



第14図　4号土坑実測図（1／40）

5号土坑（SK－5）第15図

位置－グリッドD－12。形状－楕円形、長径3m16cm・短径1m70cm・深さ35～40cmを測る。



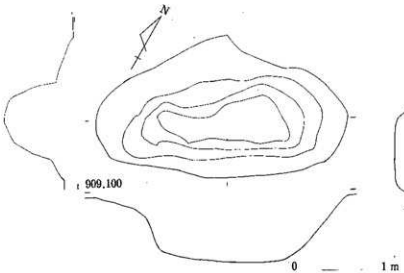
第15図　5号土坑実測図（1／40）

8号土坑（ＳＫ－８）第16図

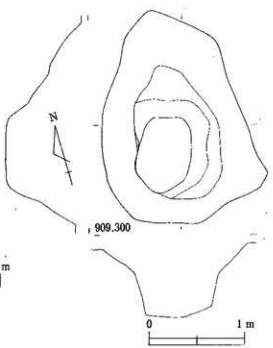
位置－グリッドＥ－11・Ｆ－11にまたがる。形状－楕円形、長径２ｍ62㎝・短径２ｍ・深さ75㎝を測る。

9号土坑（ＳＫ－９）第17図

位置－グリッドＥ－10。形状－楕円形、長径２ｍ21㎝・短径１ｍ55㎝・深さ70㎝を測る。



第16図　８号土坑実測図（1／40）



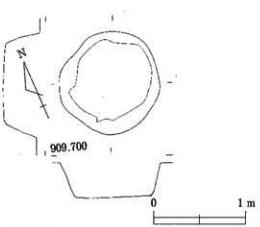
第17図　９号土坑実測図（1／40）

10号土坑（ＳＫ－10）第18図

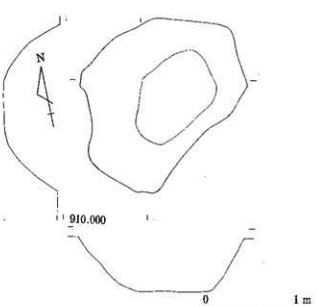
位置－グリッドＥ－９。形状－円形、直径１ｍ８㎝・深さ39㎝を測る。

11号土坑（ＳＫ－11）第19図

位置－グリッドＤ－８・Ｄ－９・Ｅ－９・Ｅ－９にまたがる。形状－楕円形、長径２ｍ・短径１ｍ38㎝・深さ58㎝を測る。



第18図
10号土坑実測図（1／40）



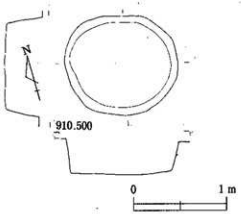
第19図　11号土坑実測図（1／40）

13号土坑（ＳＫ－13）第20図

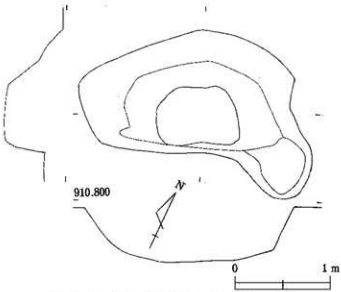
位置－グリッドＨ－11。形状－楕円形、長径１ｍ19㎝・短径１ｍ４㎝・深さ37㎝を測る。

16号土坑（ＳＫ－16）第21図

位置－グリッドＦ－９。形状－楕円形、長径２ｍ58㎝・短径１ｍ29㎝・深さ55㎝を測る。



第20図　13号土坑実測図(1／40)



第21図　16号土坑実測図（1／40）

18号土坑（ＳＫ－18）第22図

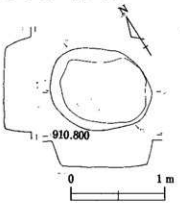
位置－グリッドＪ－10。形状－楕円形、長径１ｍ８㎝・短径88㎝・深さ32㎝を測る。

19号土坑（ＳＫ－19）第23図

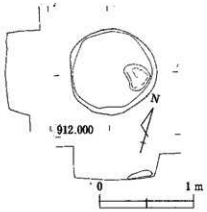
位置－グリッドＥ－６。形状－円形、直径90㎝・深さ55㎝を測る。石１個あり。

21号土坑（ＳＫ－21）第24図

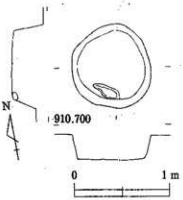
位置－グリッドＥ－７・Ｆ－７にまたがる。形状－楕円形、長径87㎝・短径82㎝・深さ22～31㎝を測る。石１個あり。



第22図
18号土坑実測図（1／40）



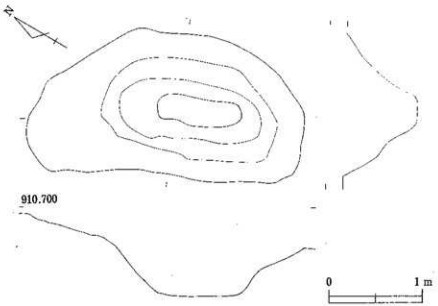
第23図
19号土坑実測図（1／40）



第24図
21号土坑実測図（1／40）

23号土坑
（ＳＫ－23）
第25図

位置－グリッドＥ－７・Ｅ－８にまたがる。形状－楕円形、長径２ｍ90cm・短径１ｍ47cm・深さ45～70cmを測る。



第25図　23号土坑実測図（1／40）

24号土坑（ＳＫ－24）第26図

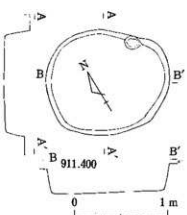
位置－グリッドＤ－７。形状－楕円形、長径１ｍ11cm・短径１ｍ２cm・深さ92～98cmを測る。集石あり。

25号土坑（ＳＫ－25）第27図

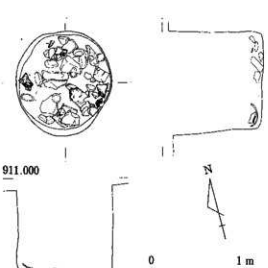
位置－グリッドＦ－６。形状－楕円形、長径１ｍ30cm・短径１ｍ５cm・深さ49～60cmを測る。石１個あり。

26号土坑（ＳＫ－26）第28図

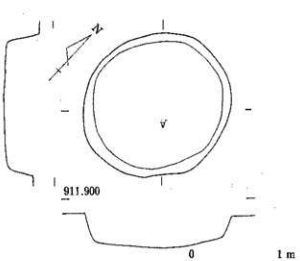
位置－グリッドＥ－６。形状－楕円形、長径１ｍ１cm・短径97cm・深さ25cmを測る。



第27図
25号土坑実測図（1／40）



第26図　24号土坑実測図（1／40）



第28図　26号土坑実測図（1／40）

27・28号土坑（ＳＫ－27・ＳＫ－28）第29図

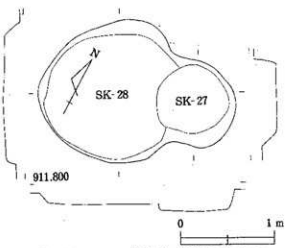
位置－グリッドＤ－７。27号土坑の形状－楕円形、長径92cm・短径82cm・深さ23cmを測る。28号土坑の形状－楕円形、長径２ｍ・短径１ｍ23cm・深さ12cmを測る。

30号土坑（ＳＫ－30）第30図

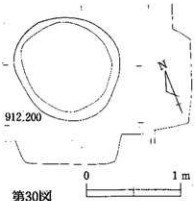
位置－グリッドＣ－５・Ｃ－６。形状－円形、直径１ｍ９cm・深さ18～39cmを測る。

31号土坑（ＳＫ－31）第31図

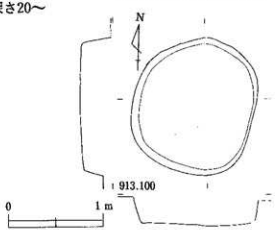
位置－グリッドＣ－４。形状－円形、直径１ｍ43cm・深さ20～30cmを測る。



第29図　27・28号土坑実測図（1／40）



第30図
30号土坑実測図（1／40）



第31図　31号土坑実測図（1／40）

34号土坑（ＳＫ－34）第32図

位置－グリッドＦ－４。形状－楕円形、直径１ｍ８cm・深さ45～48cmを測る。

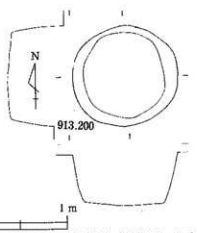
35号土坑（ＳＫ－35）第33図

位置－グリッドＦ－５。形状－楕円形、直径１ｍ16cm・短径１ｍ５cm・深さ49～60cmを測る。石１個あり。

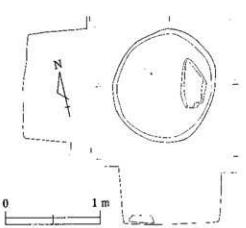
37号土坑

（ＳＫ－37）第34図

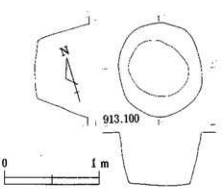
位置－グリッドＦ－３・Ｇ－３にまたがる。形状－楕円形、長径１ｍ・短径87cm・深さ55cmを測る。



第32図　34号土坑実測図(1／40)



第33図　35号土坑実測図（1／40）



第34図
37号土坑実測図（1／40）

45号土坑（ＳＫ－45）第35図

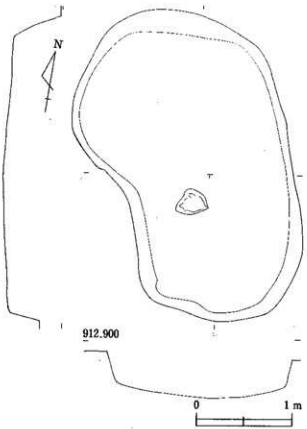
位置－グリッドＨ－３・Ｉ－３にまたがる。形状－楕円形、長径３ｍ42㎝・短径１ｍ74㎝・深さ30～50㎝を測る。石１個あり。

46号土坑（ＳＫ－46）第36図

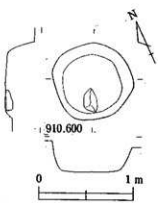
位置－グリッドＦ－７・Ｆ－８にまたがる。形状－円形、直径84㎝・深さ７～32㎝を測る。石１個あり。

47号土坑（ＳＫ－47）第37図

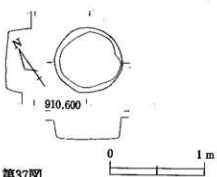
位置－グリッドＥ－７。形状－楕円形、長径72㎝・短径68㎝・深さ17～23㎝を測る。



第35図　45号土坑実測図（1／40）



第36図
46号土坑実測図（1／40）



第37図
47号土坑実測図(1／40)

48号土坑（ＳＫ－48）第38図

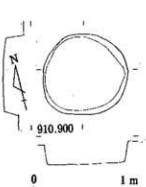
位置－グリッドＤ－８。形状－円形、直径88㎝・深さ21㎝を測る。

49号土坑（ＳＫ－49）第39図

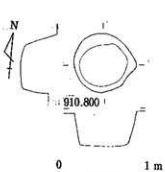
位置－グリッドＤ－８。形状－円形、直径64㎝・深さ27～40㎝を測る。

50号土坑（ＳＫ－50）第40図

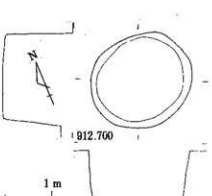
位置－グリッドＦ－４。形状－楕円形、長径１ｍ６㎝・短径95㎝・深さ64～71㎝を測る。



第38図
48号土坑実測図(1／40)



第39図
49号土坑実測図(1／40)



第40図　50号土坑実測図（1／40）

53号土坑（ＳＫ－53）第41図

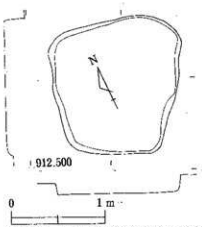
位置－グリッドＦ－５。形状－隅丸長方形、長軸１ｍ40㎝・短軸１ｍ30㎝・深さ７～22㎝を測る。

54号土坑（ＳＫ－54）第42図

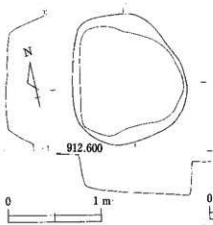
位置－グリッドＪ－４。形状－楕円形、長径１ｍ19㎝・短径86㎝・深さ26～42㎝を測る。

55号土坑（ＳＫ－55）第43図

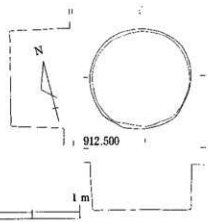
位置－グリッドＩ－４。形状－楕円形、直径１ｍ６㎝・深さ50㎝を測る。



第41図　53号土坑実測図（1／40）



第42図　54号土坑実測図（1／40）



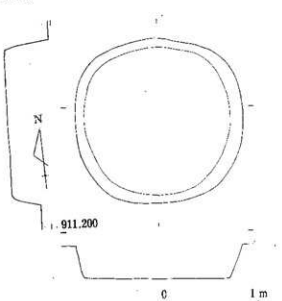
第43図　55号土坑実測図（1／40）

57号土坑（ＳＫ－57）第44図

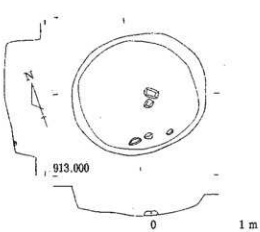
位置－グリッドＥ－７。形状－円形、直径１ｍ74㎝・深さ30～45㎝を測る。

58号土坑（ＳＫ－58）第45図

位置－グリッドＤ－４。形状－楕円形、長径１ｍ47㎝・短径１ｍ31㎝・深さ23～37㎝を測る。集石５個あり。



第44図　57号土坑実測図（1／40）

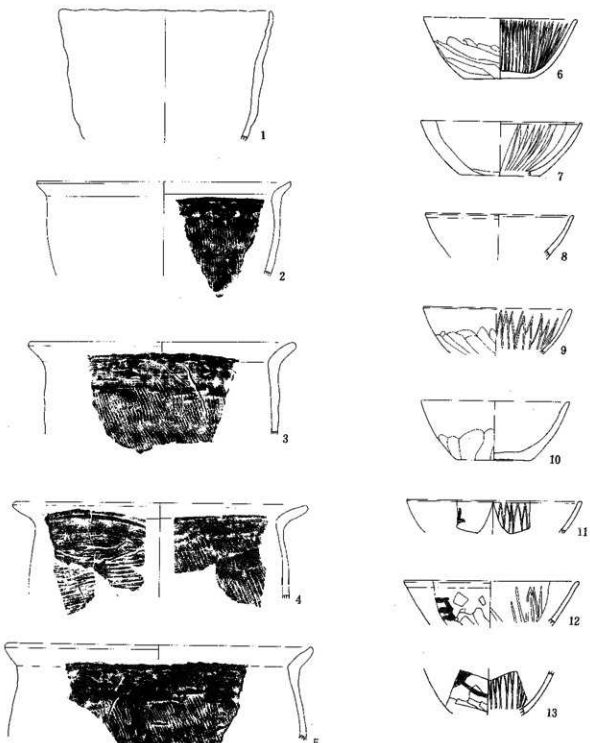


第45図　58号土坑実測図（1／40）

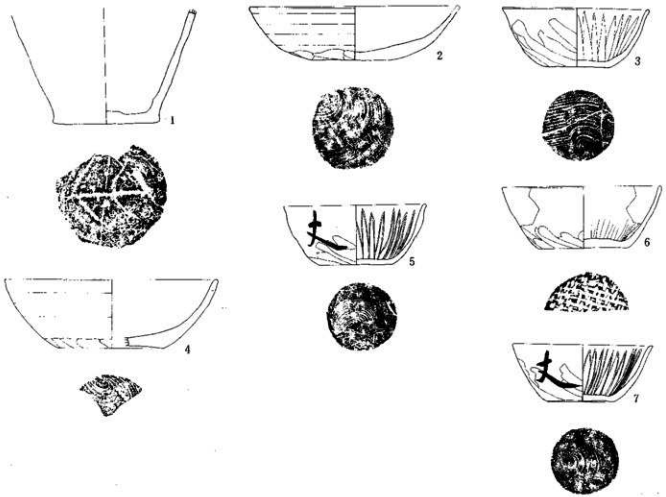
iii　出土した遺物

出土遺物は縄文時代中期・晩期の土器・石鏃・石匙、平安時代の土器、中世の土器である。

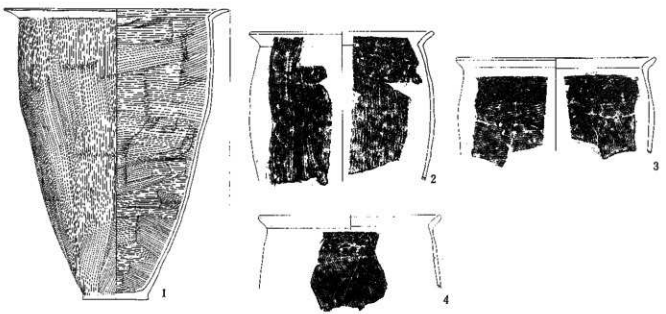
第46図　1号住居址出土土器実測図（1／3）（平安時代－1、中世－2）



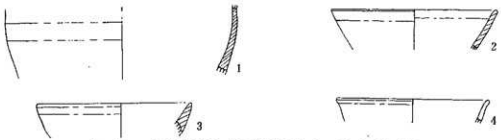
第47図－1　2号住居址出土土器実測図（1／3）（平安時代）



第47図－2　2号住居址出土土器実測図（1／3）（平安時代）



第47図－3　2号住居址出土土器実測図（1／6）（平安時代）

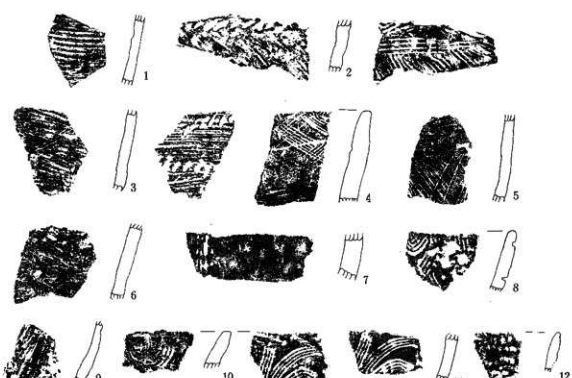


第48図　3号住居址出土土器実測図（1／3）（平安時代）

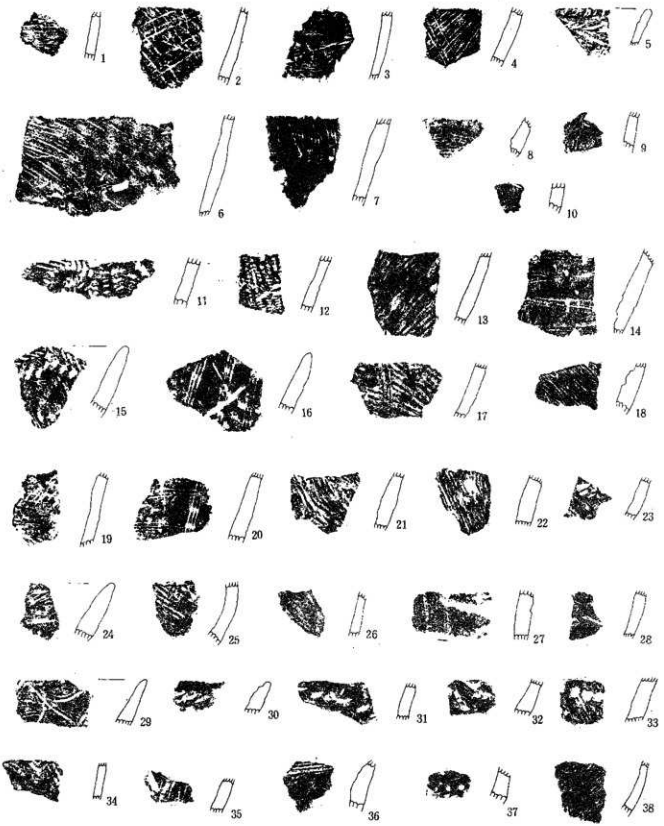
第49図　4号住居址出土土器実測図（1／3）（縄文時代）

第50図　5号住居址出土土器実測図（1／3）（縄文時代－1・平安時代－2・3）

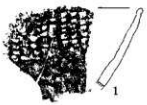
第51図　21号土坑出土土器実測図(1／3)(縄文時代－1、中世－2)

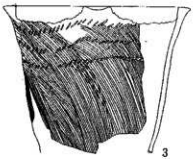


第52図　24・25号土坑出土土器実測図（1／3）（SK24－1～9、SK25－10～12）

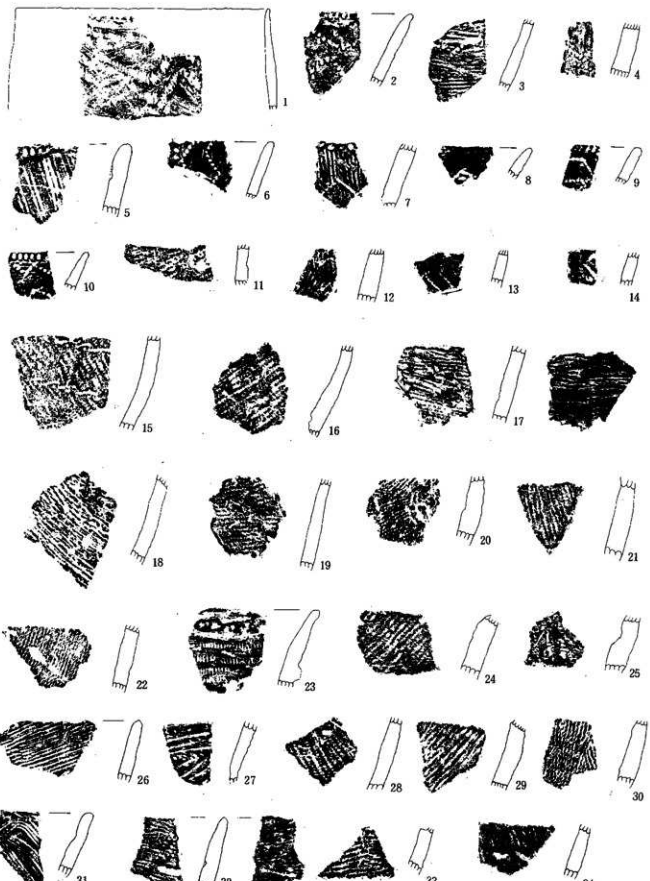


第53図　36・37・45・48・57・62号土坑出土土器実測図（1／3）
（SK36－1・SK37－2・SK45－3～7・SK48－8～10・SK57－11～35・SK62－36～38）

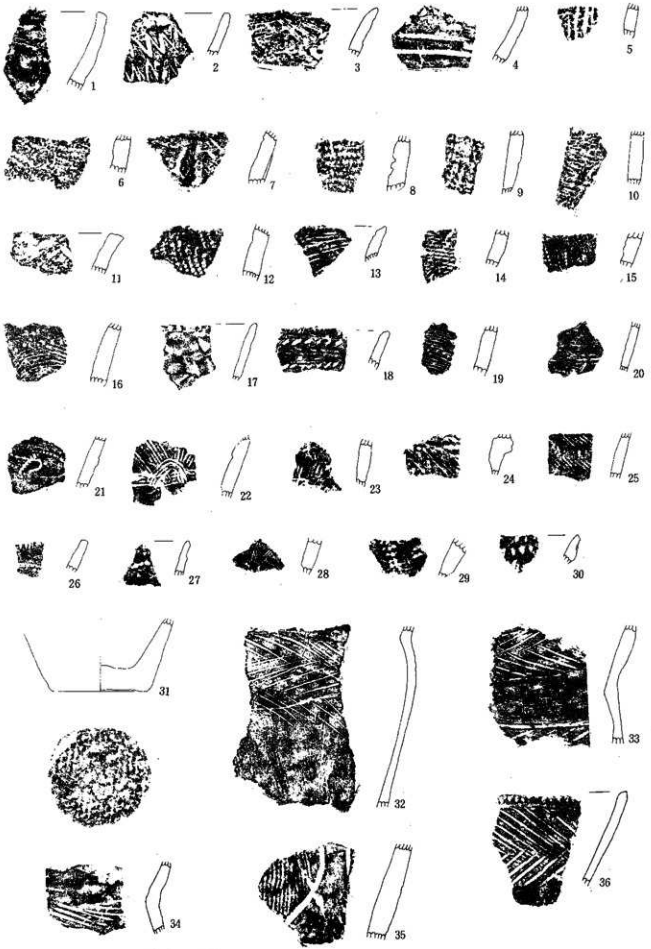




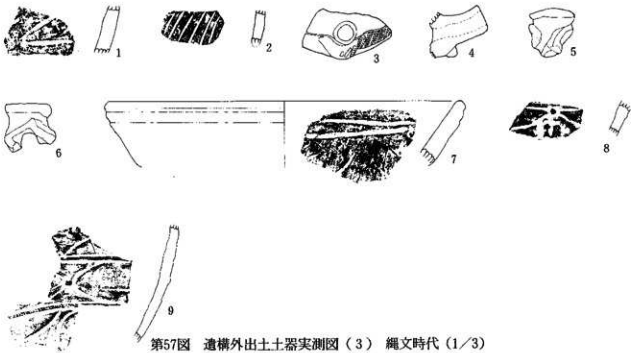
第54図　土坑出土土器実測図（1／6）
（ＳＫ５－１・ＳＫ６－２・ＳＫ24－３～５・ＳＫ45－６・ＳＫ46－７・ＳＫ58－８）



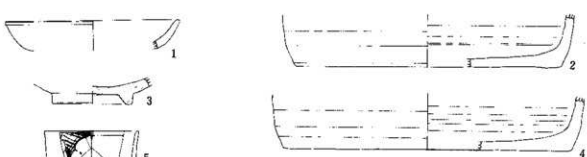
第55図　遺構外出土土器実測図（1）（1／3）（縄文時代）



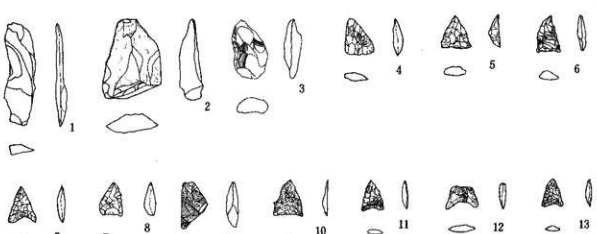
第56図　遺構外出土土器実測図（２）（1／3）（縄文時代）



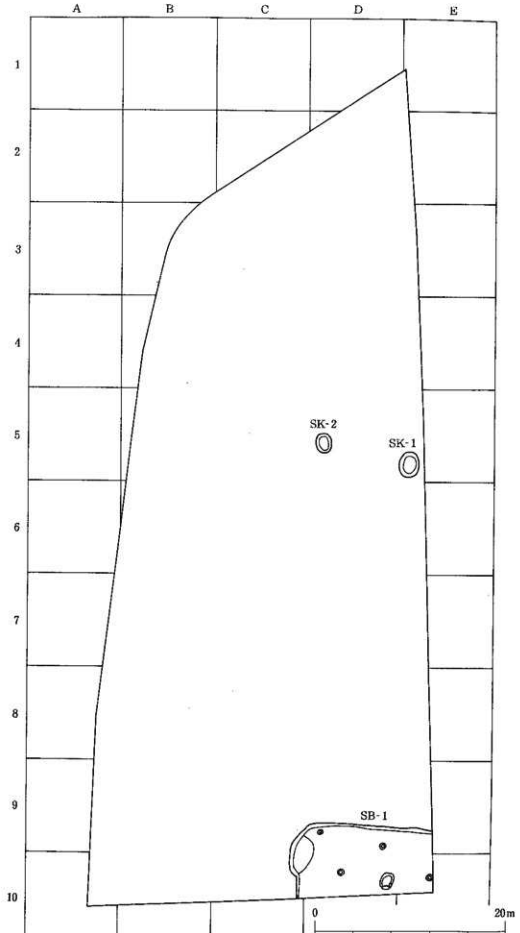
第57図　遺構外出土土器実測図（３）　縄文時代（1／3）



第58図　遺構外出土土器実測図（３）(1／3)（平安時代－１・３、中世－２・４、近世－５）



第59図　石鏃実測図（1／2）（遺構外－１～11、ＳＫ45－13、ＳＫ57－12）



第1図　当り町遺跡遺構分布図（1／400）

第Ⅵ章　当り町遺跡

i　遺跡の環境

本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村山西割76番地に所在し、標高約720ｍを測る。地形は、南北に走るやせ尾根の頂上部に位置する。県道高根長坂線（県道17号線）の標高約750ｍ以下より弥生時代の遺跡が確認されている。本遺跡は町内で最初に調査された弥生時代の遺跡である。水田遺跡は確認されていない。隣町の長坂町に弥生時代の柳坪遺跡がある。

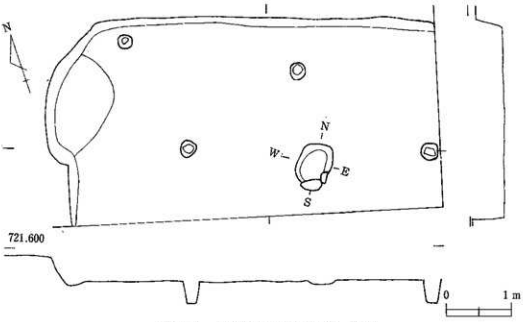
ii　検出された遺構

検出された遺構は、弥生時代後期の焼失家屋１軒と土坑２基である。土坑内からは出土遺物はなく、時期不明であるが、土坑付近からキセルが出土しているため、時期は近世と推定される。

(1)　竪穴住居址

１号住居址（ＳＢ－１）第２図

本遺跡の南東部（グリッドＣ－９・10、Ｄ－９・10、Ｅ－９・10）に位置する。本住居址の約半分は調査区外となっており、十分調査できなかった。土坑等による撹乱はなく、生活雑器の遺物が少ないことなどから、家屋を廃棄して焼失したと見られる。



第２図　１号住居址実測図（1／60）

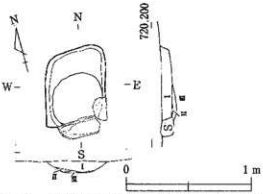
柱穴は４基検出され、中央部の柱穴３基が主柱穴と思われる。炉を中央部と仮定するなら、東西約８ｍ、南北４ｍの隅丸長方形の住居址と見られる。炉の１部に２個の石が用いられた石囲い炉で、南北72cm・東西45cmを測る。

土層説明

第Ⅰ層　茶褐色土層（粘性ややあり、しまりややあり、焼土粒子を含む）

第Ⅱ層　黒色土層（炭化物層）

第Ⅲ層　暗茶褐色土層（粘性ややあり、しまりややあり、焼土粒子を含む）



第３図　１号住居址石囲い炉実測図（1／30）

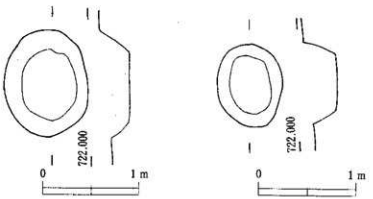
(2) 土　　坑

1号土坑（SK－1）第4図

位置－グリッドE－5。形状－楕円形、長径57cm・短径43cm・深さ10～17cmを測る。

2号土坑（SK－2）第5図

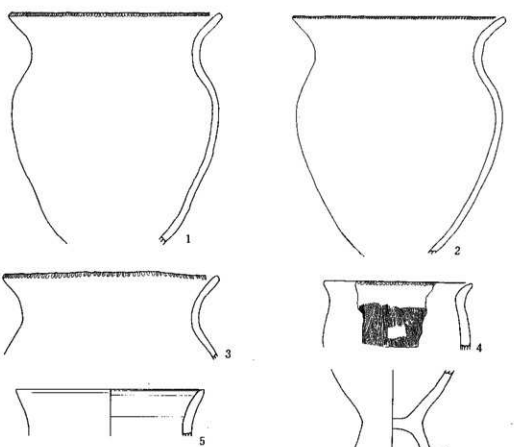
位置－グリッドD－5。形状－楕円形、長径44cm・短径33cm・深さ14～20cmを測る。



第4図　1号土坑実測図（1／40）　第5図　2号土坑実測図（1／40）

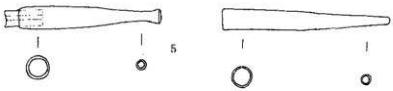
iii 出土した遺物

検出遺物は、1号住居址から弥生時代の土器（第6図）、遺構外から平安時代の須恵器・土師器（第7図）、近世のキセル（第8図）が出土した。



第6図　1号住居址出土土器実測図（1／3）（弥生時代）

第7図　遺構外出土遺物実測図（1／3）（平安時代）

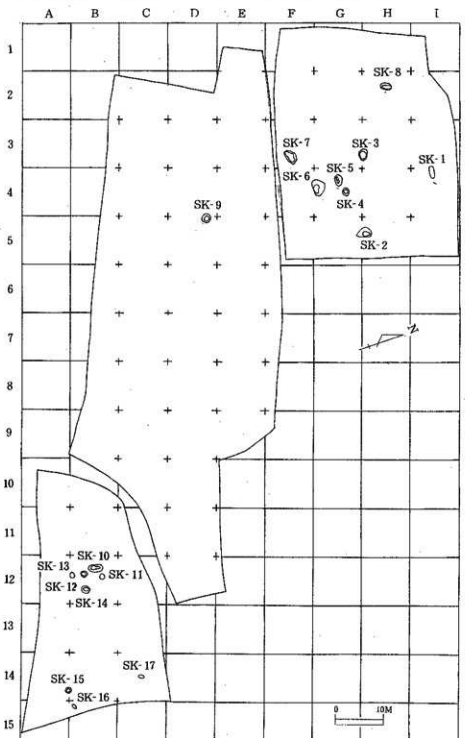


第8図　遺構外出土遺物実測図（1／3）（近世）

第Ⅶ章　薬師堂東遺跡

i　遺跡の環境

本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町長沢字薬師堂2808番地外に所在し、標高約910mを測る。地形は、北から南に流れる微高地上に位置し、その尾根は堤山（950m）に連続する。薬師堂遺跡（平成元年調査）とは、土地改良事業により分割されてしまったが、本来同一遺跡である。



第１図　薬師堂東遺跡遺構分布図

ii　検出された遺構

検出された遺構は、時期不明の土坑17基である。

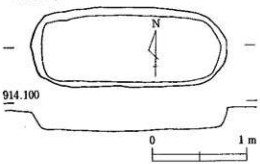
(1)　土　　坑

1号土坑（SK－1）第2図

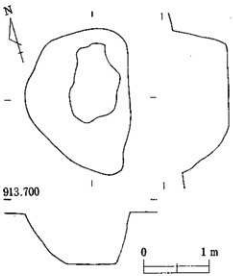
位置－グリッドI－3、I－4にまたがる。形状－楕円形、長径2m6cm・短径84cm・深さ20cmを測る。

2号土坑（SK－2）第3図

位置－グリッドG－4、H－4にまたがる。形状－楕円形、長径3m32cm・短径1m64cm・深さ74～86cmを測る。



第2図　1号土坑実測図（1／40）



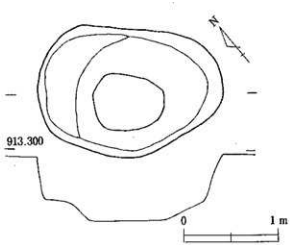
第3図　2号土坑実測図（1／60）

3号土坑（SK－3）第4図

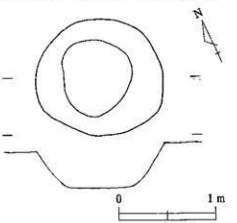
位置－グリッドG－3、H－3にまたがる。形状－楕円形、長径1m96cm・短径1m36cm・深さ70cmを測る。

4号土坑（SK－4）第5図

位置－グリッドG－4。形状－楕円形、長径1m36cm・短径1m22cm・深さ40～44cmを測る。



第4図　3号土坑実測図（1／40）



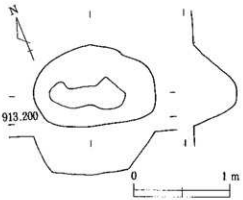
第5図　4号土坑実測図（1／40）

5号土坑（SK－5）第6図

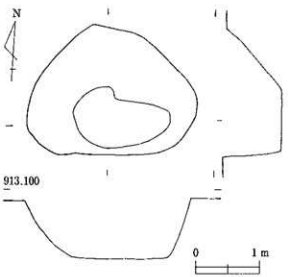
位置－グリッドG－4。形状－楕円形、長径1m94cm・短径1m30cm・深さ64cmを測る。

6号土坑（SK－6）第7図

位置－グリッドF－4、G－4にまたがる。形状－楕円形、長径2m66cm・短径2m6cm・深さ98cmを測る。



第6図　5号土坑実測図（1／40）



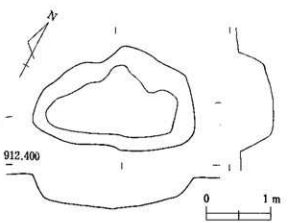
第7図　6号土坑実測図（1／60）

7号土坑（SK－7）第8図

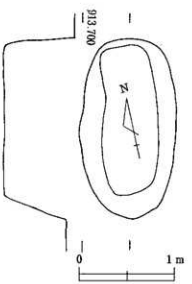
位置－グリッドF－3。形状－楕円形、長径2m56cm・短径1m28cm・深さ56cmを測る。

8号土坑（SK－8）第9図

位置－グリッドH－2。形状－楕円形、長径1m90cm・短径1m2cm・深さ72cmを測る。



第8図　7号土坑実測図（1／60）



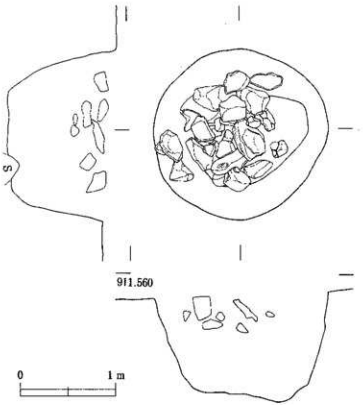
第9図　8号土坑実測図（1／40）

9号土坑（ＳＫ－９）第10図

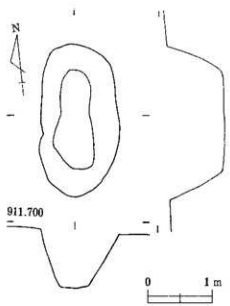
位置－グリッドＤ－４、Ｄ－５にまたがる。形状－円形、直径１ｍ50cm・深さ97cmを測る。集石あり。

10号土坑（ＳＫ－10）第11図

位置－グリッドＧ－４。形状－楕円形、長径１ｍ94cm・短径１ｍ30cm・深さ64cmを測る。



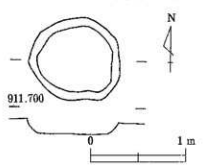
第10図　９号土坑実測図（1／40）



第11図　10号土坑実測図（1／60）

11号土坑（ＳＫ－11）第12図

位置－グリッドＢ－12。形状－楕円形、長径96cm・短径86cm・深さ16cmを測る。



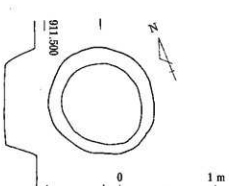
第12図　11号土坑実測図（1／40）

12号土坑（ＳＫ－12）第13図

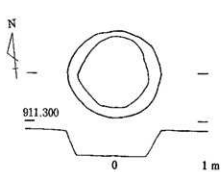
位置－グリッドＢ－12。形状－円形、直径１ｍ12cm・深さ32cmを測る。

13号土坑（ＳＫ－13）第14図

位置－グリッドＢ－12。形状－円形、直径96cm・深さ26cmを測る。



第13図　12号土坑実測図（1／40）



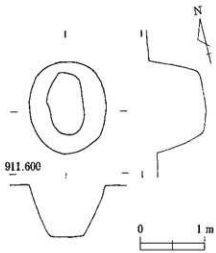
第14図　13号土坑実測図（1／40）

14号土坑（ＳＫ－14）第15図

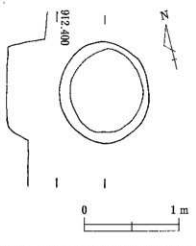
位置－グリッドＢ－12。形状－楕円形、長径１ｍ46cm・短径１ｍ20cm・深さ84cmを測る。

15号土坑（ＳＫ－15）第16図

位置－グリッドＡ－14、Ｂ－14にまたがる。形状－楕円形、長径１ｍ6cm・短径92cm・深さ20～36cmを測る。



第15図　14号土坑実測図（1／60）



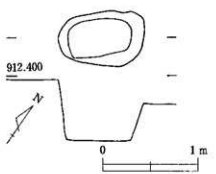
第16図　15号土坑実測図（1／40）

16号土坑（ＳＫ－16）第17図

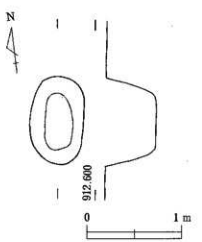
位置－グリッドＢ－15。形状－楕円形、長径90cm・短径56cm・深さ40～64cmを測る。

17号土坑（ＳＫ－17）第18図

位置－グリッドＢ－12。形状－楕円形、長径１ｍ46cm・短径１ｍ20cm・深さ84cmを測る。



第17図　16号土坑実測図（1／40）



第18図　17号土坑実測図（1／40）

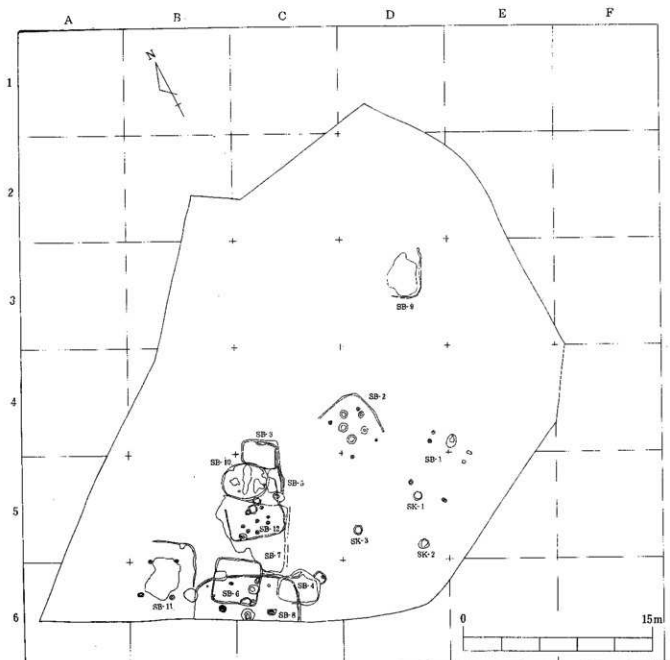
ⅲ　出土した遺物

出土遺物は、縄文時代前期と思われる土器片が極少量認められたものの、遺構との関係は不明である。

第Ⅷ章　高　内　遺　跡

i　遺跡の環境

本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村山西割字高内749番地外に所在し、標高約700mを測る。地形は、尾根の西南に面する傾斜面上に位置する。



第1図　高内遺跡遺構分布図（1／300）

ii　検出された遺構

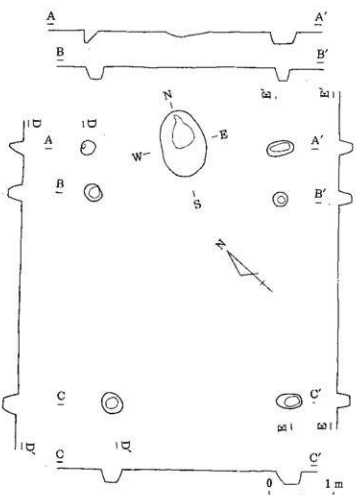
検出遺構は、弥生時代の住居址４軒、平安時代の住居址７軒、時期不明の竪穴遺構２基、時期不明の掘建柱建物址群がある。

(1)　竪穴住居址

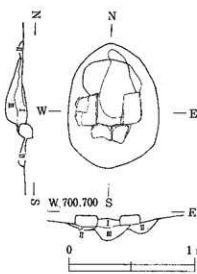
１号住居址（ＳＢ－１）第２図

本遺跡の中央部右下に位置する。グリッドＤ－４・Ｄ－５・Ｅ－４・Ｅ－５にまたがる。６基の柱穴と石囲い炉により住居址と確認された。耕作等による撹乱が著しく、掘込は確認できず、規模は不明である。確認された柱穴及び炉の位置により推定すると長軸約７ｍ・短軸約５ｍの楕円形ないし小判形をしていると思われる。柱穴間は南北２間（４ｍ24cm）・東西１間（３ｍ20cm）、柱穴はほぼ円形で、直径24～44cm・深さ20cmを測る。遺物は確認できなかった。

住居址内にやや北に奥まった位置に４個の平らな河原石を置いた状態で、検出されている。全長１ｍ・幅72cm・深さ17cmを測る。弥生時代の住居址と推定される。



第２図　１号住居址実測図（1／60）



第３図　１号住居址石囲い炉実測図（1／30）

土層説明

第Ⅰ層　灰褐色土層（粘性・しまりなし、焼土粒子を含む）

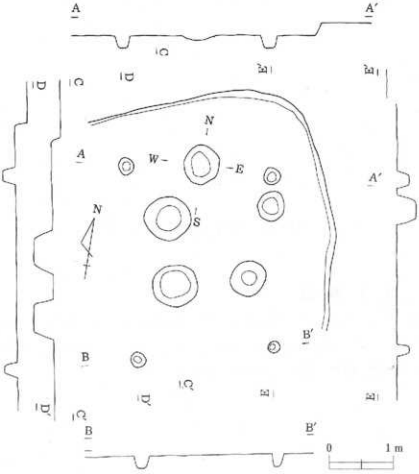
第Ⅱ層　黒褐色土層（粘性・しまり弱、カーボン焼土粒子を含む）

第Ⅲ層　赤褐色土層（焼土層）

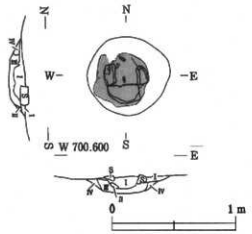
２号住居址（ＳＢ－２）第４図

本遺跡のほぼ中央部に位置する。グリッドＣ－４・Ｄ－４にまたがる。住居址の壁高10cm程度の掘込みが、北壁・東壁に残る。プランは断定できないが、一辺約４ｍ50cm前後の隅丸方形と思われる。周溝は見られない。主柱穴（直径約25cm程度）が４基検出された。柱間寸法は２ｍ40cm～３ｍ35cm大きさである。時期不明のピット４基（直径50～70cm）が検出された。

住居址の北側の位置に炉が構築され、平石３個が置かれた状態で検出された。円形で、直径約65cmを測る。弥生時代の住居址と推定される。



第４図　２号住居址実測図（1／60）



土層説明

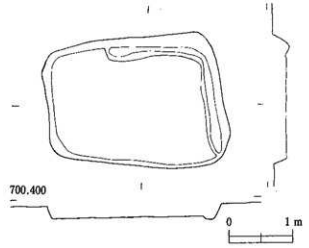
第Ⅰ層　黒褐色土層（粘性・しまり弱、カーボン焼土粒子を含む）
第Ⅱ層　黄灰褐色土層（灰層、粘性あり、しまりややあり）
第Ⅲ層　黄赤褐色土層（焼土層、粘性なし、しまり弱）
第Ⅳ層　暗黄褐色土層（粘性なし、しまり弱、ロームブロック・焼土粒子を含む）

第５図　２号住居址石囲い炉実測図（1／30）

3号住居址（ＳＢ－３）第６図

本遺跡の中央部左下のグリッドＣ－４・Ｃ－５にまたがって位置する。形状は隅丸長方形で、長軸２ｍ80cm・短軸２ｍ２cm・深さ30cmを測る。周溝が北・西側に残り、幅約10cmを測る。

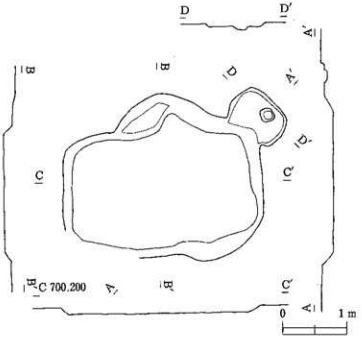
カマドや遺物の検出・出土がみられず、時期不明である。住居以外の目的で使用されたとも思われる。



第６図　３号住居址実測図（1／60）

4号住居址（ＳＢ－４）第７図

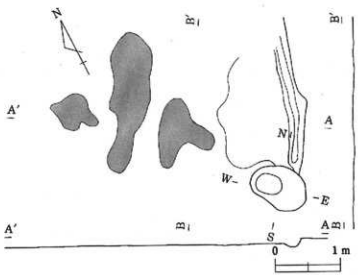
本遺跡の南側のグリッドＣ－６に位置する。形状は隅丸長方形で、長軸１ｍ98cm・短軸70cm・深さ10cmを測る。カマド、柱穴が確認されなかった。炭化した米が160ℓが覆土から出土したが、具体的な遺物がないため時期不明で、蔵などの建物と推定される。



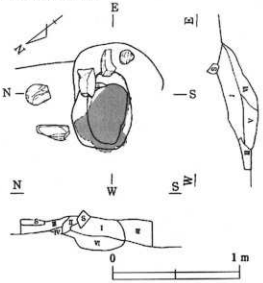
第７図　４号住居址実測図（1／60）

5号住居址（ＳＢ－５）第８図

本遺跡の中央部左下のグリッドＣ－５に位置する。10号住居址と重複している。耕作などにより破壊されており、西側のみに周溝が確認されているが、プランは確認できない。カマドの検出により、住居址と確認された。カマドも破壊され掘込みのみである。全長45㎝・幅32㎝・深さ27㎝を測る。住居内に土間状に踏み固められた場所がある。平安時代の住居址と推移される。



第８図　５号住居址実測図（1／60）

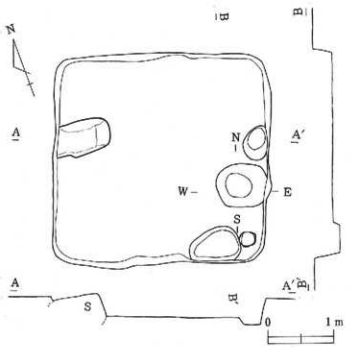


第９図　５号住居址カマド実測図（1／30）

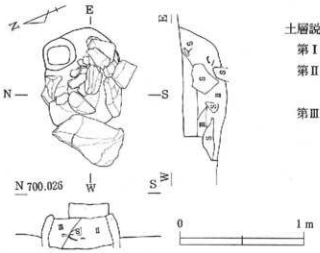
土層説明
- 第Ⅰ層　茶褐色土層（粘性なし、しまりややあり、焼土粒子を含む）
- 第Ⅱ層　茶褐色土層（粘性なし、しまりややあり、焼土粒子・ロームブロックを含む）
- 第Ⅲ層　黒褐色土層（粘性ややあり、しまりなし）
- 第Ⅳ層　黄褐色土層（粘性なし、しまりややあり、ロームブロックを含む（ボロボロしている））
- 第Ⅴ層　灰赤褐色土層（粘性ややあり、しまりややあり、灰を含む）
- 第Ⅵ層　赤褐色土層（粘性なし、しまりややあり、ロームの焼土層）

6号住居址（ＳＢ－６）第10図

本遺跡の南側のグリッドＢ－６・Ｃ－６にまたがってに位置する。形状は一辺３ｍ40㎝四方の隅丸方形で、深さ50㎝を測る。周溝はなく、西壁に大きな自然石がある。遺存状態は良好である。カマドは東壁にあり、掘込みが浅い。全長49㎝・幅35㎝・深さ35㎝を測る。天井石、袖石（２個）、支脚石が残されている。平安時代の住居址と推定される。



第10図　６号住居址実測図（1／60）



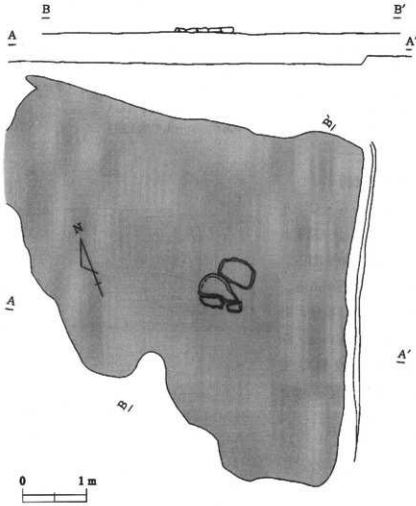
土層説明

第Ⅰ層　茶褐色土層（粘性なし、しまりややあり）
第Ⅱ層　黒褐色土層（粘性なし、しまりややあり、焼土粒子・ローム粒子を含む）
第Ⅲ層　黒褐色土層（粘性なし、しまりややあり）

第11図　6号住居址カマド実測図（1／30）

7号住居址（ＳＢ－7）第12図

本遺跡の南側のグリッドＣ－5に位置する。床面に4個の石が置かれている。床は踏み固められた跡がある。掘込み（深さ7㎝を測る）が西側のみ残存している。プランは確認できない。カマドの検出により、住居址と確認された。カマドも破壊され掘込みのみである。全長45㎝・幅32㎝・深さ27㎝を測る。住居内に土間状に踏み固められた場所がある。平安時代の住居址と推定される。



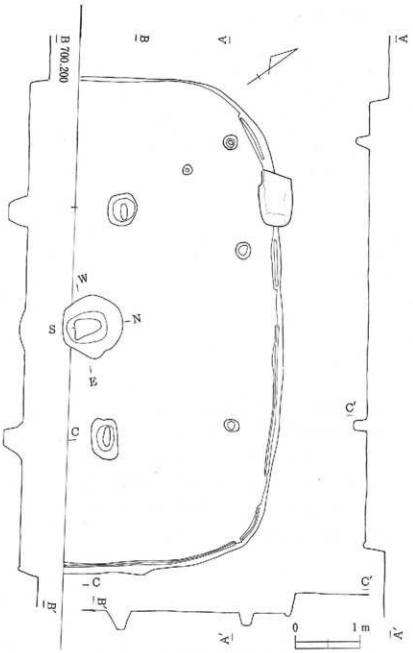
第12図　7号住居址実測図（1／60）

8号住居址（ＳＢ－８）

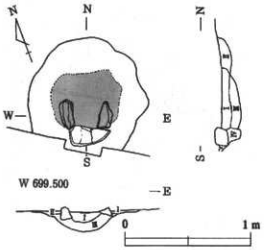
第13図

本遺跡の南側のグリッドＢ－６・Ｃ－６にまたがって位置する。形状は長軸約８ｍ・短軸約６ｍの四方の隅丸方形ないし小判形で、深さ30cmを測る。大型の住居址である。周溝は北西にある。柱穴は４基見られるが、主柱穴は６基作られていたと推定される。ピット２本がある。50～60cm・深さ30cmを測る。

石囲い炉は住居址中央部にあると思われ、平石３個がある。全長51cm・幅48cm・深さ21cmを測る。遺存状態は良好であったが、南側は遺構の半分は道路のため調査できなかった。弥生時代と推定される。



第13図　８号住居址実測図（1／60）



第14図　８号住居址石囲い炉実測図（1／30）

土層説明

第Ⅰ層　明灰褐色土層（粘性ややあり、しまり羽、粒子が細かい）

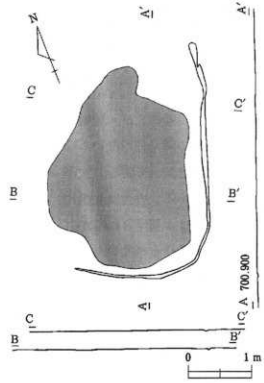
第Ⅱ層　黒褐色土層（粘性・しまりややあり、焼土粒子を含む）

第Ⅲ層　黄赤褐色土層（焼土層）

第Ⅳ層　暗灰褐色土層（粘性なし、しまりあり、焼土粒子・ロームブロックを含む）

9号住居址（ＳＢ－９）第15図

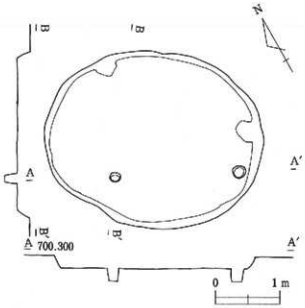
本遺跡の中央部のグリッドＤ－３に位置する。ほぼ半分が削り取られており、プランは不確定であるが、１辺約３ｍ50cm前後の隅丸方形を呈すると思われる。掘込みがなく、東・西側に周溝がある。踏み固められた土間状の跡がある。覆土中より土師器が出土しているため、平安時代の住居址と推定される。



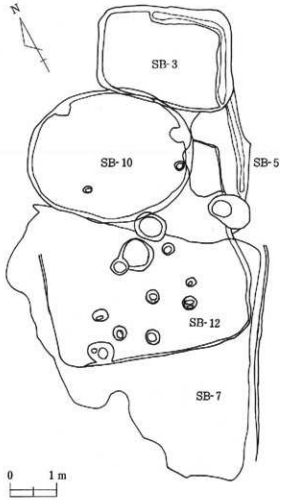
第15図　９号住居址実測図（1／60）

10号住居址（ＳＢ－10）第16図

本遺跡の南西部のグリッドＢ－５・Ｃ－５にまたがって位置する。形状は楕円形ないし小判形で、長軸３ｍ50cm・短軸２ｍ80cm・深さ10cmを測り、周溝はない。柱穴２本が検出され、直径20cm・柱間寸法２ｍ16cmを測る。弥生時代の住居址と推定される。



第16図　10号住居址実測図（1／60）

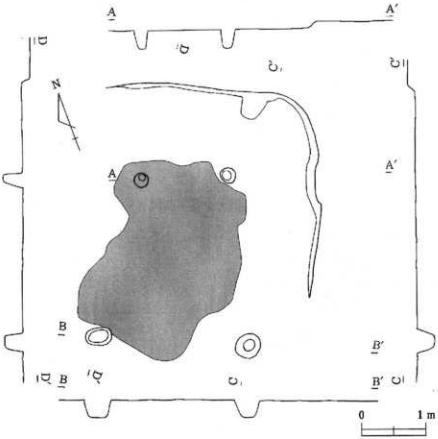


第17図　3・5・7・10・12号住居址実測図（1／80）

11号住居址（ＳＢ－11）

第18図

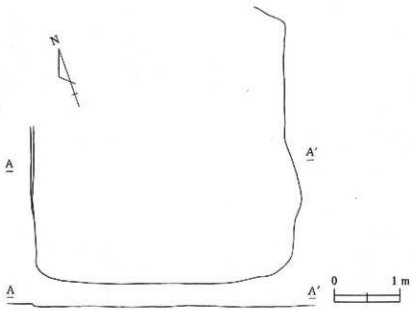
本遺跡の南西部のグリッドＢ－５・Ｂ－６にまたがって位置する。西壁・南壁は耕作により破損していたが、形状は隅丸方形と推定される。14cmほどの掘込みが北壁・西壁に見られる。周溝はない。主柱穴４基が検出され、直径20～40cm・柱間寸法２～３ｍを測る。住居内に踏み固められた跡がある。平安時代の住居址と推定される。



第18図　11号住居址実測図（1／60）

12号住居址（ＳＢ－12）第19図

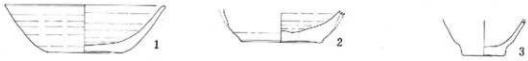
本遺跡の南西のグリッドＢ－５・Ｂ－６にまたがって位置する。西壁・南壁が破損していたが、形状は隅丸方形と推定される。14cmほどの掘込みが北壁・西壁に見られる。周溝はない。主柱穴４基が検出され、直径20～40cm・柱間寸法２～３ｍを測る。住居内に踏み固められた土間状の痕跡がある。平安時代の住居址と推定される。



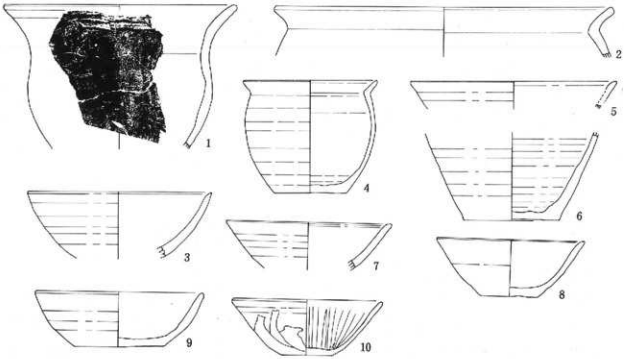
第19図　12号住居址実測図（1／60）

iii 出土した遺物

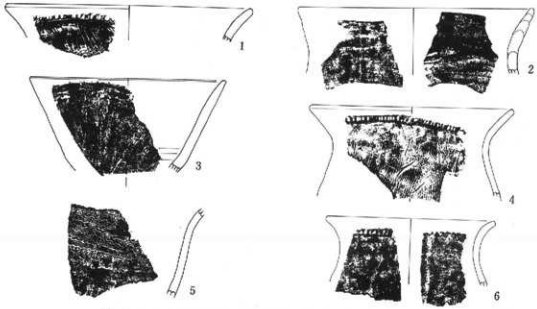
出土遺物は、縄文時代の土器1片・石錘（第26図1）、弥生時代の土器（第23図1・4、第25図1～11）、平安時代の土器（第19～22図、第23図2・3、第24図）、中世の土器（第25図12）、銅製輪（第26図2）、砥石である。



第20図　5号・6号住居址出土土器実測図（平安時代）（1／3）（SB5－1・2、SB6－3）

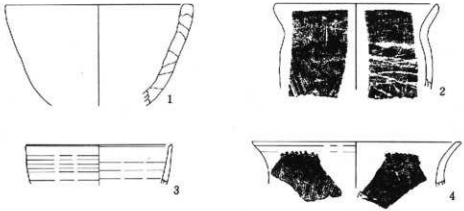


第21図　7号住居址出土土器実測図（平安時代）（1／3）

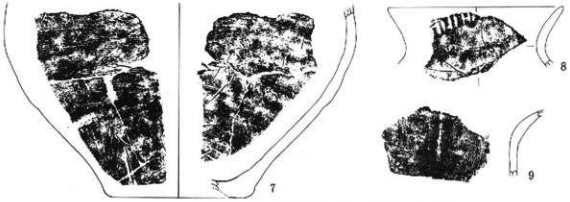


第22図　8号住居址出土土器実測図（平安時代）（1／3）

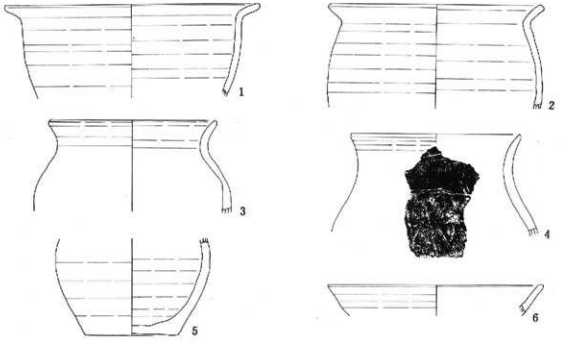
第23図　9号住居址出土土器実測図（平安時代）（1／3）



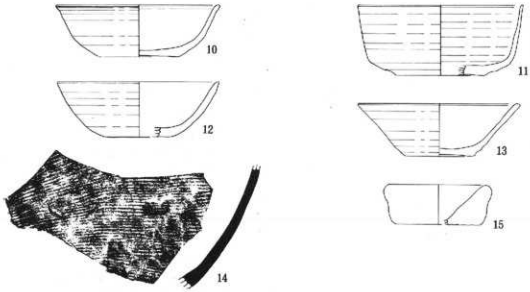
第24図　10号・12号住居址出土土器実測図（弥生時代－1・4、平安時代－2・3）（1／3）
（SB10－1～3、SB12－4）



第25図　遺構外出土土器実測図（1）（弥生時代）（1／3）



第26図　遺構外出土土器実測図（2）（平安時代）（1／3）



第27図　遺構外出土土器実測図 (3)（平安時代－10～14、中世－15）(1／3)

第28図　石錘・銅製輪実測図（遺構外）(1／1)

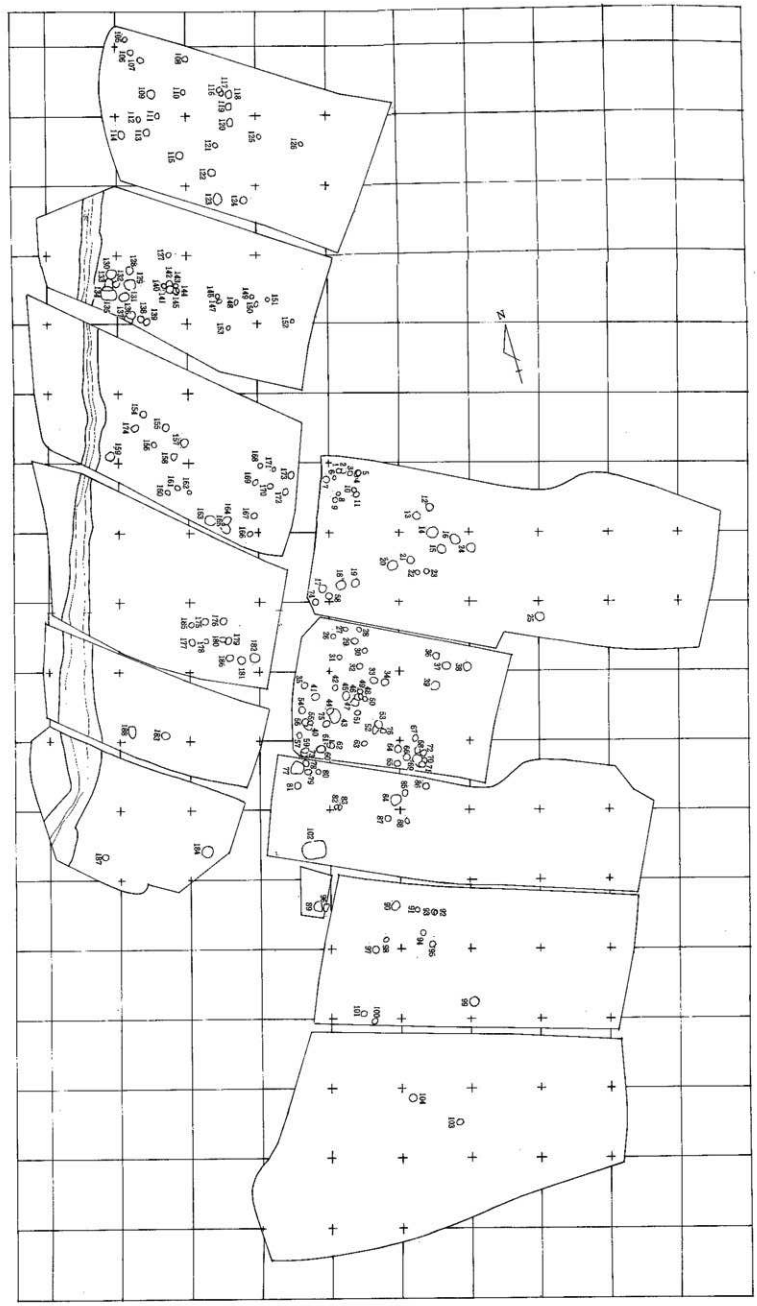
第Ⅸ章　原家の前遺跡

i　遺跡の環境

本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町長沢字原家の前2792－1番地外に所在し、標高約920mを測る。地形は、尾根の頂上部にあり、尾根西側は崖で、その比高差約20mを測る。

本遺跡遺構分布図は折込み別紙で図示した。

第1図　原家の前遺跡遺構分布図（1／100）



ii　検出された遺構

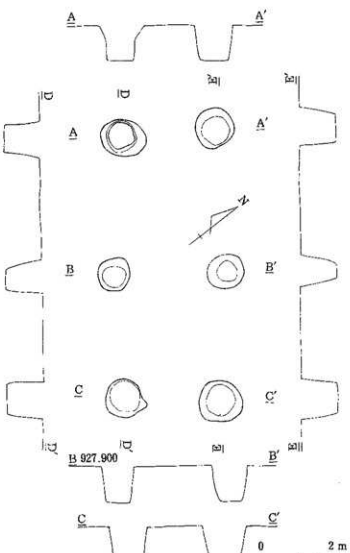
検出遺構は、掘建柱建物址３棟、縄文時代中期から近世に渡る土壙で、173基が検出された。土器、石などの遺物が出土した遺構のみを図示した。

(1)　掘建柱建物址

３棟の掘建柱建物址の南北の軸は不統一であるが、６基の柱穴、柱穴の大きさが同じなどの共通性が見られる。

１号掘建柱建物址（ＳＨ－１）第２図

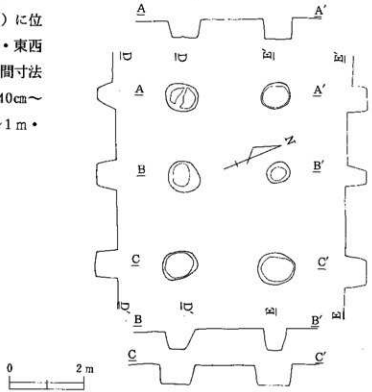
本遺跡の中央部西側（グリッドＢ－６）に位置し、南北２間（７ｍ80㎝～８ｍ28㎝）・東西１間（３ｍ48㎝～３ｍ84㎝）を測る。柱間寸法は梁（３ｍ24㎝～３ｍ84㎝）・桁（２ｍ60㎝～３ｍ）、柱穴はほぼ円形、直径80㎝～１ｍ20㎝・深さ96㎝を測る。



第２図　１号掘建柱建物址実測図（１／100）

2号掘建柱建物址（SH－2）第3図

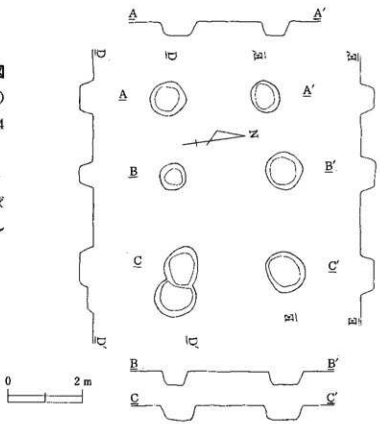
本遺跡の中央部西側（グリッドD－7）に位置し、南北1間（5m20cm～5m32cm）・東西2間（3m16cm～3m44cm）を測る。柱間寸法は梁（2m8cm～2m60cm）・桁（2m40cm～2m60cm）、柱穴はほ円形で、直径60cm～1m・深さ96cmを測る。



第3図　2号掘建柱建物址実測図（1／100）

3号掘建柱建物址（SH－3）第4図

本遺跡の中央部西側（グリッドC－9）に位置し、南北1間（3m36cm～3m64cm）・東西2間（5m60cm～6m20cm）を測る。柱間寸法は梁（2m～2m72cm）・桁（2m60cm～2m80cm）、柱穴はほぼ円形で、直径72cm～1m8cm・深さ36～40cmを測る。



第4図　3号掘建柱建物址実測図（1／100）

(2) 土　　坑

1・2号土坑（SK－1、SK－2）（第5図）

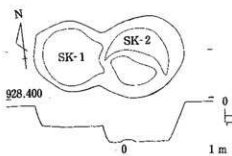
位置－グリッドE－7。両土坑は結合していた。1号土坑の形状－楕円形、長径75cm・短径72cm・深さ22cmを測る。2号土坑の形状－楕円形、長径95cm・短径82cm・深さ41cmを測る。出土遺物－第57図1。

5号土坑（SK－5）（第6図）

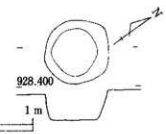
位置－グリッドE－7。形状－円形、直径72cm・深さ27～31cmを測る。出土遺物－第57図2。

9号土坑（SK－9）（第7図）

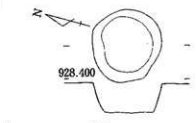
位置－グリッドE－7。形状－円形、直径75cm・深さ31cmを測る。出土遺物－第57図3。



第5図
1号・2号土坑実測図（1／40）



第6図
5号土坑実測図（1／40）



第7図
9号土坑実測図（1／40）

10号土坑（SK－10）（第8号）

位置－グリッド。10号土坑の形状－楕円形、長径68cm・短径75cm・深さ66cmを測る。11号土坑の形状－楕円形、長径88cm・短径85cm・深さ69cmを測る。出土遺物－第57図4。

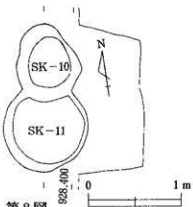
16号土坑（SK－16）（第9図）

位置－グリッドF－8。形状－楕円形、長径1m67cm・短径1m50cm・深さ32cmを測る。集積7個あり。

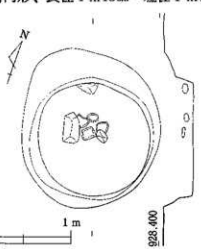
出土遺物－第57図5。

17号土坑（SK－17）（第10図）

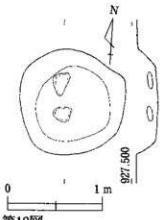
位置－グリッドD－8。形状－楕円形、長径1m18cm・短径1m11cm・深さ22mを測る。集石2個あり。出土遺物－第57図6～8。



第8図
10号土坑実測図（1／40）



第9図　16号土坑実測図（1／40）



第10図
17号土坑実測図（1／40）

21号土坑（ＳＫ－21）（第11図）

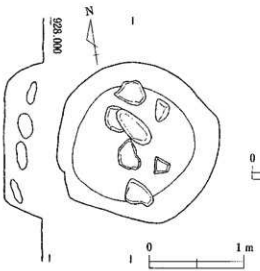
位置－グリッドＦ－７。形状－楕円形、長径１ｍ11㎝・短径１ｍ４㎝・深さ26㎝を測る。集石７個あり。出土遺物－第57図９～15。

22号土坑（ＳＫ－22）（第12図）

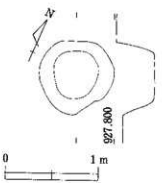
位置－グリッドＦ－８。形状－円形、直径73㎝・深さ32～39㎝を測る。出土遺物－第58図16。

23号土坑（ＳＫ－23）（第13図）

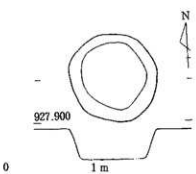
位置－グリッドＦ－７。形状－楕円形、長径75㎝・短径70㎝・深さ25㎝を測る。出土遺物－第58図17。



第11図　21号土坑実測図（１／40）



第12図
22号土坑実測図(1／40)



第13図
22号土坑実測図（１／40）

25号土坑（ＳＫ－25）（第14図）

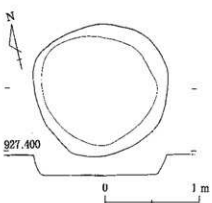
位置－グリッドＧ－９・Ｈ－９にまたがる。形状－円形、直径１ｍ43㎝・深さ22㎝を測る。出土遺物－第58図18。

27号土坑（ＳＫ－27）（第15図）

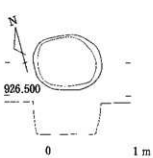
位置－グリッドＥ－９。形状－楕円形、長径73㎝・短径58㎝・深さ32㎝を測る。出土遺物－第58図19。

29号土坑（ＳＫ－29）（第16図）

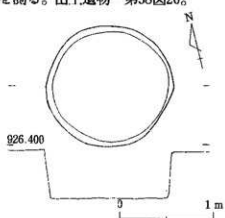
位置－グリッドＥ－９。形状－円形、直径１ｍ10㎝・深さ40㎝を測る。出土遺物－第58図20。



第14図
25号土坑実測図（１／40）



第15図
27号土坑実測図(１／40)



第16図　29号土壙実測図（１／40）

32号土坑（ＳＫ－32）（第17図）

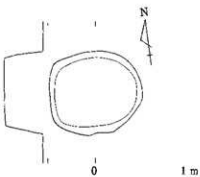
位置－グリッドＥ－９。形状－楕円形、長径97cm・短径86cm・深さ41cmを測る。出土遺物－第58図21。

33号土坑（ＳＫ－33）（第18図）

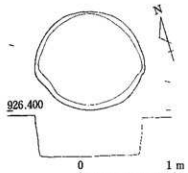
位置－グリッドＥ－10。形状－楕円形、長径１ｍ11cm・短径１ｍ５cm・深さ39～45cmを測る。出土遺物－第58図22。

34号土坑（ＳＫ－34）（第19図）

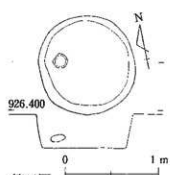
位置－グリッドＥ－10。形状－円形、直径１ｍ３cm・深さ74cmを測る。集石１個あり。



第17図
32号土坑実測図（１／40）



第18図
33号土坑実測図（１／40）



第19図
34号土坑実測図（１／40）

37号土坑（ＳＫ－37）（第20号）

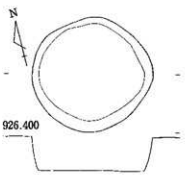
位置－グリッドＦ－９。形状－円形、直径１ｍ21cm・深さ35cmを測る。出土遺物－第58図23。

38号土坑（ＳＫ－38）（第21図）

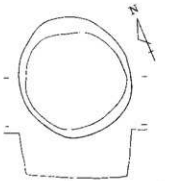
位置－グリッドＥ－10。形状－楕円形、長径１ｍ11cm・短径１ｍ５cm・深さ39～45cmを測る。出土遺物－第58図24～26。

39号土坑（ＳＫ－39）（第22図）

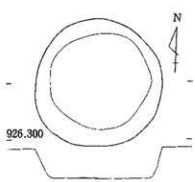
位置－グリッドＦ－10。形状－円形、直径１ｍ32cm・深さ30～34cmを測る。出土遺物－第58図27～31。



第20図
37号土坑実測図（１／40）



第21図　38号土坑実測図（１／40）



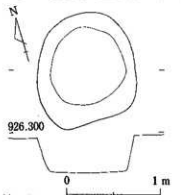
第22図
39号土坑実測図（１／40）

45号土坑（ＳＫ－45）（第23図）

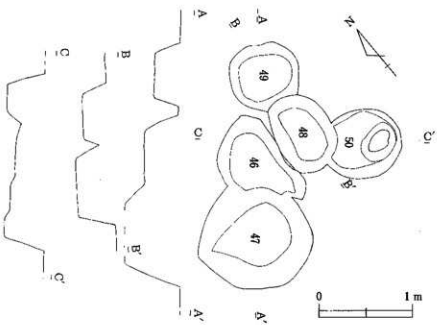
位置－グリッドＥ－10。形状－楕円形、長径１ｍ27㎝・短径１ｍ５㎝・深さ35㎝を測る。出土遺物－第58図32。

46・47・48・49・50号土坑（ＳＫ－46・47・48・49・50）（第24図）

位置－グリッドＥ－10。５基の土坑が結合していた。46号土坑の形状－楕円形、長径１ｍ８㎝・短径65㎝・深さ36㎝を測る。47号土坑の形状－円形、直径１ｍ20㎝・深さ58㎝を測る。48号土坑の形状－楕円形、長径86㎝・短径61㎝・深さ39㎝を測る。49号土坑の形状－円形、直径73㎝・深さ26㎝を測る。50号土杭坑の形状－楕円形、長径84㎝・短径74㎝・深さ41㎝を測る。47号土坑出土遺物－第59図33～43。50号土坑出土遺物－第59図44、45。



第23図
45号土坑実測図（１／40）



第24図　46・47・48・49・50号土壙実測図（１／40）

51号土壙（ＳＫ－51）（第25図）

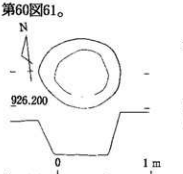
位置－グリッドＥ－10。形状－楕円形、長径86㎝・短径73㎝・深さ35～45㎝を測る。出土遺物－第59図46、47。

52・53号土坑（ＳＫ－52・53）（第26図）

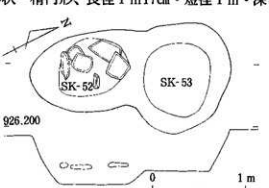
位置－グリッドＥ－10。両土坑は結合していた。52号形状－楕円形、長径１ｍ10㎝・短径72㎝・深さ52㎝を測る。集石６個あり。53号形状－楕円形、長径１ｍ14㎝・短径１ｍ・深さ42㎝を測る。52号出土遺物－第59図48～51、第60図52～59。53号出土遺物－第60図60。

54号土坑（ＳＫ－54）（第27図）

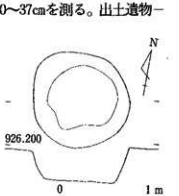
位置－グリッドＤ－10。形状－楕円形、長径１ｍ17㎝・短径１ｍ・深さ30～37㎝を測る。出土遺物－第60図61。



第25図
51号土坑実測図（１／40）



第26図　52号・53号土坑実測図（１／40）



第27図
54号土坑実測図（１／40）

57号土坑（ＳＫ－57）（第28図）

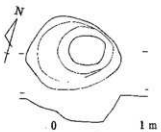
位置－グリッドＤ－10。形状－楕円形、長径１ｍ・短径77cm・深さ23～27cmを測る。出土遺物－第60図62。

60号土坑（ＳＫ－60）（第29図）

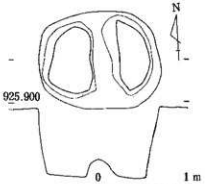
位置－グリッドＤ－11。形状－楕円形、長径１ｍ32cm・短径１ｍ２cm・深さ73～75cmを測る。出土遺物－第60図63。

72号土坑（ＳＫ－72）（第30図）

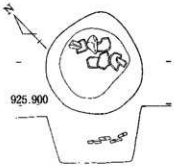
位置－グリッドＦ－11。形状－楕円形、長径１ｍ８cm・短径１ｍ３cm・深さ50～58cmを測る。石８個あり。出土遺物－第60図64～66。



第28図
57号土坑実測図（１／40）



第29図　60号土坑実測図（１／40）



第30図
72号土坑実測図（１／40）

74号土坑（ＳＫ－74）（第31図）

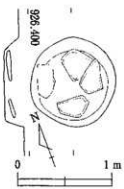
位置－グリッドＤ－８・Ｄ－９にまたがる。形状－楕円形、長径89cm・短径84cm・深さ15～20cmを測る。石４個あり。

76号土坑（ＳＫ－76）（第32図）

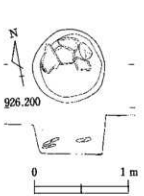
位置グリッドＥ－10。形状－円形、直径76cm・深さ30～42cmを測る。石５個あり。出土遺物－第60図67～69。

77・78号土坑（ＳＫ－77・78）（第33図）

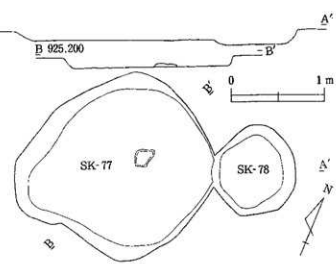
位置－グリッドＦ－11。両土坑は結合していた。77号の形状－楕円形、長径２ｍ５cm・短径１ｍ82cm・深さ11cmを測る。石１個あり。78号の形状－楕円形、長径97cm・短径85cm・深さ15cmを測る。77号出土遺物－第60図70～75。



第31図
74号土坑実測図
（１／40）



第32図
76号土坑実測図（１／40）



第33図　77・78号土坑実測図（１／40）

80号土坑（ＳＫ－80）（第34図）

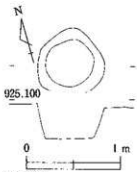
位置－グリッドＤ－11。形状－円形、直径70cm・深さ81～86cmを測る。出土遺物－第60図76。

89号土坑（ＳＫ－89）（第35図）

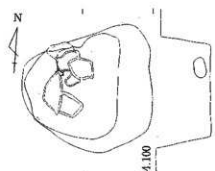
位置－グリッドＤ－13。形状－楕円形、長径１ｍ37cm・短径１ｍ17cm・深さ57cmを測る。石７個あり。出土遺物－第60図77、78。

92・93号土坑（ＳＫ－92・93）（第36図）

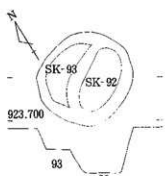
位置－グリッドＦ－13。両土坑は結合していた。92号土坑の形状－楕円形、長径１ｍ９cm・短径不明・深さ22～43cmを測る。93号土坑の形状－楕円形、長径１ｍ２cm・短径不明・深さ33～53cmを測る。92・93号出土遺物－第60図79、第64図116。



第34図
80号土坑実測図
（１／40）



第35図　89号土坑実測図（１／40）



第36図
92・93号土坑実測図
（１／40）

94号土坑（ＳＫ－94）（第37図）

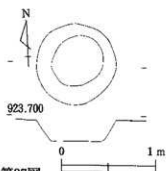
位置－グリッドＦ－13。形状－円形、直径84cm・深さ22cmを測る。出土遺物－第60図80、81。

96号土坑（ＳＫ－96）（第38図）

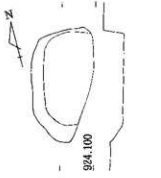
位置－グリッドＤ－13。形状－楕円形、長径１ｍ19cm・短径不明・深さ13～22cmを測る。出土遺物－第60図82～84。

97号土坑（ＳＫ－97）（第39図）

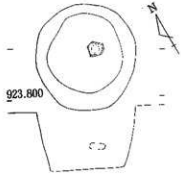
位置－グリッドＥ－13・Ｅ－14にまたがる。土壌の形状－楕円形、長径１ｍ11cm・短径１ｍ４cm・深さ65cmを測る。石１個あり。出土遺物－第60図85。



第37図
94号土坑実測図（１／40）



第38図
96号土坑実測図（１／40）



第39図
97号土坑実測図（１／40）

99号土坑（ＳＫ－99）（第40図）

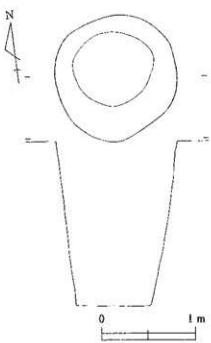
位置－グリッドＧ－14。形状－楕円形、長径１ｍ30cm・短径１ｍ35cm・深さ１ｍ74cmを測る。出土遺物－第61図86・87、第62図88・89、第64図117・118。

104号土坑（ＳＫ－104）（第41図）

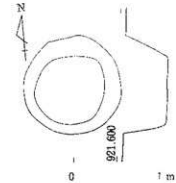
位置－グリッドＦ－16。形状－楕円形、長径１ｍ11cm・短径１ｍ４cm・深さ43cmを測る。出土遺物－第62図85～94、第64図119～121。

113号土坑（ＳＫ－113）（第42図）

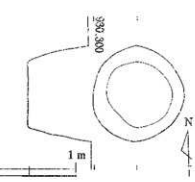
位置－グリッドＢ－２。形状－楕円形、長径１ｍ１cm・短径95cm・深さ63cmを測る。出土遺物－第62図95。



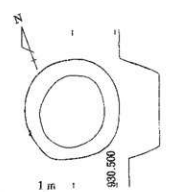
第40図　99号土坑実測図（１／40）



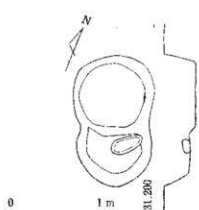
第41号
104号土坑実測図（１／40）



第42号
113号土坑実測図（１／40）



第43号
115号土坑実測図(1／40)



第44号
116号・117号土坑
実測図（１／40）

115号土坑（ＳＫ－115）（第43図）

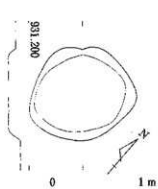
位置－グリッドＢ－２。形状－楕円形、長径１ｍ３cm・短径99cm・深さ32～41cmを測る。出土遺物－第62図96。

116・117号土坑（ＳＫ－116・117）（第44図）

位置－グリッドＣ－１。両土坑は結合していた。116号の形状－楕円形、長径86cm・短径78cm・深さ33cmを測る。117号の形状－楕円形、長径78cm・短径不明・深さ22cmを測る。石１個あり。117号出土遺物－第62図97、98。

118号土坑（ＳＫ－118）（第45図）

位置－グリッドＣ－１。形状－楕円形、長径１ｍ18cm・短径98cm・深さ７～12cmを測る。出土遺物－第61図98～101。



第45図
118号土坑実測図（１／40）

122号土坑（ＳＫ－122）（第46図）

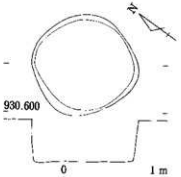
位置－グリッドＣ－２。形状－円形、直径１ｍ６ｃｍ・深さ45ｃｍを測る。出土遺物－第62図102。

125号土坑（ＳＫ－125）（第47図）

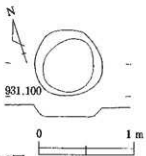
位置－グリッドＤ－２。形状－円形、直径70ｃｍ・深さ13ｃｍを測る。出土遺物－第62図102、103。

126号土坑（ＳＫ－126）（第48図）

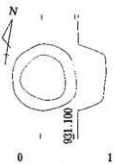
位置－グリッドＤ－２。形状－楕円形、長径70ｃｍ・短径66ｃｍ・深さ20～27ｃｍを測る。出土遺物－第63図105・106。



第46図
122号土坑実測図（１／40）



第47図
125号土坑実測図（１／40）



第48図
126号土坑実測図
（１／40）

131号土坑（ＳＫ－131）（第49図）

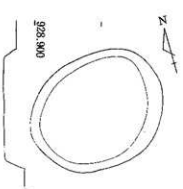
位置－グリッドＢ－４。形状－楕円形、長径１ｍ45ｃｍ・短径１ｍ13ｃｍ・深さ14～20ｃｍを測る。出土遺物－第63図107。

139号土坑（ＳＫ－139）（第50図）

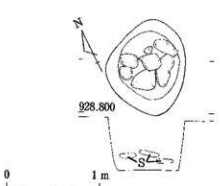
位置－グリッドＢ－４。形状－楕円形、長径１ｍ・短径81ｃｍ・深さ52～55ｃｍを測る。出土遺物－第63図108。

161号土坑（ＳＫ－161）（第51図）

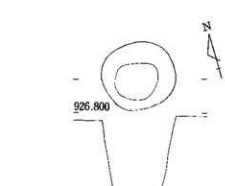
位置－グリッドＢ－７。形状－円形、直径87ｃｍ・深さ81～86ｃｍを測る。出土遺物－第63図109。



第49図
131号土坑実測図（１／40）



第50図
139号土坑実測図（１／40）



第51図
161号土坑実測図
（1／40）

162号土坑（ＳＫ－162）（第52図）

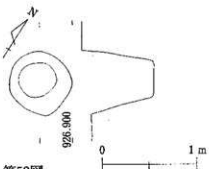
位置－グリッドＢ－７・Ｂ－７にまたがる。形状－楕円形、長径69cm・短径66cm・深さ65～76cmを測る。出土遺物－第63図110。

163号土坑（ＳＫ－163）（第53図）

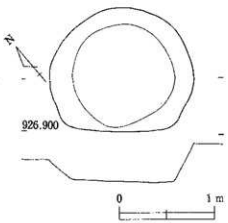
位置－グリッドＣ－７。形状－楕円形、長径１ｍ63cm・短径１ｍ30cm・深さ21～52cmを測る。出土遺物－第63図111・112。

164号土坑（ＳＫ－164）（第54図）

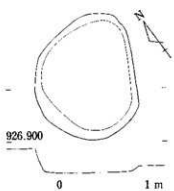
位置－グリッドＣ－７。形状－楕円形、長径１ｍ33cm・短径１ｍ５cm・深さ６～27cmを測る。出土遺物－第63図113。



第52図
162号土坑実測図（１／40）



第53図　163号土坑実測図（１／40）



第54図
164号土坑実測図（１／40）

165号土坑（ＳＫ－165）（第55図）

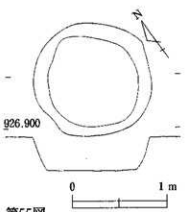
位置－グリッドＣ－７。形状－円形、直径１ｍ22cm・深さ37cmを測る。出土遺物－第63図114。

175号土坑（ＳＫ－175）（第４図）

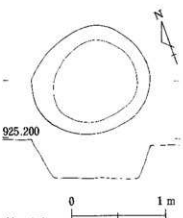
位置－グリッドＣ－９。３号掘建柱建物址の柱穴。形状－円形、直径１ｍ・深さ36cmを測る。出土遺物－第64図121。

183号土坑（ＳＫ－183）（第56図）

位置－グリッドＢ－10。形状－楕円形、長径１ｍ23cm・短径１ｍ10cm・深さ35～40cmを測る。出土遺物－第63図115。



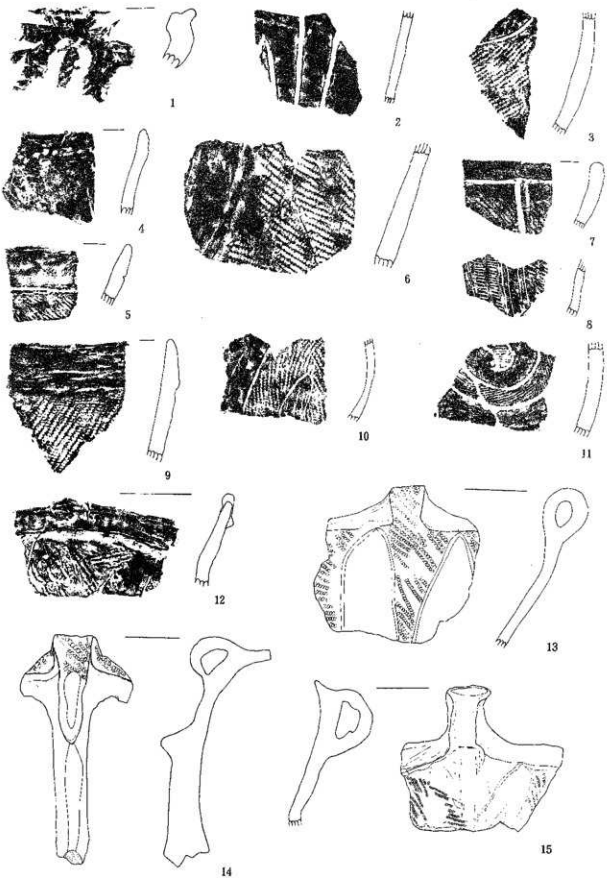
第55図
165号土坑実測図（１／40）



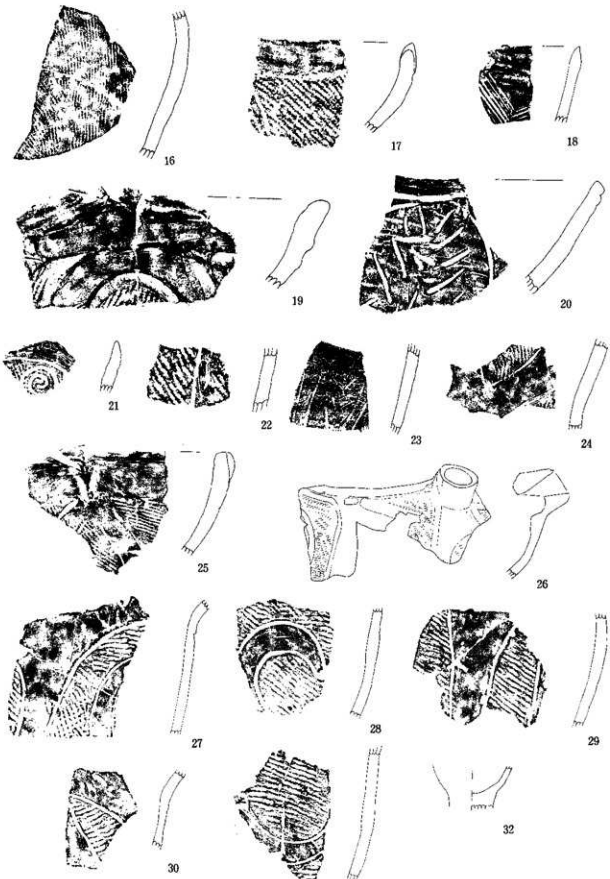
第56図
183号土坑実測図（１／40）

ⅲ　出土した遺物

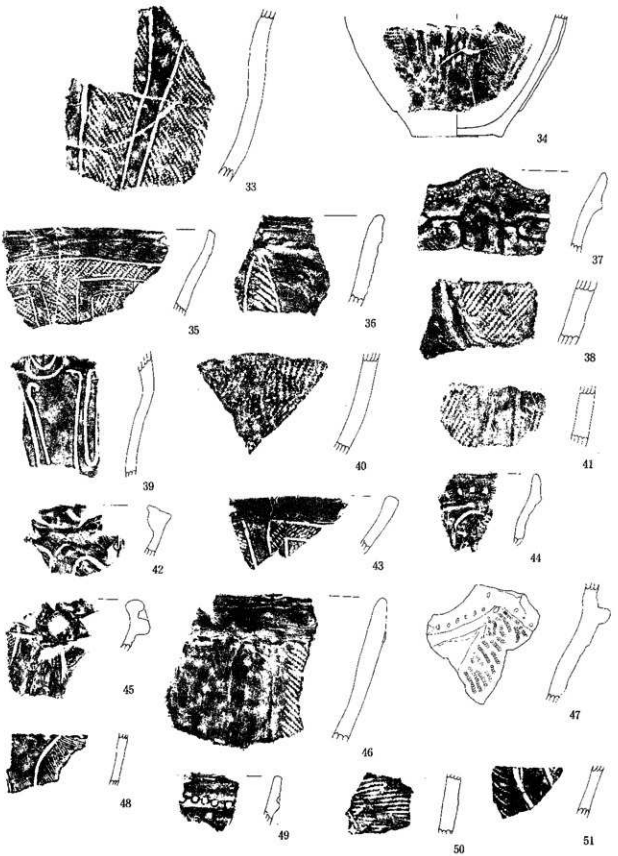
出土遺構は、縄文時代の前期末（第68図1,2）・中期初（第62図102）・後期の土器（第57～68図）、石鏃・石匙・石棒（第70図）、平安時代の土師器・須恵器（第69図1,2,3）、中世の内耳土器（第69図4）、近世の陶磁器（第69図5,6）が出土した。



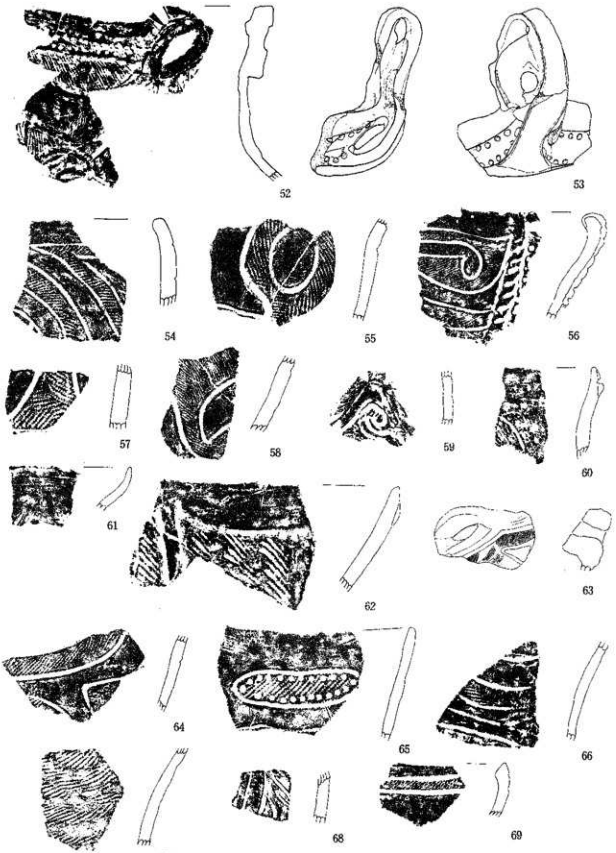
第57図　土坑出土土器実測図（1）（1／3）
（SK1・2－1、SK5－2、SK9－3、SK10－4、SK16－5、SK17－6～8、SK21－9～15）



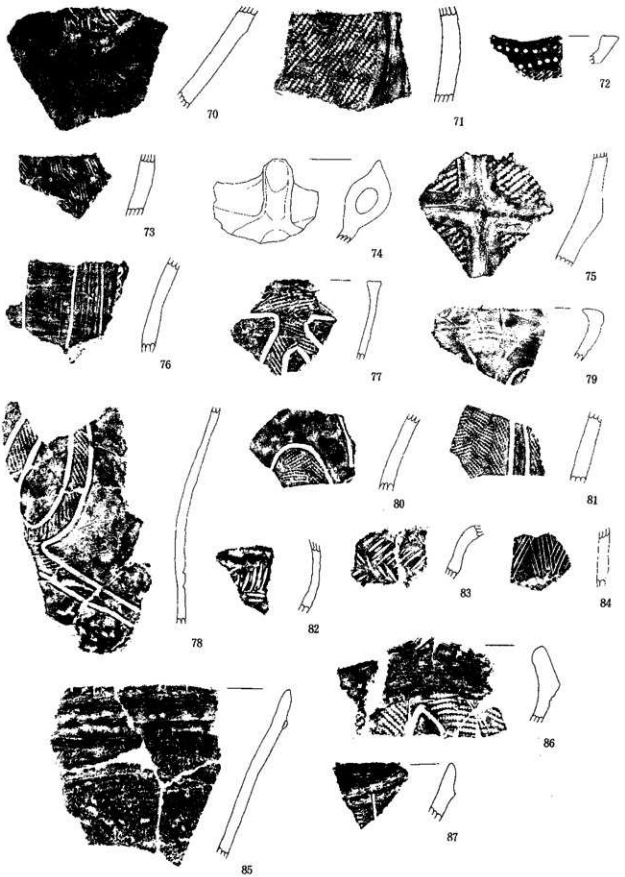
第58図　土坑出土土器実測図（2）（1／3）
（SK22－16、SK23－17、SK25－18、SK27－19、SK29－20、SK32－21
SK33－22、SK37－23、SK38－24～26、SK39－27～31、SK45－32）



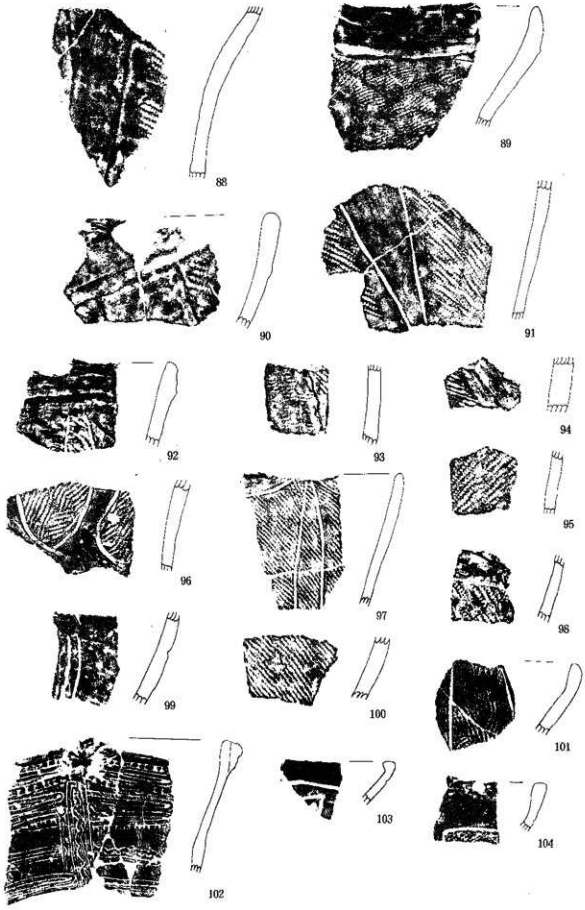
第59図　土坑出土土器実測図（3）（1／3）
（SK47－33～43、SK50－44,45、SK51－46,47、SK52－48～51）



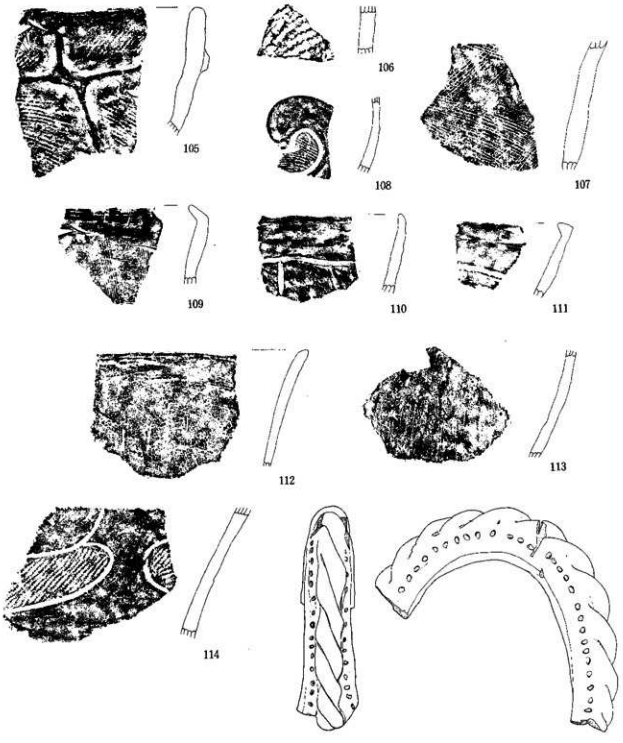
第60図　土坑出土土器実測図（4）（1／3）
（SK52－52～59、SK53－60、SK54－61、SK57－62
SK60－63、SK72－64～66、SK76－67～69）



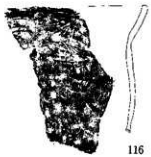
第61図　土坑出土土器実測図（5）（1／3）
（SK77－70～75、SK80－76、SK89－77,78、SK93－79
SK94－80,81、SK96－82～84、SK97－85、SK－99－86,87）



第62図　土坑出土土器実測図（6）（1／3）
（SK99－88,89、SK104－85～94、SK113－95、SK115－96、SK117－97,98
SK118－99～101、SK－122－102、SK－125－103,104）

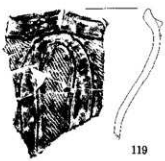


第63図　土坑出土土器実測図（7）（1／3）
（SK126－105,106、SK131－107、SK139－108、SK161－109、SK162－110
SK163－111,112、SK－164－113、SK－165－114、SK－183－115）

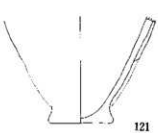

116

117

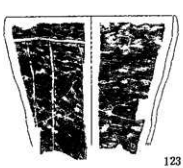
118


119

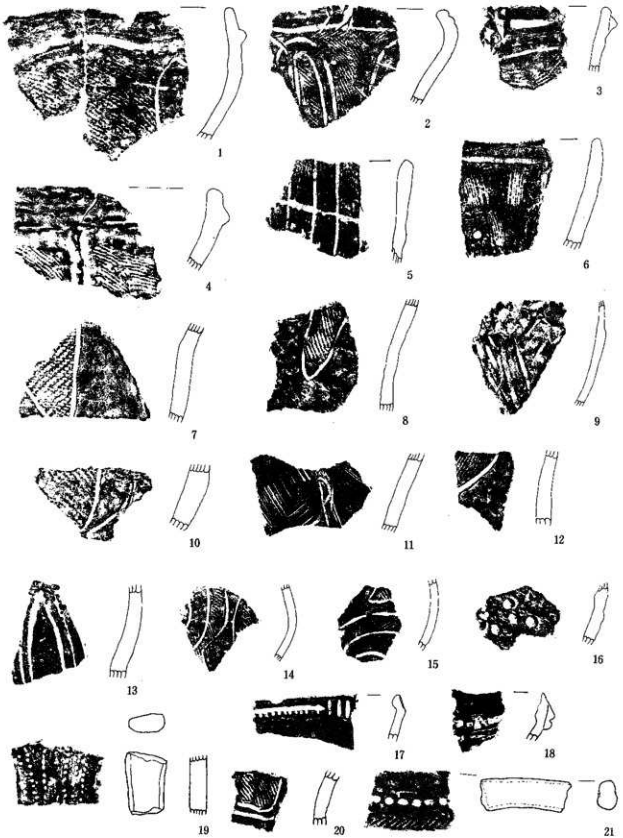
120


121

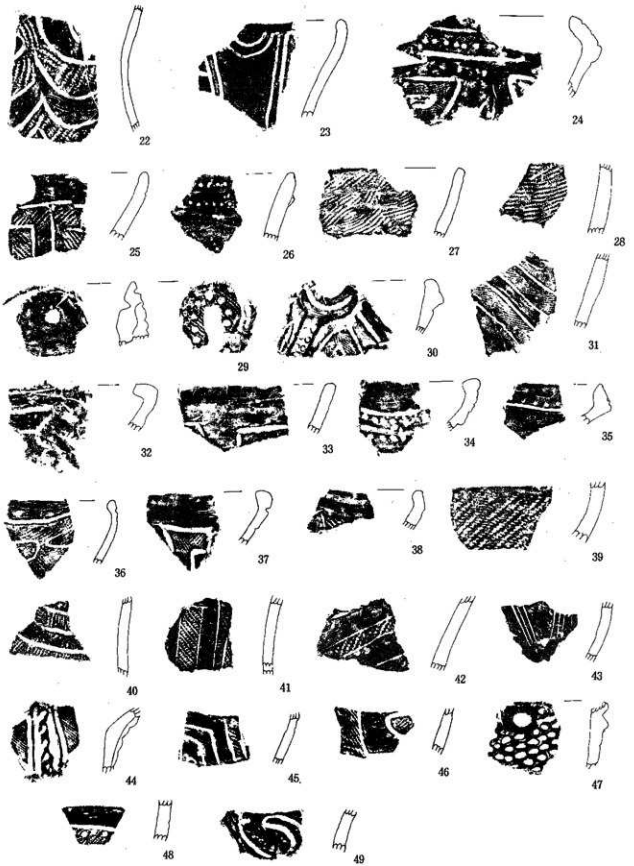
122


123

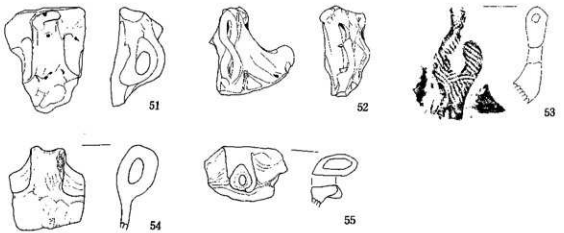
第64図　土坑・遺構外出土土器実測図（8）（1／6）
（SK92－116、SK99－117,118、SK104－119～121、SK175－122、遺構外－123）



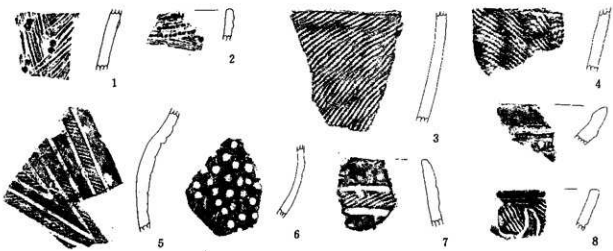
第65図　遺構外出土土器実測図（1／3）



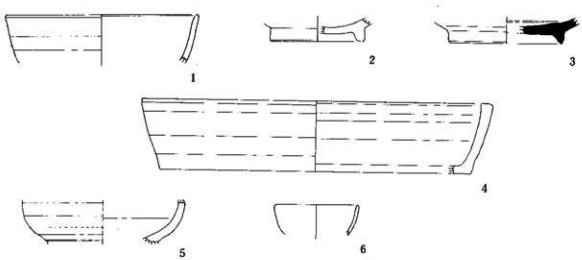
第66図　遺構外出土土器実測図（1／3）



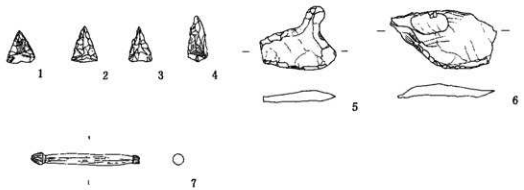
第67図　遺構外出土土器実測図（1／3）



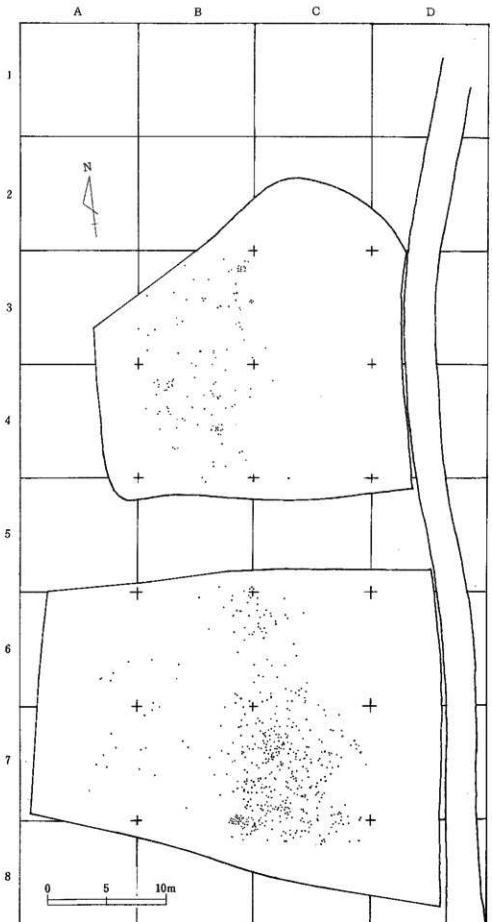
第68図　溝出土土器実測図（1）（1／3）



第69図　溝出土土器実測図（2）（1／3）
（平安－1,2,3、中世－4、近世－5,6）



第70図　石鏃・石匙・石棒実測図（1／2）
（SD1－5、遺構外－1～4,6,7）



第1図　一本松遺跡遺物出土状況図

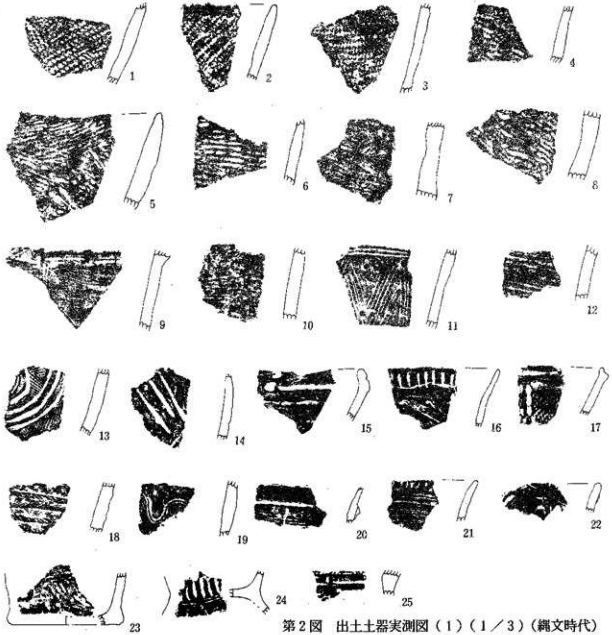
第X章　一本松遺跡

i　遺跡の環境

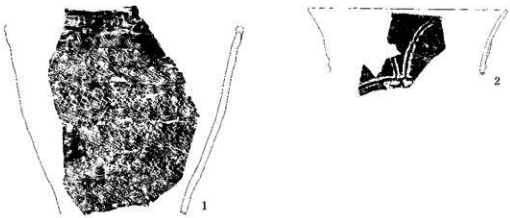
本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村山西割字一本松853番地外に所在し、標高約712mを測る。地形は、尾根から下る西斜面上に位置する。水田造成により埋土された土が混入したことにより、遺構は検出できなかった。

ii　出土した遺物

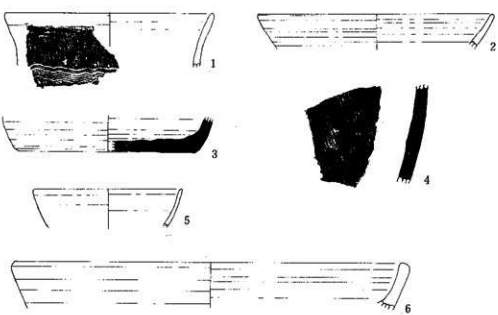
出土遺物は、黒色土中の遺物包含層に縄文時代前期から平安時代の土器片が出土した。遺物分布状況は第1図一本松遺跡遺物出土分布図の通りである。縄文時代前期の土器（第2・3図）、石鏃・石匙・打製石斧（第5図）、弥生時代の土器・平安時代の土師器・須恵器・中近世の内耳土器（第4図）、銭（第6図）が出土した。



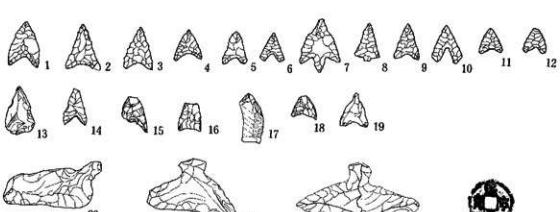
第2図　出土土器実測図（1）（1／3）（縄文時代）



第3図　出土土器実測図（2）（1／6）（縄文時代）



第4図　出土土器実測図（3）（1／3）
（1－弥生時代、2～5－平安時代、5－中近世）



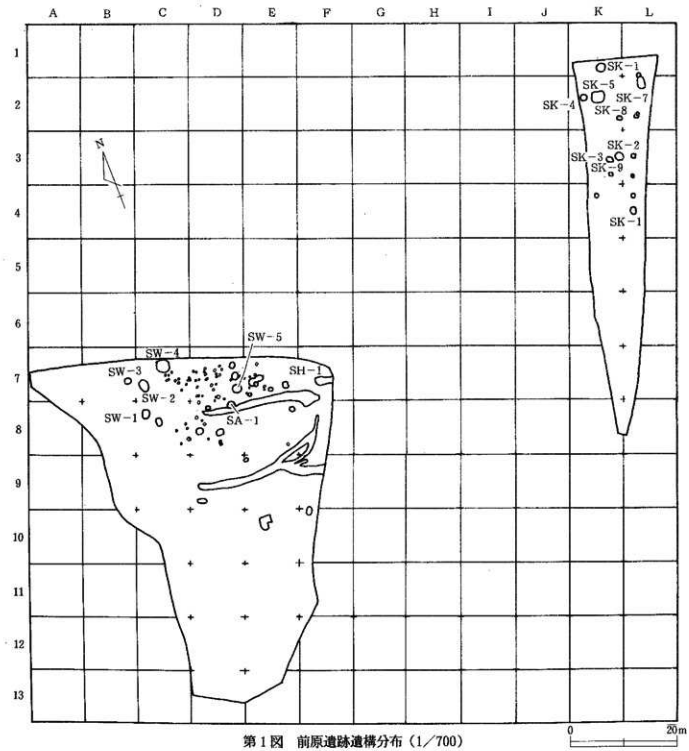
第5図　出土石鏃・石匙・打製石斧実測（1／2）

第6図　出土銭拓影
（1／2）

第Ⅺ章　前　原　遺　跡

i　遺跡の環境

本遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町東井出字前原342番地外に所在し、標高約800ｍを測る。地形は、尾根状の頂上部に位置し、東側に沢があり、その高低差約７～８ｍを測る。



第１図　前原遺跡遺構分布（1／700）

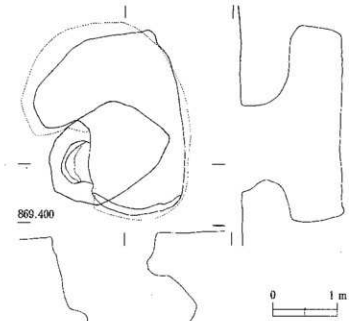
ii　検出された遺構

検出された遺物は、地下式土壙5基、土壙5基、その内中世の土壙1基、近世の井戸1基、溝1条である。

(1)　地下式土壙

1号地下式土壙（SW－1）第2図

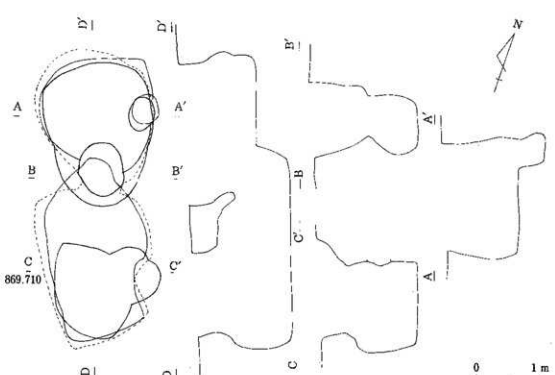
位置－グリッドC－8。竪穴の開口部の形は楕円径で、長軸1m96cm・短軸1m56cm・閉塞部1m40cm・高さ1m54cmを測る。横穴の形は楕円形で、長軸3m14cm・短軸2m・高さ90cmを測る。



第2図　1号地下式土壙実測図（1／60）

2号地下式土壙（SW－2・A、SW－2・B）第3図

位置－グリッドC－7。2号地下式土壙Aの竪穴の開口部の形は楕円形で、長径1m76cm・短径1m36cm・閉塞部1m8cm・高さ1m50cmを測る。横穴の形は方形で、長径3m24cm・短径1m36cm・閉塞部1m6cm・高さ1m18cmを測る。2号地下式土壙Bの竪穴の開口部の形は円形で、長径84cm・短径70cm・高さ1m24cmを測る。横穴の形は楕円形で、長径2m36cm・短径1m90cm・高さ1m10cm～1m20cmを測る。

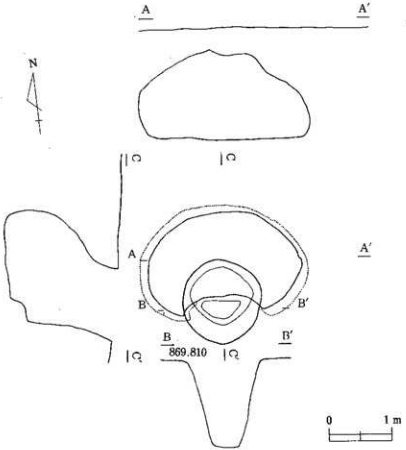


第3図　2号地下式土壙実測図（1／60）

3号地下式土壙（SW－3）

第4図

位置－グリッドB－7。竪穴の開口部の形は楕円形で、長径1m36cm・短径1m24cm・閉塞部1m10cm・高さ1m40cmを測る。横穴の形は楕円形で、長径2m70cm・短径1m80cm・高さ1m44cmを測る。

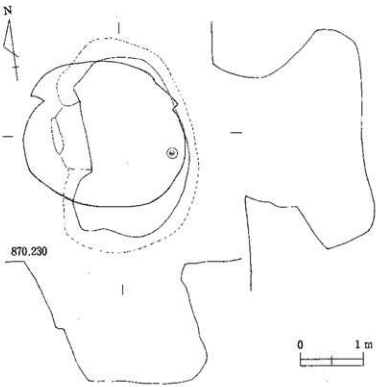


第4図　3号地下式土壙実測図（1／60）

4号地下式土壙（SW－4）

第5図

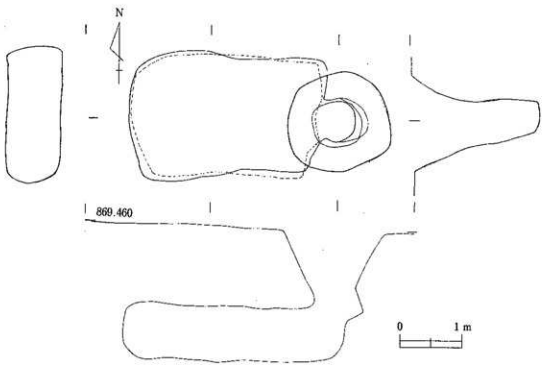
位置－グリッドC－7。竪穴の開口部の形・大きさは天井が落ちているため不明で、高さは1m90cmを測る。横穴の形は楕円形で、長径3m48cm・短径2m10cm・高さ1m20cmを測る。



第5図　4号地下式土壙実測図（1／60）

5号地下式土壙（ＳＷ－５）第６図

位置－グリッドＤ－７。竪穴の開口部の形は円形で、直径１ｍ70㎝・開塞部70㎝・高さ２ｍ10㎝を測る。横穴の形は長方形で、長軸３ｍ50㎝・短軸１ｍ90㎝・高さ86㎝を測る。遺存状況は非常に良好であった。

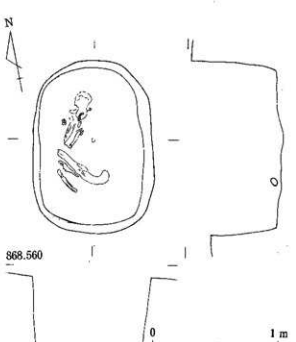


第６図　５号地下式土壙実測図（１／60）

(2) 土　　壙（坑）

１号土壙（ＳＫ－１）第７図

位置－グリッドＬ－４。形状－隅丸長方形、長軸１ｍ38㎝・短軸95㎝・深さ50～66㎝を測る骨片が出土した中世の墓壙と見られる。



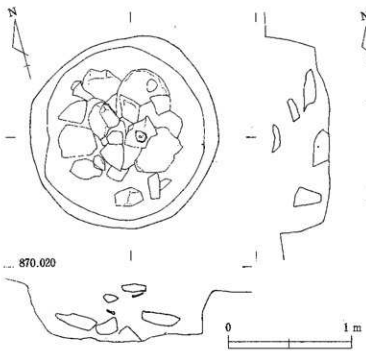
第７図　１号土壙実測図（１／30）

2号土坑（ＳＫ－２）第８図

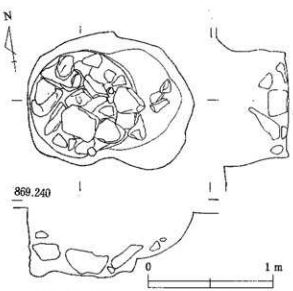
位置－グリッドＫ－３。形状－楕円形、長径１ｍ58㎝・短径１ｍ48㎝・深さ42～48㎝を測る。集石あり。

3号土坑（ＳＫ－３）第９図

位置－グリッドＫ－３。形状－楕円形、長径１ｍ33㎝・短径97㎝・深さ55㎝を測る。集石あり。



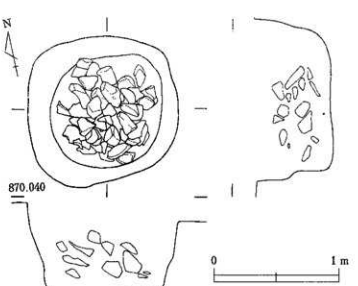
第８図　２号土坑実測図（１／30）



第９図　３号土坑実測図（１／30）

4号土坑（ＳＫ－４）第10図

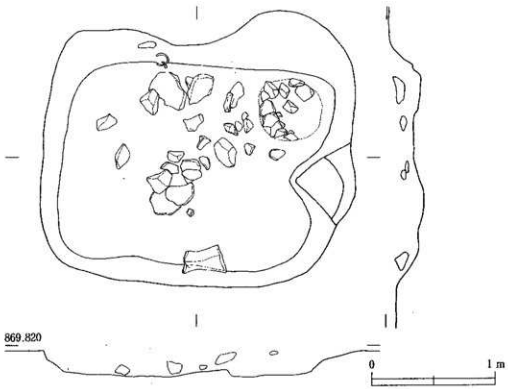
位置－グリッドＫ－２。形状－楕円形、長径１ｍ33㎝・短径１ｍ15㎝・深さ45～75㎝を測る。集石あり。



第10図　４号土坑実測図（１／30）

5号土坑（SK－5）第11図

位置－グリッドK－2。形状－隅丸長方形、長軸2m50cm・短軸1m93cm・深さ15～25cmを測る。集石あり。

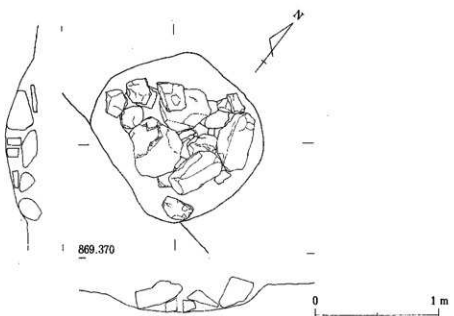


第11図　5号土坑実測図（1／30）

(3) 集石土坑

1号集石土坑（S－1）第12図

位置－グリッドD－7。形状－南側が破損しているが円形とみられ、直径2m70cm・深さ42cmを測る。

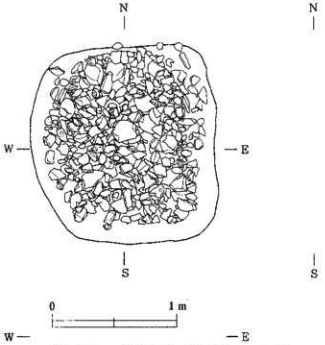


第12図　1号集石土坑実測図（1／30）

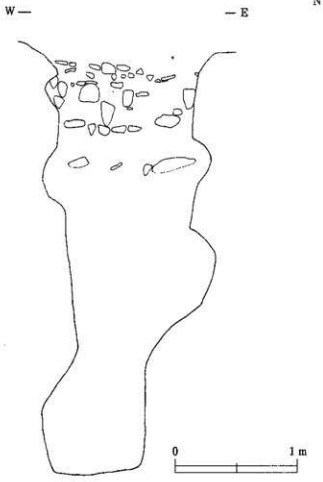
(4) 井　　戸

1号井戸（ＳＥ－１）第13図、14図－１・２

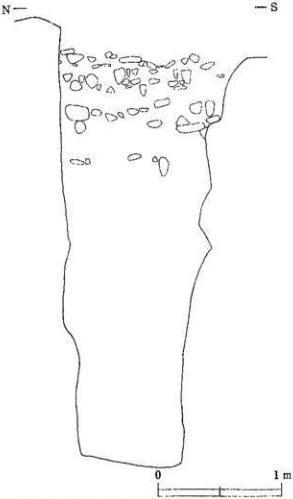
位置－グリッドＫ－１。形状－楕円形、長径１ｍ58㎝・短径１ｍ45㎝・深さ３ｍ44㎝を測る。近世の時代と見られる。



第13図　１号井戸平面実測図（１／30）



第14－１　１号井戸垂直実測図（１／30）

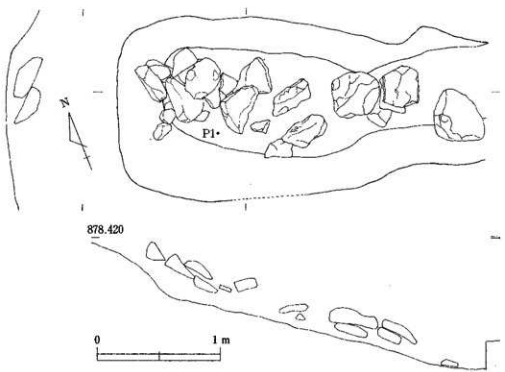


第14－２　１号井戸垂直実測図（１／30）

(5) 溝

1号溝（SH－1）

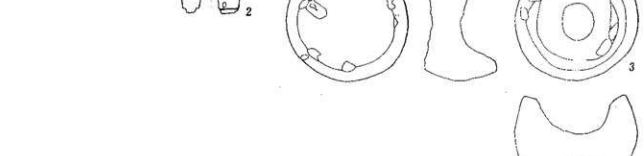
位置－グリッドF－7。東側方向に延びていると見られ、調査区域外のため切断されている。P1での高さ49cmを測る。



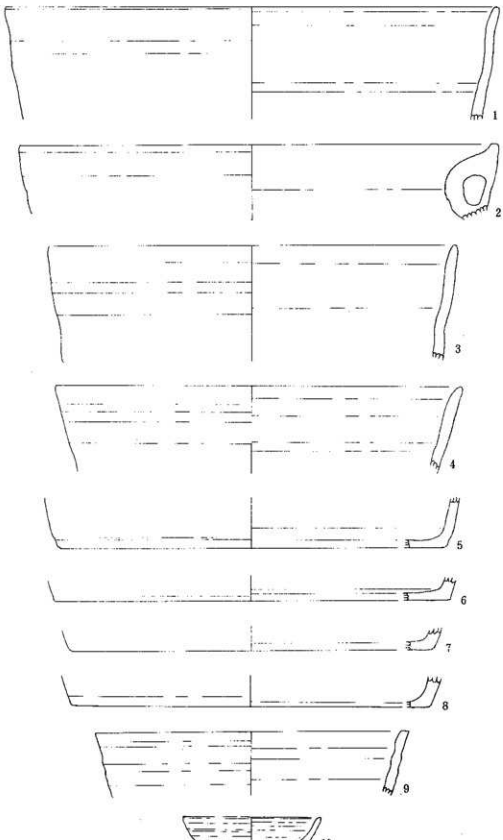
第15図　1号溝実測図（1／30）

iii　出土した遺物

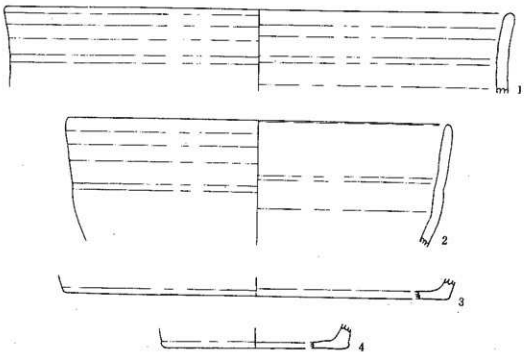
出土遺物は平安時代の須恵器（第16図1、22図1）・土師器（第24図1）、中世の内耳土器（第17図、18図、19図1、23図）・陶器（第19図2・3）、近世の陶器（第21図1、第22図2～8・24図2～5）・キセル（第21図2・3、第24図6・7）、銭（第25図）、ガラス瓶のふた・石鉢（第16図2・3）、砥石（第20図1）、こはぜ（第20図1）、こはぜ（第20図2）、不明物（第20図3）である。



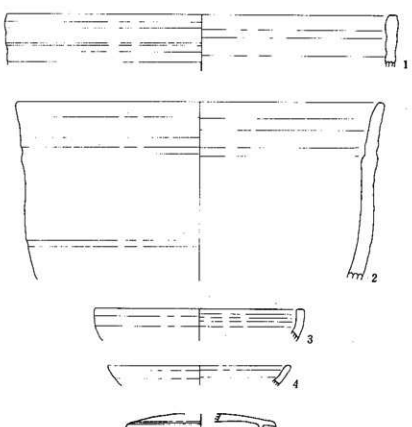
第16図　1号地下式土壙出土遺物実測図実測図（1・2－1／3、3－1／6）



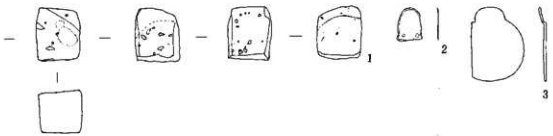
第17図　2号地下式土壙出土遺物実測図（1／3）



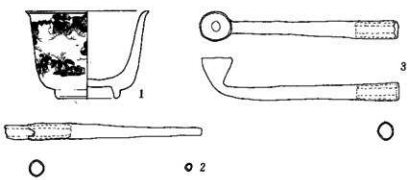
第18図　3号地下式土壙出土遺物実測図（1／3）



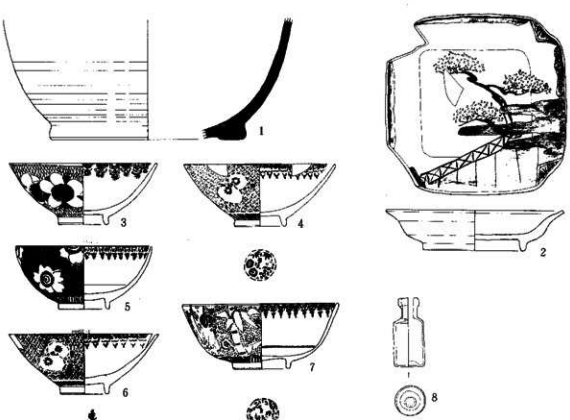
第19図　4号地下式土壙出土土器実測図（1）（1／3）



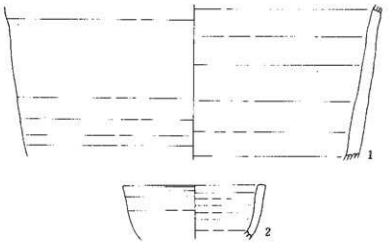
第20図　4号地下式土壙出土遺物実測図（2）（1／2）



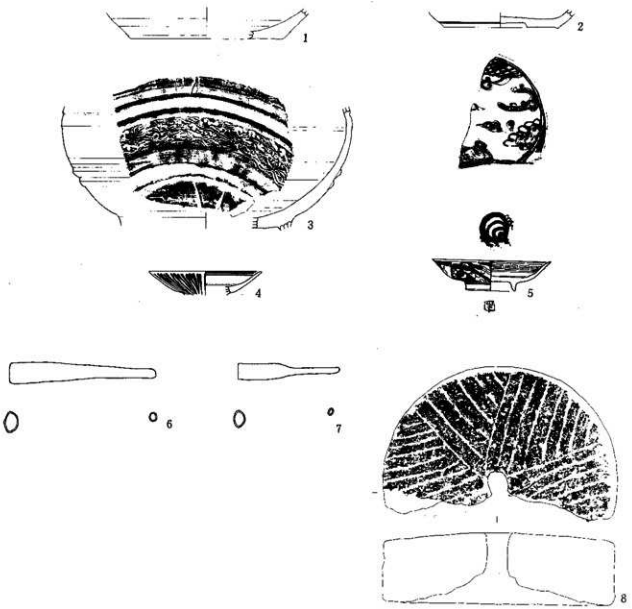
第21図　5・7号土壙出土遺物実測図（1／2）
（SK5－1、SK7－2・3）



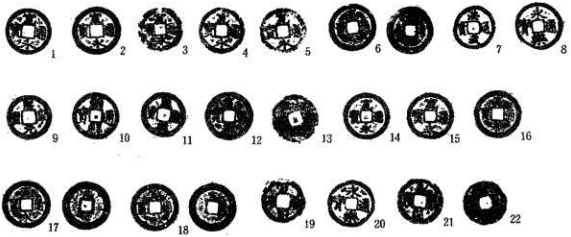
第22図　1号井戸出土遺物実測図（1／3）（平安－1、近世－2～8）



第23図　2号溝出土遺物実測図（1／3）（中近世）



第24図　遺構外出土遺物実測図（1／3）（近世）



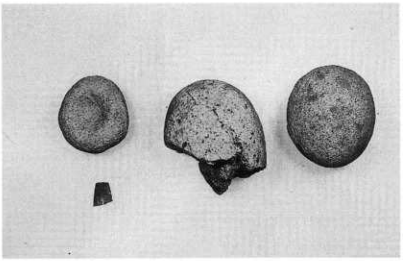
第25図　銭拓影実測図（１／２）

図　　版

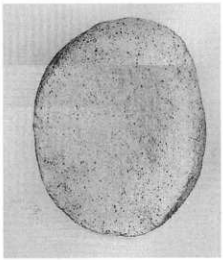
遺跡近景（北側より）

遺跡近景（西側より）

1　号　墓　壙



すり石、凹石

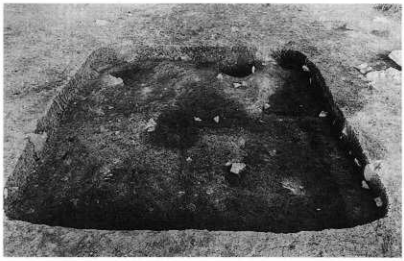


石　　皿

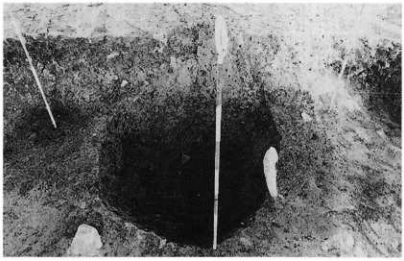
遺跡近景（北側より）

1号住居址

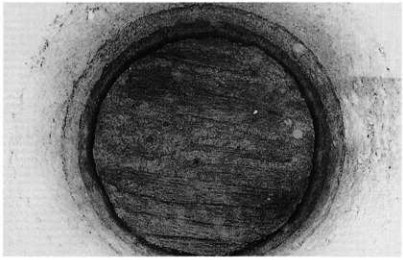
1号住居カマド址



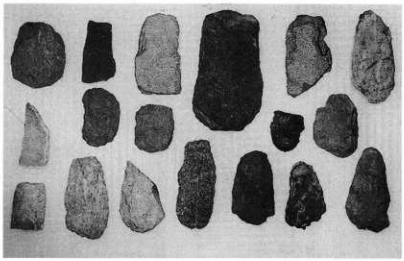
2号住居址



2号住居カマド址



1号土壙底部木片



打製石斧

陶器

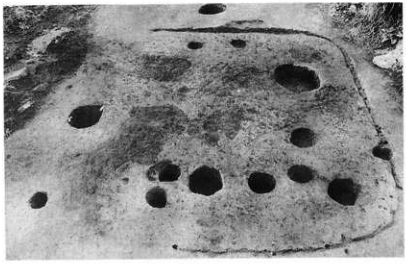
大明神　図版1

遺跡近景

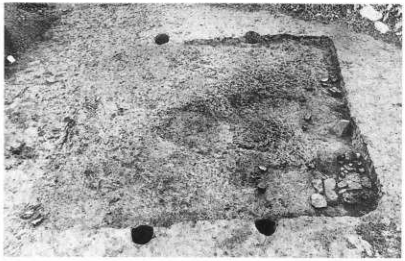
薬師堂　図版1

遺跡近景（西側より）

遺跡近景（北側より）

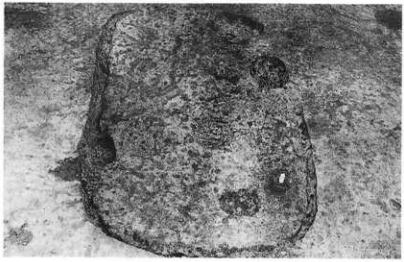


1号住居址

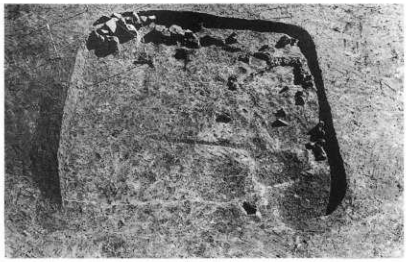


2号住居址

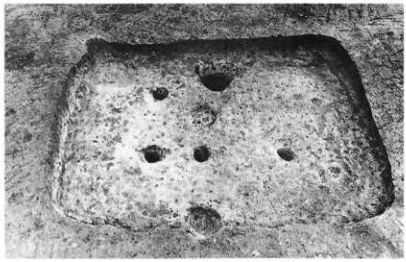
3号住居址



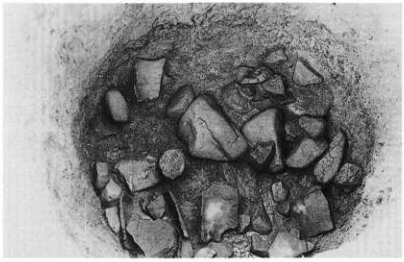
4号住居址



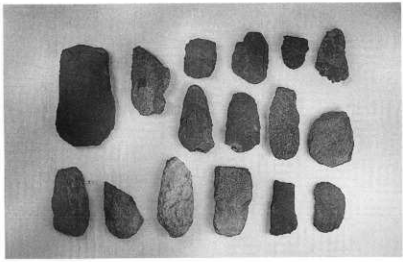
5号住居址



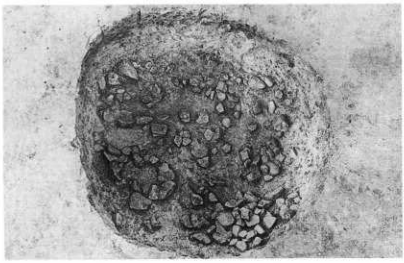
6号住居址



24号土坑



打製石斧

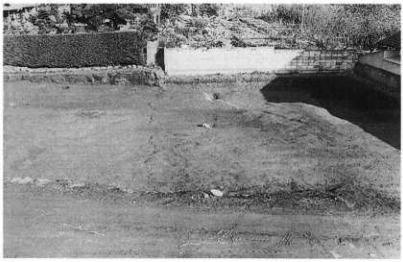


57号土坑

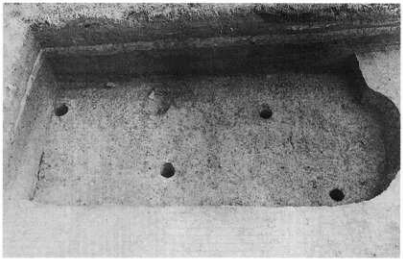
金

鉄　　鏃

遺跡近景（北側より）

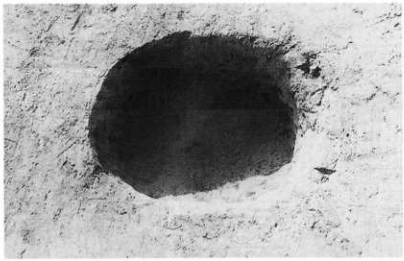


遺跡近景（西側より）



1 号 住 居 坑

1号住居址石囲い炉



1　号　土　坑

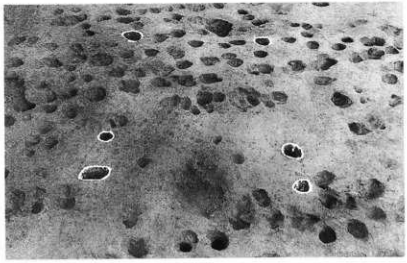
小　型　甕

遺跡近景（東側より）

遺跡近景（西側より）

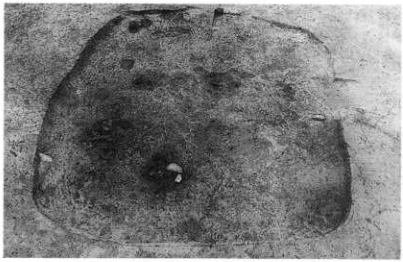
9 号 土 坑

遺跡近景（西側より）

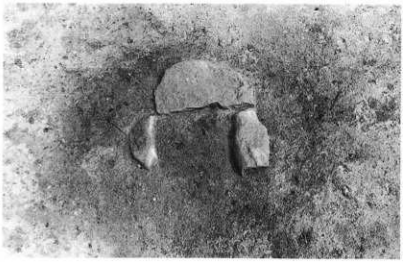


1 号 住 居 址

1号住居址石囲い炉

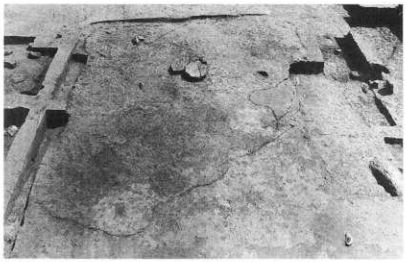


2号住居址

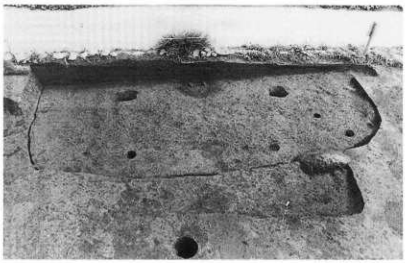


2号住居址石囲い炉

6号住居址



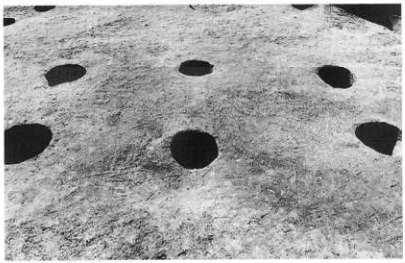
7号住居址



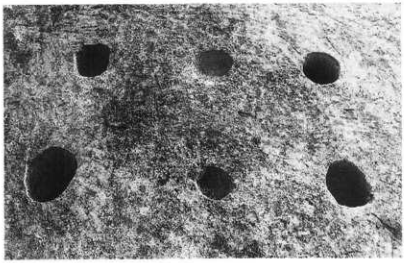
8号住居址

11号住居址

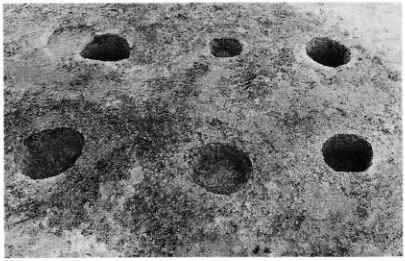
遺跡近景（北側より）



1号掘建柱建物址



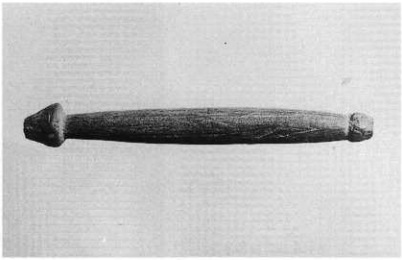
2号掘建柱建物址



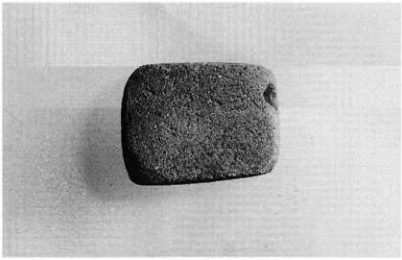
3号掘建柱建物址

土　坑　群

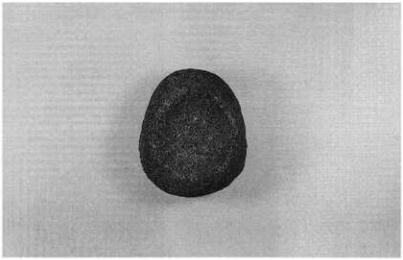
溝



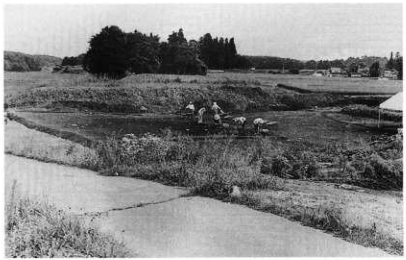
石　　棒



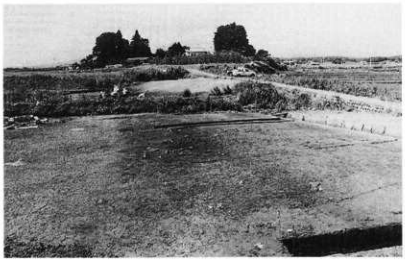
有孔方形土製品



小型石皿

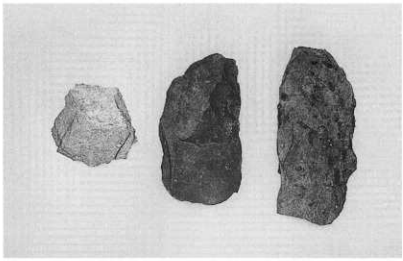


遺跡全景（北側より）

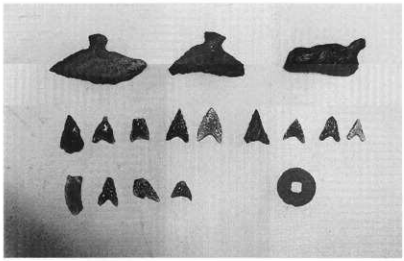


遺跡近景（南側より）

磨製石斧



打製石斧

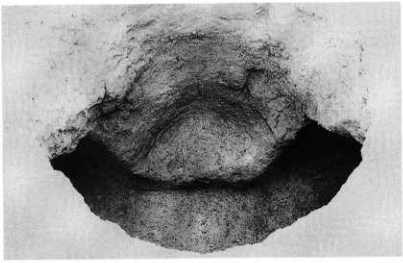


石匙・石鏃・銭

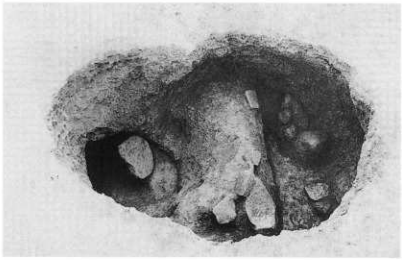
前　原　図版1

遺跡近景（西尾根）
（西側より）

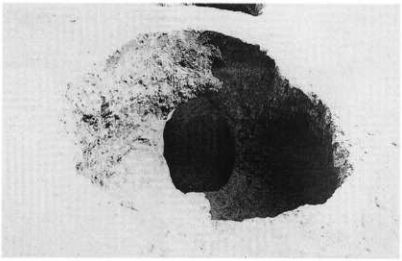
遺跡近景（東尾根）
（北側より）



1号地下式土壙

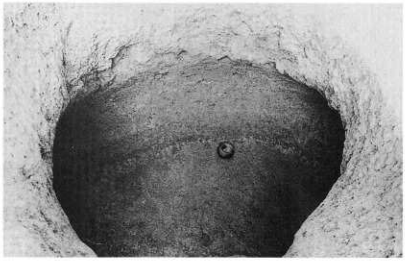


2号地下式土壙

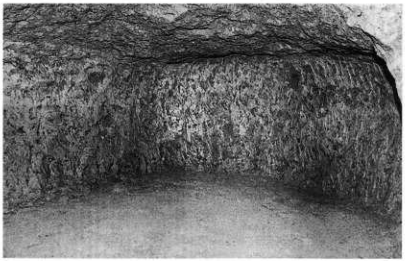


3号地下式土壙

3号地下式土壙
(内部)



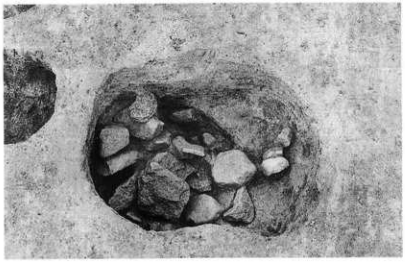
4号地下式土壙



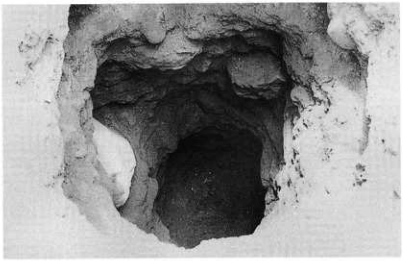
5号地下式土壙

1　号　土　壙

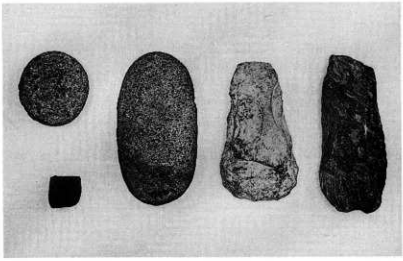
2 号 土 坑



3 号 土 坑



1 号 井 戸



打製石斧

報　告　書　概　要

ふりがな	つまのかみいせき、にしはらきたいせき、だいみょうじんいせき、やくしどういせき、あたりまちいせき、やくしどうひがしいせき、たかうちいせき、はらいえのまえいせき、いっぽんまついせき、まえはらいせき、けんえいほじょせいびじぎょうにともなうまいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ
書　名	妻の神遺跡、西原北遺跡、大明神遺跡、薬師堂遺跡、当り町遺跡、薬師堂東遺跡、高内遺跡、原家の前遺跡、一本松遺跡、前原遺跡、県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ	高根町埋蔵文化財
シリーズ番号	第10集
編著者名	雨宮正樹
発行者	高根町教育委員会
所在地	〒408－0002 山梨県北巨摩郡高根町村山北割3261番地　☎ 0551－47－3111
印刷所	アートプリント社　〒407－0024 山梨県韮崎市本町一丁目17番30号　☎ 0551－22－0840
発行年月	平成9（西暦1997）年3月31日
ふりがな	つまのかみいせき
所収遺跡	妻の神遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町堤字西の入46番地外
位置	北緯 35° 50′ 59″　東経 138° 25′ 20″
調査期間	昭和63年7月22日～昭和63年9月29日
調査面積	1,500 ㎡
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	江戸時代
主な遺構	土壙墓32基
主な遺物	近世陶器、キセル、銭
ふりがな	にしはらきたいせき
所収遺跡	西原北遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町村山西割字西原2339番地外
位置	北緯 35° 50′ 12″　東経 138° 24′ 20″
調査期間	平成元年2月1日～平成元年2月28日
調査面積	1,500 ㎡
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	平安時代、江戸時代
主な遺構	平安時代住居址2軒、土壙1基
主な遺物	平安時代土師器、近世陶器、銭
ふりがな	だいみょうじんいせき
所収遺跡	大明神遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町長沢字大明神2652－2番地外
位置	北緯 35° 51′ 57″　東経 138° 25′ 22″
調査期間	平成元年7月1日～平成元年7月10日
調査面積	500 ㎡
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	縄文時代
主な遺構	縄文土器

ふりがな	やくしどういせき
所収遺跡	薬師堂遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町長沢字薬師堂2812番地外
位置	北緯 35° 51′ 45″　東経 138° 25′ 27″
調査期間	平成元7月1日～平成元年10月31日
調査面積	8,000 ㎡
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	縄文時代、平安時代
主な遺構	縄文時代土坑63基、平安時代住居址6軒
主な遺物	縄文土器、平安時代土師器
特殊遺物	壁柱穴を伴う平安時代の住居址
ふりがな	あたりまちいせき
所収遺跡	当り町遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町村山西割字当り町76番地外
位置	北緯 35° 50′ 2″　東経 138° 24′ 48″
調査期間	平成2年10月1日～平成2年10月31日
調査面積	1,000 ㎡
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	弥生時代、江戸時代
主な遺構	弥生時代住居址1軒、土坑2基
主な遺物	弥生時代土器
ふりがな	やくしどうひがしいせき
所収遺跡	薬師堂東遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町長沢字薬師堂2808番地外
位置	北緯 35° 51′ 45″　東経 138° 25′ 31″
調査期間	平成2年11月1日～平成2年11月27日
調査面積	5,000 ㎡
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	縄文時代
主な遺構	土坑17基
主な遺物	縄文土器
ふりがな	たかうちいせき
所収遺跡	高内遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町村山西割字高内749番地外
位置	北緯 35° 49′ 39″　東経 138° 24′ 45″
調査期間	平成3年7月1日～平成3年9月30日
調査面積	2,000 ㎡
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	弥生時代、平安時代、中世
主な遺構	弥生時代住居址4軒、平安時代住居址7軒、竪穴遺構2基
主な遺物	弥生土器、平安時代土師器
特殊遺物	竪穴遺構出土炭化米

ふりがな	はらいえのまえいせき
所収遺跡	原家の前遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町長沢字原家の前2792－1番地外
位置	北緯 35° 51′ 50″　東経 138° 25′ 28″
調査期間	平成3年10月1日～平成3年12月27日
調査面積	8,000 ㎡
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	縄文時代、中世、江戸時代
主な遺構	縄文時代、中世、江戸時代の土坑173基
主な遺物	縄文時代土器
特殊遺物	小型石棒
ふりがな	いっぽんまついせき
所収遺跡	一本松遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町村山西割字一本松856番地外
位置	北緯 35° 49′ 52″　東経 138° 24′ 42″
調査期間	平成4年7月1日～平成4年8月31日
調査面積	1,000 ㎡
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	縄文時代、平安時代、中世
主な遺物	縄文土器、平安時代土師器、中世陶磁器
ふりがな	まえはらいせき
所収遺跡	前原遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町東井手字前原342番地外
位置	北緯 35° 51′ 22″　東経 138° 24′ 55″
調査期間	平成6年7月1日～平成6年8月10日
調査面積	3,000 ㎡
調査原因	県営ほ場整備事業
主な時代	中世・近世
主な遺構	地下式土壙5基、土坑5基、井戸1基
主な遺物	内耳土器、近世陶磁器
特殊遺物	石鉢

高根町埋蔵文化財　第10集
平成９年３月19日　印　刷
平成９年３月31日　発　行

妻の神遺跡
西原北遺跡
大明神遺跡
薬師堂遺跡
当り町遺跡
薬師堂東遺跡
高内遺跡
原家の前遺跡
一本松遺跡
前原遺跡

発行所　高根町教育委員会
印刷所　アートプリント社